

平成14年度  
第6回  
山口大学  
FD研修会報告書

日時 2002年8月1日～2日  
2002年9月24日～25日

場所 独立行政法人 国立山口徳地少年自然の家

山口大学大学教育機構

# はじめに

副学長・大学教育センター長

丸本 卓哉

本年度より、FD研修会の実施が年2回開催となった。従来の年1回開催、1回80～90名の参加者では、約850名の全教員が一通り研修に参加するのに約10年はかかることになるため年2回とし、4年くらいで必ず1回は研修できるように配慮したことによる。また、平成14年度より大学教育センターが発足し、専任のスタッフが配置されて、FD研修会の企画や実施体制が強化されたため、従来の講演会中心の研修会を変更した。すなわち、グループで授業を組み立てて、授業発表を行い、それを相互に評価して、授業改善を行うというワークショップ形式で実施することとした。私自身もグループの一員に入り、授業の組み立てに参加したが、今までにやったことがない方法（強制連結法）や、文系と理系の先生方の授業の組み立ての考え方の相違などに接して、大変興味深く、時間のたつのを忘れてしまう程であった。授業発表も各グループの特徴や発表者の個性が出て、大変有意義なワークショップになったと実感している。

研修会後の参加者アンケートは、総じて好評だったようである。今後もしばらくは、今回の形式に準じたワークショップを中心としたFD研修会を続けることになるが、学部や学科また各授業科目別部会においても独自のFD研修会を実施し、いずれ全学的に取り組むことになるピアレビュー（教員相互の授業評価と改善）に向けて準備を進めていただきたいと願っている。

# 平成14年度 第6回 山口大学FD研修会報告書

## 目 次

はじめに	副学長 大学教育センター長 丸本 卓哉
1. 平成14年度FD研修会実施要項.....	1
2. オリエンテーション.....	5
(開会の挨拶 [丸本副学長]・全体説明会)	
3. ワークショップの記録.....	17
(8月1 / 2日実施分)	
4. ワークショップの記録.....	52
(9月24 / 25日実施分)	
5. 学長講話.....	93
6. 全体講評.....	100
(全体講評 [林徳治教授]・閉会の挨拶 [小嶋副学長])	
7. 研修会資料.....	109
8. 模擬講義評価アンケートより.....	116
9. 研修会アンケート結果.....	120

## 平成14年度 第1回目(8月) 山口大学FD研修会実施要項

1. 主 旨 本学では、昨年度から山口大学教員能力開発専門委員会 (FD 専門委員会) を発足させ、全学展望に立った FD(Faculty Development)研修会を実施している。教員の資質向上のための研修は、大学設置基準に明記された義務であり、山口大学においても全教官が5年程度の期間内に1度は本研修会を受講することを、教育研究委員会で申し合わせている。

今年度は、昨年度に引き続き、年二回、各2日間の日程で「授業設計・実施・評価」の方法を学ぶ。参加者は、8名程度でグループに分かれ、各グループごとに、テーマに基づいて授業設計を行う。さらに、コンピュータ等を利用して必要な授業資料を準備し、20分程度のマイクロ・プレゼンテーションを実施する。また、実施された授業をもとに、全体で評価を行う予定である。

具体的な作業を通して、各自の授業技術の向上を図るとともに、山口大学の教育を担う教官同士の連帯に寄与することをねらいとする。

2. 主 催 山口大学大学教育機構

3. 日 程 平成14年 8月1日(木)～8月2日(金)

4. 場 所 独立行政法人 国立山口徳地少年自然の家

5. 参加者 **今まで一度もFD研修会を受講していない教官を対象とする。**

- (1) 医学部、工学部を除く各学部教官 60名  
人文学部 9名、教育学部 18名、経済学部 10名、理学部 12名、  
農学部 11名、 (医学部教官は任意参加)
- (2) 大学教育機構教官 3名程度
- (3) 県内大学教官 5名～10名程度
- (4) ファシリテータ 7名程度
- (5) 大学関係者 10名程度  
学長、副学長 外  
合計 90名前後

6. 経 費 5,000円(当日徴収、懇親会費を除いた約半額は、後日旅費より支給)

7. その他 参加者は、洗面道具、着替え、寝間着等を持参すること。

また、授業資料作成にコンピュータを用いるので、PowerPoint の使えるパソコンをお 持ちの方は持参ください。

## 8 . タイムテーブル 司会【植村主事】、懇親会司会【課長】

### 第一日目

9時40分	山口地区出発
10時40分	国立山口徳地少年自然の家到着
10時50分	オリエンテーション(学習室1)【沖】
11時00分	オリエンテーション(学習室1)【国立山口徳地少年自然の家】
11時15分	開会の挨拶(学習室1)【大学教育センター長】
11時30分	全体説明会(研修の流れの説明、学習室1)【沖】
12時00分	昼食(食堂、昼食後、各宿泊棟へ荷物を移動)
13時00分	ワークショップ(グループごとに作業ルームへ移動) (適宜休憩をとりながら授業設計、授業資料準備)
17時20分	ワークショップ 終了(各宿泊棟へ移動)
17時30分	入浴(~18時30分、大浴場)
19時00分	懇親会、自由討議(食堂)
22時00分	就寝(指定された宿泊棟)

### 第二日目

6時30分	起床、清掃、後片付け
7時30分	朝食(食堂)
8時30分	ワークショップ(学習室1)【植村主事】 (各グループ20分のマイクロ・ティーチングと10分の評価)
12時30分	昼食(食堂)
13時15分	学長講話(学習室1、質疑応答を含む)【学長】
14時00分	全体講評(学習室1)【林 徳治教授】
14時30分	閉会の挨拶(学習室1)【大学教育センター長】
14時40分	アンケート記入
14時50分	国立山口徳地少年自然の家出発
15時50分	山口地区到着、解散

## 平成14年度 第2回目(9月) 山口大学FD研修会実施要項

1. 主 旨 本学では、昨年度から山口大学教員能力開発専門委員会 (FD 専門委員会) を発足させ、全学展望に立った FD(Faculty Development)研修会を実施している。教員の資質向上のための研修は、大学設置基準に明記された義務であり、山口大学においても全教官が5年程度の期間内に1度は本研修会を受講することを、教育研究委員会で申し合わせている。

今年度は、昨年度に引き続き、年二回、各2日間の日程で「授業設計・実施・評価」の方法を学ぶ。参加者は、8名程度で班に分かれ、各班ごとに、テーマに基づいて授業設計を行う。さらに、コンピュータ等を利用して必要な授業資料を準備し、20分程度のマイクロ・プレゼンテーションを実施する。また、実施された授業をもとに、全体で評価を行う予定である。

具体的な作業を通して、各自の授業技術の向上を図るとともに、山口大学の教育を担う教官同士の連帯に寄与することをねらいとする。

2. 主 催 山口大学大学教育機構

3. 日 程 平成14年 9月24日(火)～9月25日(水)

4. 場 所 独立行政法人 国立山口徳地少年自然の家

5. 参加者

- (1) 人文学部 7名、教育学部 8名、経済学部 5名、理学部 6名  
農学部 3名、工学部 20名、医学部保健学科 2名
- (2) ファシリテータ 7名程度
- (3) 大学関係者 10名程度  
学長、副学長 他
- 合計 70名 前後

6. 経 費 5,000円(当日徴収、懇親会費を除いた約半額は、後日旅費より支給)

7. その他 参加者は、洗面道具、着替え、寝間着等を持参すること。

また、授業資料作成にコンピュータを用いるので、PowerPoint の使えるパソコンをお 持ちの方は持参ください。

8. タイムテーブル 司会【植村主事】

第一日目

8時30分	工学部出発
9時00分	山口地区出発
10時00分	国立山口徳地少年自然の家到着
10時10分	オリエンテーション(学習室1)【沖】
10時20分	オリエンテーション(学習室1)【国立山口徳地少年自然の家】
10時35分	開会の挨拶(学習室1)【大学教育センター長】
10時45分	全体説明会(研修の流れの説明、学習室1)【沖】
11時35分	ワークショップ(各班ごとに作業ルームへ移動、アイスブレーキング)
12時10分	昼食(食堂、昼食後、各宿泊棟へ荷物とシーツを移動)
13時00分	ワークショップ(各班ごとに作業ルームへ移動) (適宜休憩をとりながら授業設計、授業資料準備)
18時00分	ワークショップ 終了(遅くとも19:00には必ず終了すること。 その後、各宿泊棟へ移動後、入浴)
19時00分	懇親会、自由討議(食堂)
22時00分	就寝(指定された宿泊棟)

## 第二日目

6時30分	起床、清掃、後片付け
7時30分	朝食(食堂)
8時30分	ワークショップ(学習室1)【植村主事】 (各班20分のマイクロプレゼンテーションと10分の評価×3班)
10時00分	学長講話(学習室1、質疑応答を含む)【学長】
10時30分	ワークショップ 再開(残り4班、学習室1)【植村主事】
12時30分	昼食(食堂)
13時30分	授業評価アンケート結果公表と表彰(学習室1)
13時40分	全体講評(学習室1)【林 徳治教授】
14時15分	閉会の挨拶(学習室1)【大学教育センター長】
14時20分	アンケート記入
14時30分	国立山口徳地少年自然の家出発
15時30分	山口地区到着、解散
16時30分	宇部地区到着、解散

# オリエンテーション

開会の挨拶（丸本副学長）

全 体 説 明 会



# 開会の挨拶・全体説明会

## 司会(植村)

山口大学FD研修会の開会に先立ち、大学教育センター長の丸本副学長の方からごあいさつをいたします。

## 大学教育センター長(丸本副学長)

皆さんおはようございます。きょうは大変お忙しい中、FD研修会に参加いただきましてありがとうございます。私共も大分回を重ねてきておりますが、少しずつこのFD研修会のあり方がつかめてきたような状況にあるかと思っています。ワークショップ形式ということで皆様方に授業を組み立てていただき、それを発表していただくという形になっております。詳しくは後ほど説明があるかと思いますが、その中でメンバー表を見ていただきますと、理系の先生、文系の先生がごちゃまぜになっています。こういうことは逆に、私は大変いいことではないかと思っております。今回のこういう試みが、必ずしも先生方の日ごろの授業に直結するとは思っておりませんが、こういう考え方もある、またあるいはこういう授業の組み立て方もあるのだと御理解いただいて、それを今度は自分の授業の方でうまく使える部分を利用していただければありがたいと思っております。日ごろ文系と理系の先生方が一緒になってこんなことをするチャンスはめったにございませんので、戸惑いもあるかと思えますけれども、後でお話を聞きますと、文系の先生方というのはこんな考え方をするんだ、理系の先生はこんな考え方をするのだなという率直な感想を伺っておりまして、それがまた非常に自分の授業を再構築するときには何らかの役に立つのではないかと思っております。

1日半びっちり時間が詰まっておりますが、久しぶりに先生方が学生気分になって議論をしていただいて何かを掴み取っていただければと願っている次第です。先生方のご健闘を願っております。

## 司会(植村)

先生ありがとうございました。続きまして、大学教育センターの沖の方からこの全体の流れについての説明をいたします。

## 大学教育センター(沖)

失礼いたします。沖でございます。最初、ちょっと先ほど言い忘れたことがあるのですが、前回のこの研修会ではインターネットが使えるということで、事務室の方をお願いをして、夜遅くまで、また朝早くから対応をしてくださったのですが、ちょっと過剰な負担を事務の方におかけした次第で、今回はちょっと難しいという話です。したがって、パワーポイント等で明日発表していただくんですが、インターネットの方はもう使えないというふうにはお考えいただきたい、できるだけシンプルに、余り凝り過ぎないようにしていただければと思います。

それから、本日受付のところで先生方から参加費を徴収させていただいたんですが、そのうちの懇親会費を除いた部分につきましては、後日、教育センターの事務局の方から先生方にお返しできるように手続をしておりますので、半分は戻ってくるというふうにお考えいただければと思います。

それでは、僭越ですけれども、研修会の流れ、やり方について説明させていただきたいと思っております。

先生方はすでに御存じだと思いますが、今年の7月ぐらいでしたか、文部科学省の方から「特

色ある大学教育支援プログラム」というのが出てきております。例の21世紀COEプログラムに対比した形で、教育についてがんばっている大学・学部等を支援しようというので、全国で約100大学・学部、来年度予算で140億円程度を、補助金、私学助成金として重点的に配分していこうというものが出てきております。

山口大学としましては、教育を大切にする大学ということで今一生懸命やっているわけですから、正直言ってここに入らなければどうしようもないというところがあります。100校の中から山口大学が漏れるというようなことがあれば、もうこれは、今までの成果やこれからの方向性を問われるということになります。そういった意味で、当然、FDの研修会が非常に重要性を帯びてくるわけです。それと教育支援プログラムの観点には、教養教育重視というのがあります。また、語学、情報教育の重視、それから厳格な成績評価、さらに学生の満足度があります。これは、基本的には先生方にやっていただいている学生授業評価の満足度が大きな根拠資料になってくるかと思えます。先生方が学生授業評価を受けられて、満足度、有意義がどの程度出てくるか、これが一つの大きな根拠資料になってくるかと思えます。

ちょっとこれをご覧いただきたいのですが、学生が授業評価を行うときのメンタルモデルというものを考えてみました(Fig.1)。

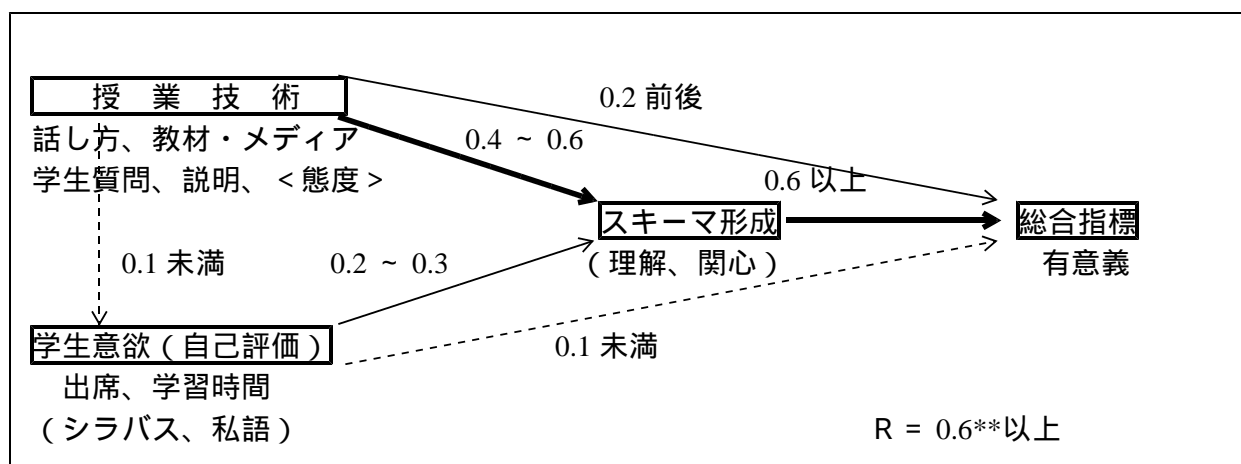


Fig.1 「学生が授業評価を行うときのメンタルモデル」  
( '99 後期山口大学共通教育学生授業評価データより作成 )

山口大学は、今までずっと学生授業評価をやってまいりまして、その膨大なデータが残っております。今現在は17項目の授業評価をやっていますが、毎回、そんなたくさんの項目で授業評価するのは学生さんが大変だということで、少し減らそうじゃないかという議論がFD委員会の方でございました。その中で、毎回 Semester ごとにできるのは、せいぜい10項目以下ぐらいじゃないだろうかという、そういう検討から入ったのですが、今までのデータを因子分析などで解析してみますと、各授業評価項目というのは幾つかの因子に分かれることが分かりました。はっきりいいますと、この授業技術という因子と、それから学生が自分で評価する学生意欲という因子、それから総合的な指標の因子、この大きく分けて3つの因子が抽出されました。

これはうちの大学だけではなく、他の大学の学生授業評価でも大体同じような傾向になっているようです。また、例えば総合的な科目であるとか、主題別の科目であるとか、あるいは実験系であるとか、理系基礎であるとか、どんな科目カテゴリーで分析しても大体同じような傾向が出てきます。

ここに書いてあるその項目、例えば「話し方」というのは、話し方がわかりやすかったか。「教材・メディア」というのは、黒板やプリントから始まってコンピューターやビデオなどが

効果的に使われたか。「学生質問」というのは、学生が質問しやすい雰囲気にあったか。「説明」というのは、理論とかテクニカルタームですね、そういうものがわかりやすく説明されたか、そういうような内容が含まれます。「有意義」というのは総合指標ですが、最終的にこの授業を受けたことが有意義であったかということです。

先ほど言いましたように、大学教育支援プログラムに選ばれるためには、授業に対する学生の満足度、有意義度を高める必要があります。そして、そのためには、先生方が授業技術を高めていただくことが重要だということが証明できれば、このFD研修会の目的といえますが、やりがいがあるということです。ところが、正直申しまして、実はそのとおりにはいきませんでした。レジュメに少し出してみました。実はこういう「スキーマ形成」という別の因子がここに潜在変数として入っていることが分かりました。「授業技術」は直接関わるのではなくて、その間にこういったものがかまされているということがわかってきました。それをパス係数で表してみると、「授業技術」をインプットすることによって、直接「有意義度」にかかわるのは0.2前後です。さらに、「学生意欲」のところ、出席をよくし授業外学習時間をたくさん持たせて、その結果、学生がこの授業を受けてよかったというのは0.1未満です。

ところが、先生が授業技術を向上させて、その結果出席が上がる、学習時間が上がるというのはあまりないようです。正直いって、もうちょっとあってほしかったのですが、実はあまりありませんでした。ただし、学生が一生懸命出席し、家庭内の学習時間を含めて頑張るということは当然学生の理解度を高めます。さらにその科目の内容について関心を深めていきます。また、同じく「授業技術」の向上も「スキーマ形成」を経由して有意義度の向上につながる、こういうモデルがはっきりしてきました。これは99年度後期であります。2000年度についてもやってみましたが、ほぼ同様の傾向です。様々な授業種でやったもの、年度でやったものをまとめて書いてみたので少しパス係数に幅が出ていますが、大体こんな傾向を持っています。

ここで大事なことは、とにかく各授業に対する学生の満足度を上げたい。そのために我々としてできるのは「授業技術」を向上させるということです。直接的な影響というのは、わずかに0.2前後だけれど、実は「スキーマ形成」という部分を通して、「授業技術」を上げれば学生がその授業に対する理解を深め、さらに関心を発展させて、授業が良かったなという結果につながります。このパス係数を見ていただきますと、いろんなところから「総合指標」につながっていきます。全部総合いたしますと、この「授業技術」ということがやはり授業に対する学生の満足度、有意義度に過半数の影響を持っているということが分かりました。

したがって、このFD研修会、根拠が何もない上に何でこんなしんどいことをしなければいけないのかという感じがしますが、FDというのは基本的に授業技術をインプットする研修ですから、ここを先生方がしっかりやっていただければ、学生の授業評価の総合指標は上がり、それが上がれば大学も教育支援プログラムの100校の中に入れるのではないかと、教育センターとしても非常に楽しみにしているところでございます。

ただ、基本的にはそのようなメカニクスは、講義を中心とした授業について言えるんじゃないかと思います。授業を改善するというと幾つかの側面がありまして、当然、授業の内容というのがあります。ただ、これは取り上げるのが難しいことです。と言うのも、先生方というのは当然それぞれの分野の専門家です。その授業の内容について検証をするというのは、この場では不可能です。部会でやるというのが適当ではないかと思います。また、学生からしても、ある学部に入学した場合には、当然その学部として必然的に決まってくる内容もあるでしょう。そういう意味で、内容について全体のFDで取り上げるのは難しいように思います。

もう一つに、授業の方法論があります。大学の授業研究についてはいろんなところから報告されていますが、その中の大きな方向の一つとして学生参画型の授業というものがあ

従来の講義のように一方的に知識伝達をするだけじゃなくて、学生が主体的に参加してやるものです。うちにも総合学習、総合型の講義科目、テーマがありますが、その多くがリレー講義で終わっているというのが現状です。そうではなくて、学生が、自分が入り込んで主体的に学習していく形の授業、そういった授業方法というのが大切で、現在たくさんの実践が出始めました。それについては、また、別の機会にお話しできればと思います。

現在、先生方が主にやっておられる講義型の授業、その中の大事なものを3点にまとめておきます ( Fig.2)。

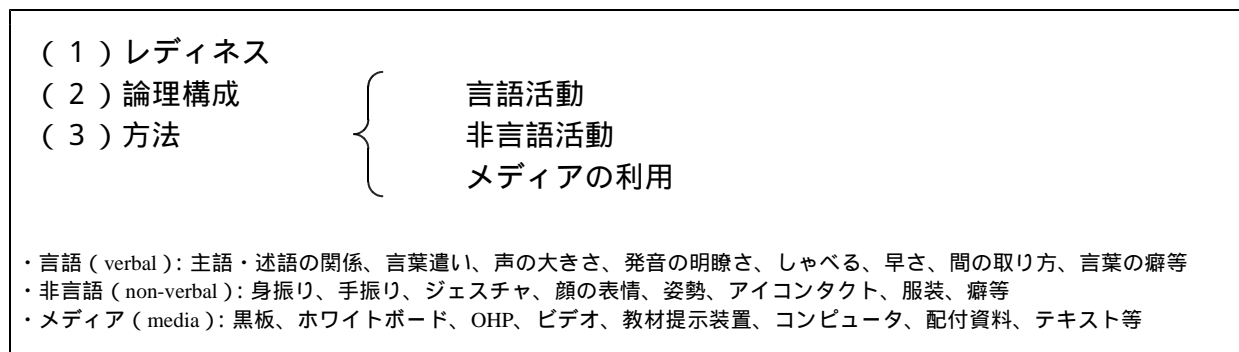


Fig.2 「良い講義の条件」

1点目は「レディネスの把握」です。レディネスというのは、受講生が事前に持っている知識や経験とお考えください。それは、常に変化しています。特に、学習指導要領が変わりまして、内容の3割減ということで、2006年にはそれを終えた高校生が入ってくるわけです。毎回毎回レディネスが変わってきます。それにどう対応するかという非常に大きな問題です。まず、「レディネスを把握」すること、それからそれに合わせてわかりやすい「論理構成」をする。そして講義の「方法」を工夫すること、大きく分けてこの3つがよい講義の条件といわれています。

「方法」の工夫の中にもさらに3点ぐらいあります。1つは「言語活動」、声の大きさ、早さ、あるいはくせですね。私は、教育方法学、教育工学が専門なのですが、小中高校の先生に授業を公開していただいて、生徒や他の先生にもご協力いただいて、その人の言葉のくせをチェックさせたことがあります。「ええ」とか「ああ」とかいう言葉、50分の授業の中に百何十回も出てきます。本人は全く気がつきません、ビデオで撮影しストップモーション等の方法で授業分析をしていきますと、そういったクセがいっぱい明らかになって、ご本人がびっくりされます。

それから、意外と重要なのに意識されないのが「非言語活動」です。表情、アイコンタクト、それから身ぶり手ぶり、こういったことの改善には訓練が必要です。本人はなかなか気がつかないところがあります。言葉をゆっくりとしゃべる。あるいは受講生を見ながら話すだけでも効果が大きく違います。このあたりも教育心理学ではいろんな実験があり、実証的な研究がされています。特に学生は最終的な授業評価をするときに、そういうことに引きずられる部分が大きくなります。

今ちょっと思い出した単純な事例ですが、お医者さんお二人に、両方とも名医であるという触れ込みで2つの部屋に分かれてもらいます。そこにおなか痛くなった患者さん100人において頂きます。一方のお医者さんは白衣を着ている、もう一方はGパン姿です。両方とも名医だよという情報を渡しているのに、99%は白衣の方に行ってしまう。それほど「非言語」というのは単純であるがゆえに大きな力を持っている。コミュニケーションの70%は「非言語コミュニケーション」で成り立っているという研究者もいます。このあたりは大学の教員の

非常に弱いところです。

3点目がメディアの利用になります。これはコンピューターやビデオ、黒板やペーパーの資料、それからこのマイクを含めてすべてですが、そういったメディアの利用のことを指しています。山口大学では情報コンセントを各教室に備え、できるだけいろんなやり方で授業ができるよう整備しているところです。明日の発表も、先生方、これらを使っていただきたいと考えております。

この大きく分けて(1)レディネス、(2)論理構成、(3)方法の3つ、(3)の方法にも3つ条件があります。これが講義に関して言えばいい講義の条件だと思います。学生授業評価の項目から見ますと、さきほど申しました「説明」という項目、つまり「わかりやすく説明されたか」ということですが、この評価項目を構成しているのは、学生の「レディネスの把握」と、わかりやすい「論理構成」の部分です。皆様方が講義で10年来同じ講義ノートを読んでいらっしやるとは思いますが、とかく大学の先生というのは、この学問形態はこれしかないのだから、これがわかってもらえないと困る、だから同じ講義ノートを使い続けるのだ、分からないならば学生が悪いという傾向が強いです。でも学生はどんどんわからない方向に向かっていきます。だから学生の現在の実態を知ることが重要なのです。学生授業評価で、「わかりやすく説明されたか」に悪い評点があるということは、わかりやすく説明されなかったということです。学生の「レディネスの把握」が不十分だったとお考え頂きたい。

それから、「話し方」ということもあります。これが先ほどの「方法」の「言語活動」の部分です。それから「態度」が「方法」の「非言語活動」に相当します。「教材・メディア」が「方法」の「メディア利用」に、それぞれに対応しております。

明日、先生方に、本日作って頂く授業設計をもとに、ご発表いただきます。その内容を先生方に、学生になっていただいて評価をしていただきたい。先ほど植村先生からもありましたけれど、先生方が専門の分野でお話しされるわけではありませんので、まな板の上の鯉になったつもりでやっていただきたい。きつい評価が出てくるかもしれませんが、それはそれで、先生方にとっていい勉強になるのだと思います。こういった形で明日はやっていきたいと思っております。

パワーポイントをずっとやっていると、必ず眠くなります。私は小学校、中学校、高校で指導助言を求められたときに、せいぜい10分から15分が限度と言っています。これはスポットで使うものです。資料、スライド、ビデオなどいろんなものを含めまして、スポットで使うのが正しい使い方です。そうしないと聞いている方は、寝てしまいますし、使いものになりません。

このレジュメの13ページ開いていただけますでしょうか。こういった形で今回研修をやらせていただいておりますが、先生方には20分のミニ講義をつくっていただくというのが今回のFD研修会の趣旨になります。去年は、総合科目に使うための15回分のシラバスを作っていたいただきました。今年は、20分のミニ講義を作っていただきます。それを明日、発表していただくという形になります。そのミニ講義の作り方ですけれどもいろんな方法があります。先ほどセンター長のお話もありましたように、これさえ知っておけばどんなところでも使えるというものがあれば一番楽なのですが、そういうわけにはいきません。先生方の刺激になるようなものを先生方にごらんいただきたい、研修していただきたい、汗を流していただきたいと考えています。今日、それに使うのは、イメージ・マップという方法です。イメージ・マップというのは非常にたくさんあります。簡単に言いますと、先生方の頭の中にあるものを「キーワード」、あるいは「スキーマ」でも「概念」でも「コンセプト」と呼んでもいいのですが、それらを紙に書いていただく。それをもとにグループ内で議論をしていただき、良い授業に仕立てていくという方法です。

紙に書くというのは、知識や概念を外化するという作業です。要するに外に出すわけです。言葉で言うと耳から入って外へ抜けて残りません。議論すると焦点がぼやけてくるということ

るがあります。しかし、イメージ・マップの特徴というのは、それを紙に書くことによってお互いに共有できます。レジユメには2点の効果を書いております。1番目は自分のスキーマ、自分の持っている知識概念と申しますか、それや関連知識のネットワークをメタ化する、対象化するという事です。メタ認知を増進するというようなことです。自分はそれを見ることによってリフレクションもできるし、他人と相談できる。それが2番目です。個人の頭の中にあるアイデアを他人にもアクセスできる形にすることにより先生方の中で議論を進められるということです。

よく使われるイメージ・マッピングの方法を4つ書かせていただいています。「概念地図法」という方法があります。これは小学校、中学校、高校なんかでも使っているところがありますが、授業前後のレディネスの調査に用いられます。その子供が授業前にはどういうレディネスを持っていたか。この授業が終わった後どういう知識を獲得したかといった部分をこの絵によって判定しようというものです。さらにこれを授業展開に使ってみようというものもそこに例を載せています。静岡大学の方の実践だったと思いますが、国語の授業で俳句を理解するのに、子供たち自身にこういう概念地図を描かせている。それから、算数ですね、それから理科、社会、いろんなところでこういう実践でやっております。

それから、次の14ページですが、イメージ・マップ・テストです。これは阪大におられた水越先生が考案されたものですね。イメージ・マップ・テストとか、いろんなものがあります。一番真ん中にキーワードを置いて、そこからどのような形でスキーマが伸びていくかというのを描いていく。あるまとまりを同心円に置いて、その子供がどんなふう知識を習得していくかという過程を見る方法です。映像を見せた前後で見する方法もあれば、問題解決学習で使っているところもあります。これを大学生を使っているところもあります。例えば、総合科目で各自テーマを決めさせ、それで調査させ、レポートをまとめさせる作業です。ところが、学生は一体何を調べていいのかわからない。そこで、二つ三つ例を挙げてやります。その中で学生に決めさせます。レジユメでは磁石ですか、磁石について自分が知っている内容、キーワードを書いていきます。さらにそこからスキーマを伸ばしていきます。そしてそれを統合するというグルーピングの作業をしますと、自分は何を知っていて、何がわかってないのか。知っている内容から、もっと知りたいことは何かと自分でつくってみるんです。それをさらに大きな円にし、調べた後、またそれに書き込んでいくということで、自分の問題解決の指標にしようと、そういう使い方をしているところもあります。こういう方法がイメージ・マップ・テストです。

それから3つ目のKJ法、これはもう御存じですね。昨年度のFD研修ではこれを使いました。シラバスの設計の中でKJ法を使って、山口大学の総合科目、主題別科目に何かいいものがないだろうかという作業で、使っていただきました。昨年、最も優れたものが「新山口百科辞典」というシラバスで、それは、この後期から実際に授業することになっています。これは、そういうブレン・ストーミングに使う方法ですね。

今回先生方にやっていただくのは、その下に書いてあります「強制連結法」です。「強制連結法... 林 徳治？」と書いてありますが、明日全体講評をしてくださる先生です。お名前の後ろに「？」をしているのは、先生が自分でつくったわけじゃないとおっしゃっているからです。この名前は恐らく林先生がネーミングされたもので、もともとの使い方はレディネスの調査です。だから、授業設計に使うというのは、実は今回初めての試みです。ちょっと、レジユメのその部分を読んでみます。「今までの授業はその科目の教えるべき内容から設計することが多かった。」大学の授業は、教養課程あるいは何々学部何々学科というので教えるべき内容から設計するというのが多かったわけです。「しかし、学習者のレディネスの変化に対応できず、結果として知識伝達の上でも十分な成果をあげられないことが多い。わかりやすい論理展開には学習者のレディネスへの配慮が不可欠であり、学習者のレディネスから出発する授業設計はできないだろうか？」という発想なのです。

その下に矢印を書いて、「大学生の学力低下、新入生の履修歴の多様化」、毎年、山口大学の一回生も知的レベルがすべて変わっている。レディネスの根底からひっくり返る。そういう中でいかに良い授業をつくり満足度を上げるかというのが大きな眼目になってくるわけです。

ただ、すべての授業にこれが使えというわけではありません。一番応用が難しい授業というのは、内容が厳格に決まっている数学などの科目でしょう。そういう科目には、授業の方法を変えたり、先ほど出しました「言語」「非言語」「メディアの活用」、このあたりを工夫することで対処していかなければならないと思います。

ただ、その下に書きました、主題別科目だとか総合科目、あるいは高大連携。先生方が高等学校へ行って、総合的な学習の時間に話をする機会も今後どんどん増えてきます。あるいは、市民講座の講師を依頼されたりするケースも増えてきています。これは増えざるを得ないし、増えていかないと山口大学の社会的な価値が認められていないということになります。そういうときに、大学教員に対する要望、期待というのが非常に増大します。ところが、どうしても先生方には、学会と山口大学の学生に対する経験しかない。そうすると外で話をされる大部分の授業というのは、「ああ眠かったな」というようなことになってしまいます。

私も少し経験があるのですが、JICA、国際協力事業団というのがあります。国際協力事業団は、様々な分野の専門家を発展途上国に派遣しています。日本の専門家が持っている知識、技能というのは世界一だと思います。それで、発展途上国の人々がその技術を伝えて欲しいと招くわけなのですが、なぜだかすこぶる評判が悪い。それは、大学の先生、研究者が行って伝える技術の内容についての不満ではなくて、向こうが望んでいるものとのギャップ、それからコミュニケーションが下手なこと、これでとても評判が悪いそうです。そこで、JICAが一生懸命やっているのは、専門家、派遣講師を送る際に、専門の種類を問わず、人前で「プレゼンテーションする方法」と「レディネスの把握」の方法を一生懸命事前に講習して送り出しているということです。これは大学の先生共通の悩みかもしれません。それでは電気を消してください。(パワーポイント利用の説明に入る。)

それでは、「強制連結法」のお話に入ります。もともと強制連結法というものは、先程言いましたが、「レディネスの把握」のためにつくられたものです。例えば、「ロケット」というキーワード、そして「ジャガイモ」というキーワード。この2つが、学生の頭にあったとします。

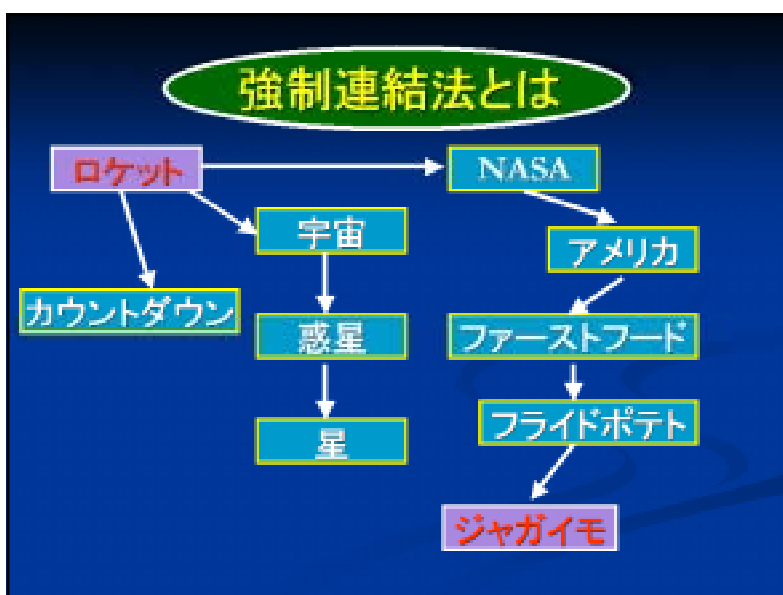
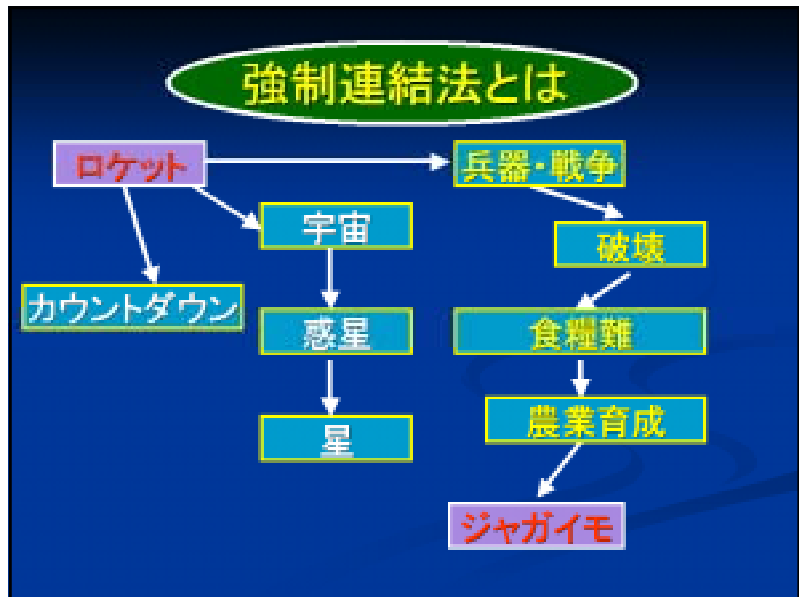


Fig.3 「強制連結法」  
(日本人学生のケース)

Fig.4 「強制連結法」  
(ミャンマーの学生のケース)



最初と最後のキーワード、スキーマは、どのように置いてもいいのですが、例えば前回習った授業のテーマ、今回の授業の学習目標でも構いません。何でも結構ですが、2つのキーワード、スキーマを書きます。その間に「連想」によってリンクを張りなさいというのが強制連結法です。連想によって無理やりリンクを張ってください。途中で行き詰まることもありますし、つながる場合もある。例えば、「ロケット」から「ジャガイモ」で、これは山口大学の林先生のやられたことですが、日本人の学生の多くはこんな連結をするそうです。「ロケット」「カウントダウン」。行き詰まってしまいました。次、「ロケット」が「宇宙」に行きます。「惑星」「星」、行き詰まりました。それでは次、「NASA」へ行きました。そして「アメリカ」「アメリカ」というのは「ファーストフード」「ファーストフード」と言えば「フライドポテト」がでてきた。それで「ジャガイモ」につながりました(Fig.3)。このように連想によってつなげてやるのが強制連結法です。ただ、連想によっても、あるスキーマに対する新しい概念というものは必ず前の概念に包摂されるという考え方があります。連想によっても、結局はその人の持っているスキーマやレディネスがあらわれるという考え方を、林先生はされております。今、お示ししたのは、「ロケット」と「ジャガイモ」についての日本人学生の標準的な反応だったそうです。

ところが、これをミャンマーからの留学生に試されたそうです。すると、「ロケット」から「兵器」「戦争」へ、さらに「破壊」「食料難」「農業育成」、だから「ジャガイモ」だ(Fig.4)。試されたのは少数の学生ですけれども、こういう流れでいったそうです。これが先ほど言いましたように、JICAから専門家として派遣されたときのギャップなのです。向こうの状況がわからない。向こうのレディネスを知らずに「フライドポテト」の話をして仕方がないわけです。向こうでは「ジャガイモ」というのは戦争から来る食料難に対応するためのものなのです。こういった観点が抜けていると、当然コミュニケーションが不足し、教えることが十分伝わらないことが起こってくるわけです。

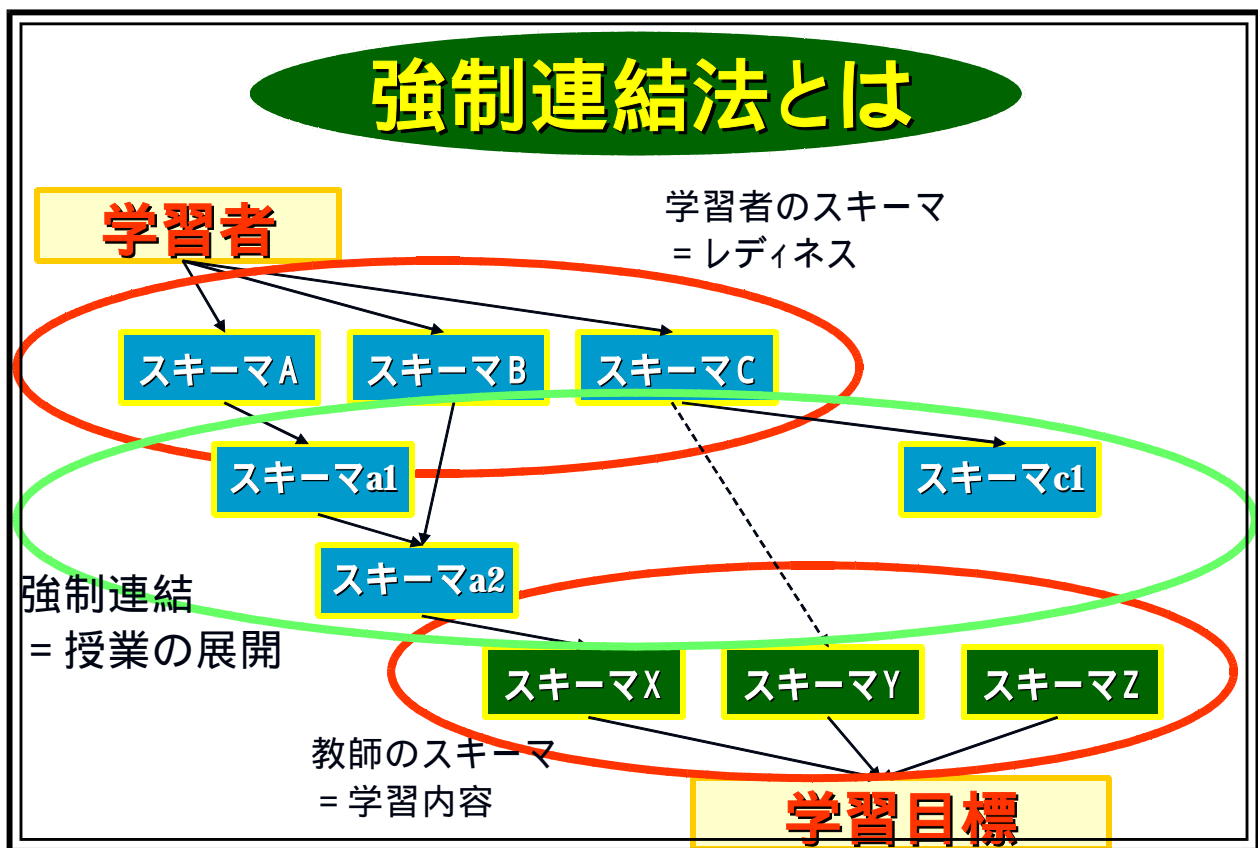
今回、こういう強制連結法に基づいて授業設計をやっていただきますが、実は1回目の強制連結法、この1回目のFD研修会では失敗しました。「ロケット」と「ジャガイモ」のかわりに「ワールドカップ」と「グローバリズム」にして、教える対象を「山大の1回生」にしました。「山大の1回生」に対して、「ワールドカップ」から「グローバリズム」までの強制連結をしていただき、それに基づいて授業を設計していただくという方法をやりました。そうしますと、連想ゲームみたいなものが、どんどんどんどん出てきました。ところが、それらを指導案



にするところで、そんな連想ゲームみたいなものをどうしたら指導案になるのだ、という問題になりました。結局、次の日の発表で、連想ゲームの結果を発表したり、あるいは、「みそ汁」と言えば「大豆」、「大豆」は...と、何かマンガチックに進んでいく授業があったりと、どうも思っていたような展開にできず、大きな反省点となりました。

そこで、今回は、その辺りをもう少し煮詰めてみました。今ここに書かせていただいたように(Fig.5)、「学習者」と「学習目標」の間を強制連結していただく。「学習目標」に幾つかスキーマがつながる。スキーマというのは概念と思ってもらって結構です。「学習目標」につながるスキーマというのは、先生方がこの授業にとって絶対に押さえなければならない内容だと考えることです。別の言い方しましたら、「学習内容」と思ってもらっても結構です。

Fig.5 「授業設計に用いる強制連結法」  
(学習者と学習目標を連結する)



「学習目標」は前回と同じく「グローバリズムとは何か」にいたしました。「グローバリズムとは何か」、それを学習者に理解させるような授業を20分でつくっていただくということです。「学習目標」につながるこの、「X、Y、Z」と書いていますが、これは当然もっとあっても結構ですし、少なくとも結構です。当然これを押さえておくべきだ、「グローバリズムとは何か」ということをわからせるためには「これ」になりましたというものです。

「学習者」からもまた幾つかスキーマが出てきます。これは何かといいますと、「学習者」からすぐに引き出せるもの。別の言葉で言いますと、これは「レディネス」になります。つまり、こっちが「教師のスキーマ=学習内容」で、こっちが「学習者のスキーマ=レディネス」になります。この間を何とかつなげていってほしい。単なる連想ではなくて、これをそのまま指導案にしたいと思います。だから、このスキーマAをより深く説明する内容、このスキーマから反対の内容、類似した内容、いろんな展開の仕方がありますね。この間をつなげていって

ほしいのです。スキーマBからこっちに来ることもあります。さらにスキーマCから幾つかのスキーマを通してスキーマYに行くこともあります。全然違う方に行って、こっちに来られないところもあると思います。これは失敗です。ここでスキーマZは使っていません。ということは、学習者のレディネスを考えたときには、この内容は省かざるを得ないということです。そういったことを加えます。

先ほどのJICAの例ですが、これに近いことを実は昔からやっていました。例えばある講習会、JICAの専門家派遣の事前講習会で、「マルチメディアとは何かを説明しなさい」という講習会をやっていました。当時はコンピュータではなく、OHPを用いていましたが、各自書いたもので順番に説明していきます。コンピュータとか情報機器の専門家とかが、いきなり専門用語を使って5分間で説明します。ところが、案の定、それが伝わらない。実は、そういう事態が起こることを気づかせる事前講習会なのですが、やはり、相手のレディネスへの配慮を全く心がけない説明をする専門家が大多数なわけです。そこで、そういう気づきをもう少し見やすくし、後で先生方に議論をしていただきやすくしたものが、この「授業設計に用いる強制連結法」だとお考えになって欲しいと思います。つまり、常に一番最初に、「学習者」を見えるような形で提示し、そのレディネスを明らかにしておきます。そうしますと、「ああ、今はそんな説明してもしょうがないな」というのが見えてきます。だから、「学習者」と「学習目標」とを強制連結して、これによって授業をつくれれば、相手のことを常に考えた、レディネスのことを考えた授業設計、そして無理のない展開ができるだろうと、こういう意図になるわけです。

これが今回やっていただく強制連結法です。「学習目標」は「グローバリズムとは何か」です。「学習者」は何かといたしますと。ちょっと電気をつけてください。(ここでパワーポイントは終了)

お手元のレジュメの6ページをあけていただければでしょうか。手順2というところで、「学習者」を決めるというのがございます。今回、「学習者」に5通り選択肢がございます。

1つ目は「山口大学に学ぶ中華人民共和国からの留学生」、山口大学の留学生を想定してください。それから2つ目は「市民講座に参加した山口市民」、年齢層や性別は自由に想定してください。例えば65歳以上のおじいさんが多いなら多くしてもらって結構です。

3つ目は、「山口大学の今年の新生」、今年先生方が教えられた1回生を想定してください。もう3年前、5年前とは違うと思います。

そして4番目、「山口市内の公立中学校3年生」、それくらいのお子さんがいらっしゃったらイメージが湧くかもしれません。総合的な学習の時間というのが今年から授業に入っています。その特別講師として自分の専門の話をしに行くように思われたらいいのではないのでしょうか。

最後に5つ目は、「シルバー大学の参加者」、先ほどの2番目と言うことが重なりましたが、65歳以上の高齢者を想定してください。先ほど2番目の市民講座はざっくりばらんなことで考えていただいて結構です。この5つの中から全部で班が7つあります。別に重なっても構いませんが、各班で学習者を1つ決めてください。さらに附帯条件がありましたら、例えば市民講座をもう少し厳密に規定しようというならそこで決めていただいて結構です。とにかく班で1つ決めていただいて、先ほどありましたように「グローバリズムとは何か」を、その対象者に説明する、講義する、そういう授業を作っていただきたいと思います。

明日の模擬授業は、先生方がここに立っていただきまして、最初に受講者を誰に決めたいかを述べてください。例えば「公立中学校の3年生」を対象にするとおっしゃってください。そこで授業の受講生である先生方も公立中学校の3年生になっていただきたい。「65歳以上のシルバー層」と言われたら65歳のシルバー層になって受講していただきたい。授業者もそのふりでやっていただきますので、前回の研修時にも、「はい、君!」といった感じで、「はい君、

ちょっと君に答えてもらうからね」とこんなぐあいになるかと思います。先生方も受講対象者になり切ってやっていただいて、授業アンケートもそのように書いていただきたい。当然、ご自分の専門の立場から、文句を言いたいことがいっぱいあると思いますが、そうではなくて学習者になりきっていただきたいと思います。

こんな形で進めます。実際、やってみたらどうであろうかという例を示します。レジユメの16ページを開いてください。講義例として書いております。私が、この8月に大阪の方に呼ばれて話をさせていただいたものです。高校3年生に話をしてくれということでした。タイトルが「仮想現実と性的問題行動」で、50分間の授業でした。これを強制連結法でつくってみました。高校3年生というのが「対象=学習者」です。一番下は、「学習目標」で先方の先生から頼まれたのは、「ゲームの正しい使い方と、つき合い方」でした。コンピューターゲーム、テレビゲームとの正しいつき合い方について話をして欲しいということでした。本当は、どちらから作ってもいいのですが、私自身が長く研究をしていた部分でしたので、「ゲームとの正しいつき合い方」という「学習内容」は私の中で既に決まっていた。テレビゲームの攻撃性、暴力を促進するような効果、攻撃性の部分とそれから特別な感情を芽生えさせる特有な気分、この2点については生徒たちに押さえる必要があるだろう。それらをあわせて「性的問題行動」と呼んでいるんですが、そういったものを押さえたいというのが先にありました。下から作るのがいいか、上から作るのいいかは、それぞれです。我々教員というのは学習内容を既定してこれだけの物はあるというのを先に持っていますので、下から作る例が多いみたいです。

次に、高校3年生のレディネスはどうだろうかということです。いきなり難しい話はできませんので、ゲームの種類の話、ゲームの経験の話、それからゲーム会社のこと、その歴史のこなど。ゲーム会社や歴史の話始めてしまって、私自身がとまらなくなりましたので、途中で打ち切りました。他に遊び方や良い影響、悪い影響、ずっと紙や黒板に書いて出させて、途中それぞれ脱線することもありましたが、最終的に事例紹介を経て、こちらの「目的=学習内容」に持って行きました。学校側でアンケートをとりましたら、95%ぐらい、「非常によくわかったし、楽しく聞けた」という評価が返ってきました。

ここに書いてあるのは単に連想でつないただけではありません。むしろこのイメージというのは先生方が講演を頼まれて授業をするときのレジユメみたいなものです。例えばレジユメの中で、内容ごとに章を立てますね。その章に小さな節をつける。それを受講者に事前に配付して、自分の講義中に書き込んでくださいと言いますね。レジユメとこのイメージ・マップと何が違うかと言えば、イメージ・マップでは知識を外化していますので、常に高校3年生が見えているわけです。レディネスを意識せざるを得ないのです。

例えば、レジユメの3番目の項目というのは1番目の項目とどういう関連があるのか、なかなか見えにくいですが、この形で書きますと、これはゲームの種類のところから流れてきた話だな、というのは自分の中で常に意識ができるわけです。

これは、自分1人の中でリフレクションをやったわけですが、皆さん方に、今日はこれを班の中でやっていただきたいのです。班の中で、私はこう考える、いやこの線はおかしいと。いや、この前にこういうスキーマを入れるべきだというように、他人と議論ができる。そういったことが重要なのです。最終的には先生方、この16ページに書いたような、こんな流れ図やイメージ・マップをつくっていただければ結構です。その流れを見れば、授業するときどういう順番に話をしていったらいいかというのは一目瞭然です。これを別に指導案、講義案みたいに書き直す必要はありません。このままでやっていただいて結構です。その中で、例えば、ここにはパワーポイントのスライドをつけようとか、このところはOHPを使うとかいうことを、イメージ・マップの各スキーマの下に書いていただければより分かりやすいです。私の講義案の場合だったら、ここ、「情報倫理」のところと「心身の健康」、「心身の発達」、「事例紹介」、「攻撃性」、「特有な気分」に網かけしてあります。この部分にはパワーポイントのス

ライドを使つということです。

先生方が講義や講演をされるときのレジュメ、あのレジュメの項目が講義の流れとともに書いてあるとお考えいただければ結構です。さらに常に学習者のレディネスを意識するようになっているとお考えください。

以上が強制連結法による授業設計です。それでは、ワークショップ1、2の流れを若干、簡単に説明させていただきたいと思います。

この話が終わりましたら、すぐに先生方は研修室の方に御移動願います。研修室で、12時10分まで、まずアイスブレイキングをしてください。レジュメの4ページ、5ページです。お1人3分程度で自己紹介していただきます。しゃべり過ぎるのも少な過ぎるのも困ります。お名前、学部、ご専門、少しくだけて昨日の夕食はどんなものであった、どこでだれとどのように召し上がったか、語弊がない程度で結構ですでお話をお願いします。

このように手順1から手順の10まで、全部各作業が所要時間と合わせてこの中に書いてございます。手順10までをきょうの午後6時までに終わっていただきます。基本的に班の中でリーダーの方とタイム・キーパーの方とで相談しながら進めていって、適宜休憩の時間も班の中でとっていただければと思います。びっしり5時間ということではございません。切りのいいところで休憩をとっていただきたいと思います。

何かわからないところがありましたら各班についております大学教育センターのスタッフのファシリテーターに連絡をしていただきたいと思います。



- 丸本副学長の挨拶 -

# ワークショップの記録 ( 8月1 / 2日実施 )

# ワークショップの記録（8月1 / 2日実施分）

## 司会(植村)

おはようございます。昨晚から今朝まで非常に熱心に研修にお付き合いいただき、有り難うございます。

大変お疲れかもしれませんが、これからワークショップを行いたいと思います。時間は各班20分ほど取っております。5分前に準備を行い、できるだけ時間厳守に行いたいと思います。発表後に質問等を行いまして、学生授業評価を行っていただきます。その際に、注意していただきたいのは自分の班には投票しないということです。ささやかでは有りますが、1、2、3位には賞を差し上げるようになっておりますので宜しくお願いいたします。それでは第1班から宜しくお願いいたします。

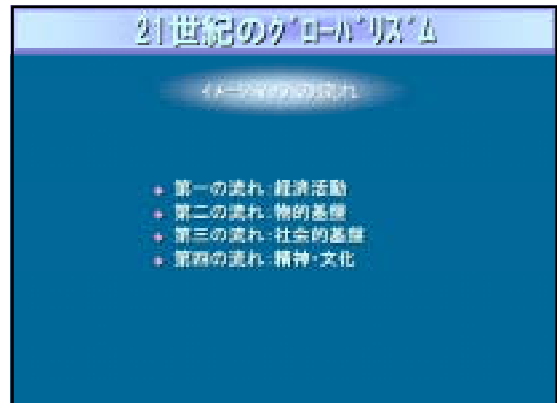


Fig.1

## 1班:発表者:熊谷(教育)

トラブルで発表が遅れまして申し訳ございません。1班です。昨日夜遅くまで飲み過ぎて全然練習をしていませんので、すみませんという言い訳から始めさせていただきたいと思います。お手元のレジュメの方にPowerPointと同じ内容があるかと思います。まず、1班では画面であります通り、4つの大きな流れが抽出されました。

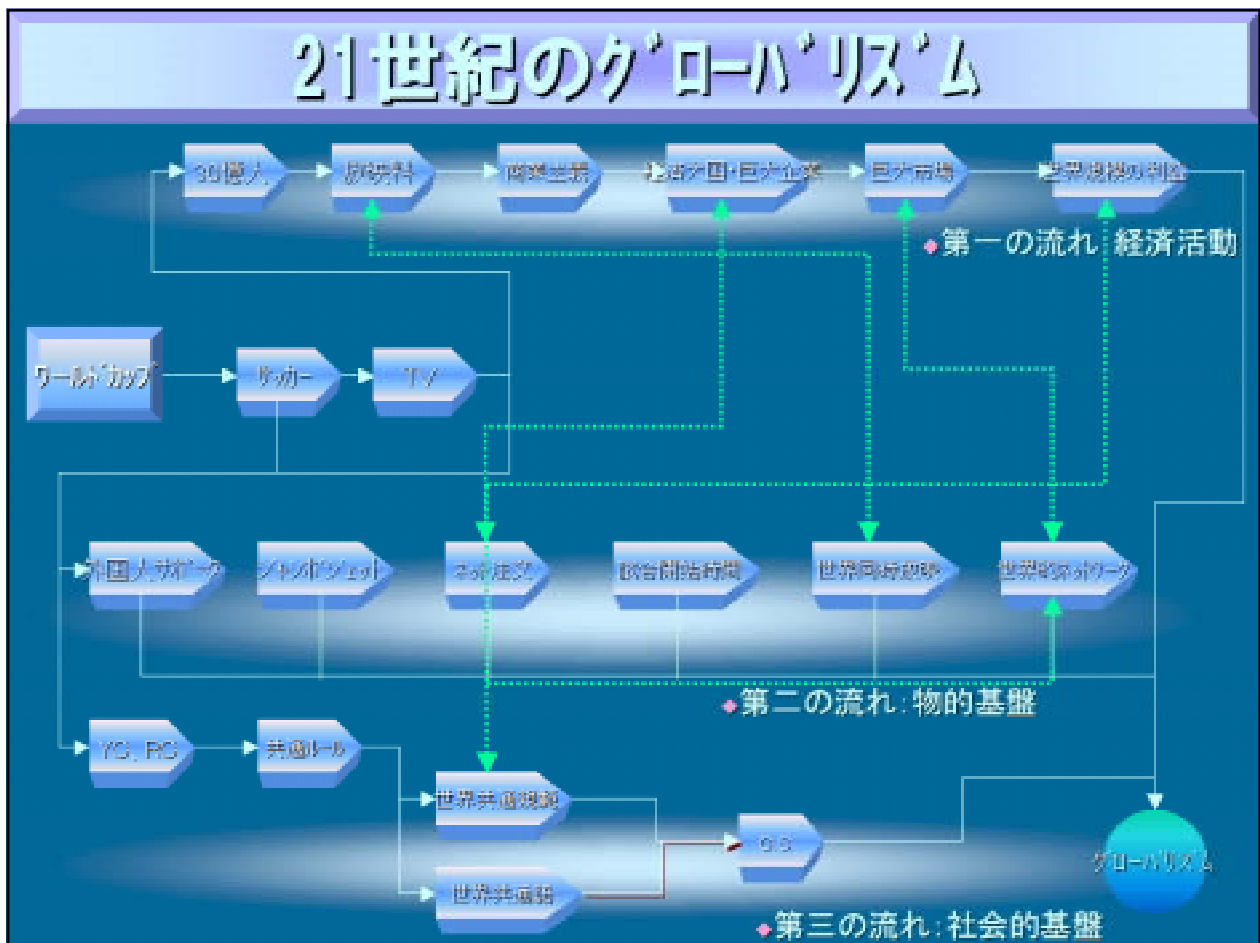


Fig.2

1つ目は「経済活動」、2つ目は「物的基盤」、3つ目は「社会的基盤」、4つ目は「精神・文化」となっております。それぞれのスキームは画面通りになっております(Fig.1)。

一覧にしておりませんので少し見難いのですが、第1の流れ、第2の流れが2番目、第3の流れが3番目です。第4の流れが2つ有りまして上の方がグローバリズムに到達できるスキーム、下の方が到達できないスキームになっております。計4つの大きな流れを形成することができました(Fig.2)。

それぞれの大きな流れについてご説明したいと思います。まず、「ワールドカップ」、次に「サッカー」、「テレビ」、次に日立が観戦した、次に放映料というのが当然動きますので「放映料」、この放映料を巡ってすったもんだがあったのを皆様いろいろご存じと思います。そのような意味での「商業主義」。このように世界規模で放映料、放映権が動くということは当然動くお金も大きく、裏で動く巨大企業や放映権を占領できる企業があるということから「経済大国・巨大企業」というのが出てきて、次に動くのが「市場」です。巨大な市場であれば、そこから動く利潤やお金も大きいのでグローバリズムに到達します。

次に物的基盤ですが、「サッカー」、「テレビ」は第1の流れと同じです。「テレビ」に続くキーワードとして「外国人サポーター」、「ジャンボジェット」、「ネット注文」、「試合開始時間」、「世界同時放映」、「世界的ネットワーク」が出てきます。これはそれぞれのキーワードが次に続いていくと言うよりも、どれも並列であり、このキーワードが直接グローバリズムに直結しているという意味です。ここでスキームは一言で表現すると、同時、同時発生的であるということが言えると思います。ここで「世界時間」と記載されている緑色のマークがあると思いますが、このマークは学生に対して説明する際に、学生により流れを理解してもらうために、効果がある身近なキーワードを出しております。例えば、「世界時間」というキーワードはWindowsに「世界時計」という設定があります。自分の身近にある一つの事例を通して、同時発生的という意識を持つために、1つの具体的なものとして緑のマークをつけております。

3つ目の流れは世界的基盤です。「ワールドカップ」から「サッカー」、「サッカー」といえば「イエローカード、レッドカード」。次に「共通ルール」。更に「共通ルール」が達成する言葉として、「世界共通規範」、「世界共通語」と続きます。共通使用はまさにグローバルスタンダードであり、グローバリズムに直結できます。ここでWindowsが英語として緑のマークにされていますが、世界共通語、世界規範で学生が身近に感じているもので共通しているのはやはり、パソコンがあげられます。パソコンは1つの身近な例として挙げられるので緑のマークにしております。そしてグローバルスタンダードがグローバリズムに直結するので、「標準化」という大きな言葉でくくってみました。

次に第4の流れ、「精神・文化」(Fig.3)。「ワールドカップ」と言えば、「ベッカム」。週刊誌を賑わせたベッカム選手ですが、有名になったのは「ヘアメイク」です。そのようなものは「メディア」によって広められ、徐々に「均一化」していきます。「均一化」することによって、情報の濃度というのは「浅薄化」していきませんが、しかしながらそれはまさに「人為的価値の創出」であり、人為的価値の創出というのは「世界的モード」であるということが言えます。この「世界的モード」というのがグローバリズムに繋がっていくことをこの図は示しています。ここにまた緑色のキーワードを用意しておりますが、例えばイギリス旅行です。ニュースでも話題になりましたベッカム選手の影響かどうかはしりませんが、イギリス旅行が最近非常に賑わっております。これは明らかにメディアの情報操作によることです。これが浅薄、人為的価値創出を意識化する上で重要なファクターになりますので挙げさせて頂きました。また、人為的価値創出には、日韓共同企画事業が最近行われています。これも、グローバリズムというもの広がっていく中での1つの価値創出の現れの事例であるといえます。この流れは意識の共有化という言葉で大きく括ってみました。

次に第4の流れの「アンチグローバリズム」のほうですが、こちらはまず「サッカーリーグ」に繋がります。「サッカーリーグ」から「欧州中心主義」。「欧州中心主義」というのは「地域主義」であり、これは具体的な例として「韓国サポーター赤一色」というのが挙げられます。まさに、あれは「愛国主義」の表れ

であって、この「愛国主義」は、グローバリズムに対する1つの反作用になります。この流れはアンチグローバリズムの具体的な例として挙げました。この流れを意識のブロック化という、更に大きな言葉で括ってみました。この流れを更に学生が身近な例で知るための要素として、「サッカーリーグ」、「貧しい国のスポーツ」、「日露戦争」。今回ロシアと日本の試合の時に、よく「日露戦争」が報道されましたが、そのようなワールドカップはアンチグローバリズムに繋がります。南北問題もあるでしょうし、劇的な経緯のある国の中で意識の違いがでてアンチグローバリズムになるという流れもあるかと思えます。

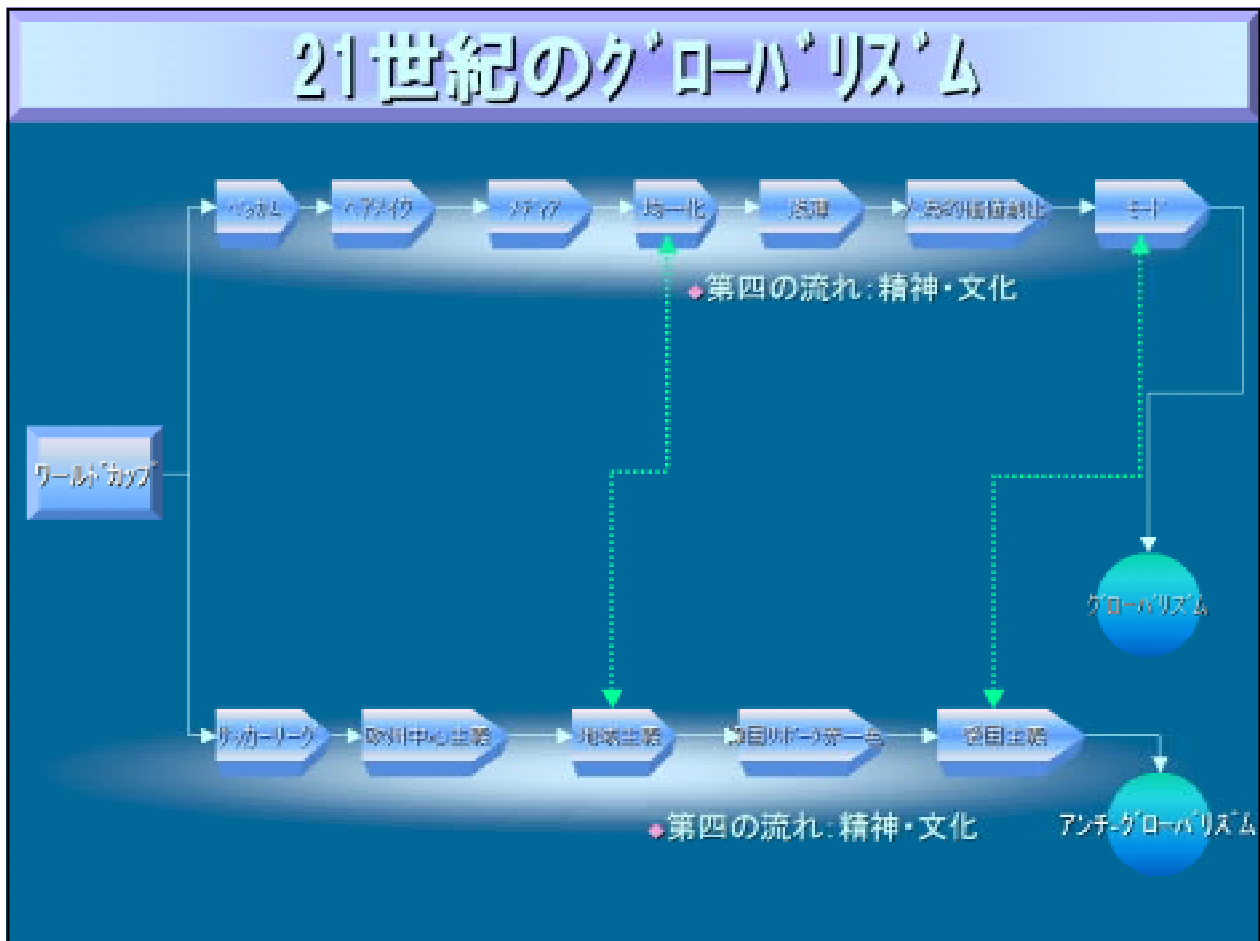


Fig.3

まとめの文章がなくて申し訳ないのですが、このように、色々な視点から4つのスキーマが得られ、さらに4つの流れ毎に、このスキーマ同士の繋がりを外のキーワードで結んでいくという作業を行いました。それは先ほど申し上げました、標準化ですとか、意識の共有化、意識のブロック化、同時発生的という言葉に絞り込めました。グローバリズムという言葉のイメージがインフレーションを起こしていて、学生のレベルや習得した知識によって様々な理解や経路があるため、いくつかのスキーマを作り上げることは良いのですが、作り上げたスキーマに対してどのようなアプローチから説明すればよいのかと提示する側でより意識化するために、緑のマークで括ったようなキーワードを設けて受講者に対して寄りよい理解の尺度、切り口を与えるためにこのような作業を行いました。

つたない発表で申し訳ありませんが、一応これで1班の発表を終わらせて頂きます。

**司会(植村)**

それではご質問はありませんでしょうか。



### 前田(経済)

私の理解が間違っていたら申し訳ないのですが、レジュメの11ページに、「あたかも実際に講義を行っているかのように」とあります。ただ今きかせていただいた内容の印象を言えば、「自分たちの班はこうだった。」というプレゼンテーションに聞こえてしまったのですが。

### 発表者:熊谷(教育)

まさにご指摘の通りです。学生に対して説明するということは、書いてある通り、分かっていたのですが、そうするとこのスキーマの流れというのを学生に説明することになりますよ。スキーマの説明というのは、自分達の班が得たものですから、教える側が得たスキーマを教わる側に説明するという風に、解釈したのですが。ただ、最後の方の説明は、想定していた学生というよりは、今まさにイメージトレーニングをした先生方に対してのものだったと思います。

### 前田(経済)

実際、流暢に話されていたと思うのですが、私達聞いている側からしますと、耳には入るのですが、自分の頭の中で「こうなのだ。」と理解するには早いのではないかなと思いました。それと、PowerPointの資料があるのですが、遠くからは小さくて見えませんでした。

### 発表者:熊谷(教育)

たしかに、見えにくいですね。すみません。

### 司会(植村)

授業評価を今、お願いしているのですが、同じ班の人、1班の人は書かないでください。それから1年生のつもりになって、評価をし、書いてください。1班、有り難うございました。



- ワークショップ風景(班内の話し合いの様子) -  
<写真と本文とは関係ありません>

### 第1班参加記

夏真っ盛りの8月、平成14年度第1回FD研修会は実施された。会場の国立山口徳地少年自然の家は、澄み切った夏空の雲の間に間に光に彩られた風がそよぎ、心地よい天然クーラーのきいた場所であった。そんななか、われわれ1班のワークショップでの討議はヒートアップ、山間の爽やかな風が時にそんな頭を空冷してくれた。

さてアイスブレーキングを兼ねた自己紹介の後、進行役を決め本題に移った。今回、研修者に課せられたことは「強制連結法による授業設計」とその実演であった。

第一作業は、「動機付け」のスキーマを「ワールドカップ」、学習目標を「グローバリズム」として、各自がメールマップを作成。この作業後、講義対象者が大学一年生であることが追加条件として告げられ、各自スキーマを再検討した。第二に各自がイメージマップを持ち時間5分で班員にプレゼン。第三手順からは共同作業となった。各自のプレゼンを受けて、メンバーのイメージマップを統廃合し、班としての新たなイメージマップを作成し、講義素案とした。ちなみに、各自が提示したスキーマ総数は百数十にも達していた。

第四手順では、学習対象者である大学一年生の「既習度」や「獲得スキーマ」に考慮しながら、百数十のスキーマをグループ化した。本班では「経済活動」「物的基盤」「社会的基盤」「精神・文化」という4つにグループ分けした。次に説明可能性の観点から、各グループ内のスキーマを配列するとともに、講義案の補足コメントの検討を行った。一日目の最終作業として講義テーマを「21世紀のグローバリズム」と決め、二日目の模擬授業を待つこととなった。

さて、二日目、1班から8班まで順次、実演担当者による模擬授業が持ち時間20分で行われた。実演後、「話し方」「メディアの効果的使用」「分かりやすい説明」「教員の態度」「講義の有意義性」について五段階評価でのアンケートも行われた。トップバッターであった我が班はフロアーの研修者に向けてのイメージマップ作成過程を説明してしまい、「大学一年生に向けた講義」という大前提からはずれてしまった観を指摘され、班員一同、詰めの甘さを反省するとともに、一日目の成果を十分に発揮できず残念であった。

本班の結果はさておき、他者の授業を見る機会を得て、ある意味「授業」を客観的にとられることで、工夫すべき点もより具体的に見えてきたように思える。

(1班の参加記は1班記録係の油納健一、園康寿が担当した)

### 2班:演者:麻生(工学)

おはようございます。マイクを使いたくないのですが、後ろの方聞こえますか。反応がないということは「聞こえます。」ということですね。工学部の麻生と申します。2班を代表しまして授業をさせていただきます。昨日午前中に説明がありまして、「目的が分からなければ、話しはできない。」と質問をしたのは私です。そのために、我々は「何を結論とするのだ。」ということから始めました。皆様が山大の1年生という前提を元にお話させていただきます。失礼な話し方をしてもご了承ください。

環境を巡るグローバリズムについて、最近訊の分からないグローバリズム等の外来語がたくさ

ん氾濫しています。ここはグローバリズムという言葉がテキストにあるので仕方なく使用しています。国際的協調、全世界的協調といった位置づけとして話しをします。その内容ですが、結論から言いますと環境問題を対象に技術及び人間の意思、グローバリズムの必要性について話しをしたいと思います。

## 環境問題をめぐる グローバリズムの必要性

環境問題を対象に技術および人間の意思の  
グローバリゼーションの必要性について述べる

第2班

つい先般「ワールドカップ」がありました。普段「サッカー」に全然興味がない人でもえせサッカーファンになりました。皆さん概ねご存じだとおもいます。どこが優勝したのか。「ブラジル」が勝ちました。僕的にはイングランドが勝って欲しかったのですが。では、「ブラジル」というのは皆さんご存じでしょうか。僕の初めての海外旅行は十数年前、リオデジャネイロですごくショックを受けた覚えがあります。「ブラジル」と言えば、色々なキーワードが連想されます。「暑い」、「熱帯雨林」です。「熱帯雨林」となると「木」、「木」となると紙の為に「伐採」されてパルプになる。その結果、「温暖化や砂漠化」が起きていることは皆様よくご存じかと思えます。

一方日本は決勝リーグには残ったけれど負けてしまいました。しかしトロフィーはもらいました。「ワールドカップ」はトロフィーではなく「カップ」ですよね。あの「カップ」はいったい何で出来ているのでしょうか。正直言って知りません。ただ見た感じ、あれはどう見ても「金属」です。「金属」というのは、あの固まりから成形しなくてはなりません。成形する際には、最後は職人さんがやるのですが、金属ブロックを作らなくてはなりません。それを作るには、よく分からないのですけれども「工業」が必要になります。では、「工業」と言いますと私は宇部に住んでいます。宇部と言いますと一昔前までは「大気汚染」の代名詞。「大気汚染」というのはすぐイメージできます。「大気汚染」の何が悪いのかといいますが、SOx、NOxです。「炭酸ガス」がありますが、この結果大気汚染が発生する。何故このようなイメージが発生するのが問題です。我々が今、暮らしている中で色々なことが耳に入ってきます。現状、世界がどうあるのかが耳に入ってくるので、今の連想ゲームから結論は、きっと今世界的に汚染、ガス、自然破壊等が進んでいるのではないかということが挙げられます。このようなキーワードにつながりますけれど、このレーザーポイントも規制がはじまって点が小さくなりました。使い難くなってきて、嫌いになってきているのですが。最初の「温暖化・砂漠化」とか「大気汚染」という話しに戻ります。これがあるから、例え出発が「ワールドカップ」であっても、ブラスのイメージである「サッカー」が楽しいということから非常にネガティブであり良くないイメージに進んでいきます。その背景にあるのがこれです。この認識があった上で、この原因というのはなんなのでしょう。古くから南北問題というのが取り上げられますが、ここでいうのは問題と言っても、貿易上の問題です。南で発生する資源を北に輸出して北で加工するという問題。それから地球全体。昔は宇部が汚

**ワールドカップ**

**ブラジルが優勝!**

熱帯雨林 伐採 温暖化・砂漠化

**優勝カップが欲しかった!**

金属加工 工業 炭酸ガス 大気汚染

**現状**

**工業による汚染・自然破壊**

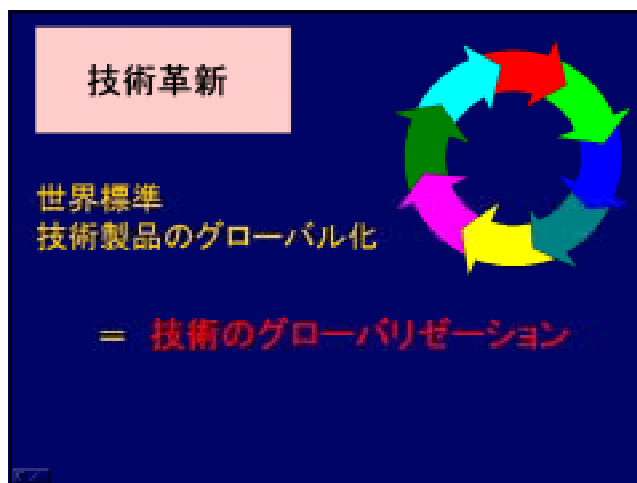
サッカー	優勝カップ
ブラジル	金属加工
熱帯雨林	工業
伐採	炭酸ガス
温暖化・砂漠化	大気汚染

南北問題 地球全体

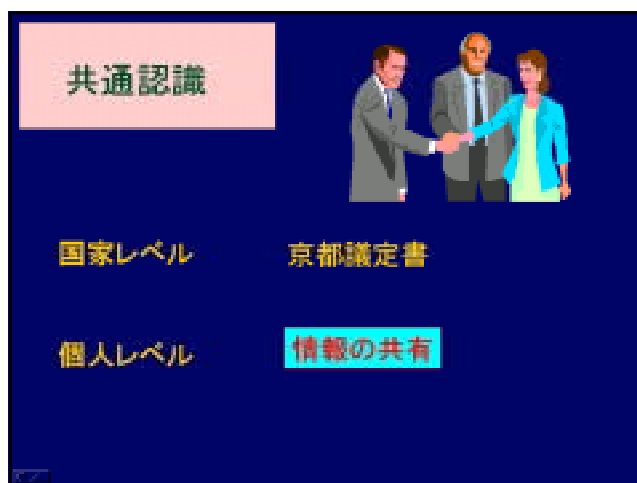
解決のためには

技術革新 共通認識

かったのですが宇部の工場をなんとかしようとして、なんとかあったという時代もありました。しかし、最近はそうではありません。どこでもいいのですが、ユノー、東洋の小さな島です。ユノーが一生懸命クリーンにしました。では、それで日本はきれいになるのか。そういうことはありません。もっと言えば自分の家のゴミブリを始末したら自分の家のゴミブリがいなくなるのかということです。それと全く同じで今は個々で何か行っても収まらないという現実があります。これは先ほどの汚染の背景にはこういう問題があるということが挙げられます。では、これを解決すればもう少し良くなるのではないかと。では、いったいどうすればよいのでしょうか。



そのためには、まず1つは「公害を出さない」。これは言うまでもない問題です。そのためにはエンジニアが必要です。もう1つ、「公害が嫌だ。」という認識を持つことです。これは非常に難しいのですが「技術革新」と「共通の認識」。ここでいう共通の認識の主体は人間です。「何を。」という「公害嫌だ。」という認識です。まず、「技術革新」。日本は工業国です。残念ながらこのレベルにない国もたくさんあります。ある国は頑張っている。ある国は工業レベルが低くて、それを良しとしている。これはいろんな例があると思います。では、これで良いのか。技術レベルの格差というのは必ず歪みがでます。簡単に言うと公害規制値の値からして変わります。変えなくてはならないのです。技術が達成できない。それを避けるためには、スタンダード、標準、世界標準というものを考える必要があります。良いものができた。良いものができたら世界中それを揃えよう。「その良いものが最低レベルですよ。」というのが必要です。世界標準という考えをここで入れてしまいますと、製品としても技術としても良いのですが技術、製品のグローバル化、先ほどの経費からいいますと全地球的な協調です。全地球的に同じ様な協調、同じような技術、同じような製品を使いましょうということになります。これがまず1つ、技術のグローバルズムと位置づけることが出来ると思います。ただ世界的協調を主題として、それを定義し話しをさせてもらいましたが、何の世界的協調かと言いますと、まずは製品に対してです。



ではもう1つの方。技術革新の方は、「何を。」「誰が。」というのは先ほどお話をさせていただきました。人が、「公害は嫌だよ。」と考えてくれればいいのですが、これは色々なレベルの考え方があるといえます。私だけ、私のクラス、私の学科、山口大学、山口県、日本、色々なレベルがあると思いますが、割と大きなレベルである国家というレベル、それから個人というレベル。この2つを考えます。では、国家というレベルで考えた時には、既に京都で制定されました、「新温暖化防止改革」、そういう名前でした。では、「個人のレベルでいったい何が出来るのか。」ということ考えたときにまず一番大切なのが情報を共有することです。何が起きているのか分からなくては考えようもないし、認識もへったくれも存在しません。こういう時に情報を共有することが大切なのだということは皆さん認識できると思います。けれど、今、アメリカの人でもインドネシアの人でも南アフリカの人でも、それから君たちが持っている情報という


のはみんな一緒なのでしょう。その質、情報は解釈の仕方というのが一緒に付いてきますから、その解釈が一緒かどうかです。それが揃わないと、非常に議論としては難しくなってきます。その難しくしている原因というのは言うまでもありません。私、外国語が苦手なのですけれども、「言葉」としてある。これは当然第一にあげられることです。それから文化、これはその人が持って生まれたものの背景です。「木を切っても良い、それで今晚の食事がちょっとでも豊かになるのなら。」と考える文化もあります。これは経済状態というのかもしれない。どう表現して良いのかわかりませんがそういう文化もあるでしょう。それから我々の様に、「木を切らなくても良いよ、これぐらいでいいよ。」と考えるのは背景が違うからでしょう。それを一時的に論ずるとするのは非常に無理があるのです。これで情報の共有ができていますのか。これはメディアとしては見るかもしれない。けれど意思疎通では非常に障害が起こっているというのも事実です。まず、考えてみますと言葉の問題があります。英語、あんまり好きではないのですが、言葉の少なくともそういうのが一つです。みんなが単一の言語になれば言うことにはないのですが、バックボーンが違うのだからそれは無理です。しかし、共有できる言葉が必要になるのです。技術があります。ここで言葉というのができます。そうするともう少し意思の疎通ができるのではないのでしょうか。もう一つ。「英語はわかった。ではどうやってその情報を仕入れるのか。」と言う問題があります。言うまでもなくメディアの有効利用です。メディアは色々な種類があります。今、多様です。山口大学の中であっても、研究室でテレビが見られます。学内放送、CNNとBBCとTYSと易しいパソコン講座と英会話があります。これはエクスペローなりネットスケープがあれば簡単に見られることができます。そういうメディアを有効利用するのです。先ほど「ワールドカップ」があがりましたが、あれの放映権は確かに問題になっておりますが、金を払ってでも世界中に放映するということは誰もが見るということです。需要がある、ただしそういう風な需要があるのは、技術が当然進んでいるからです。インターネット、テレビこれはワールドカップの例を待つまでもなく当然進んでいます。どこが勝ったか、誰が点を入れたか、誰が失敗したか、それがすぐわかります。情報が言葉で解釈できるようになれば情報をグローバル化、これは全地球的に情報を配信するということで、情報が共有されるというメリットがあります。ですから、情報のグローバル化ということも必要になります。情報、技術、言語これだけがワールドワイド、全地球的に共有できるようになります。その結果何を生むのか、人為的交流、個人の国際化というのが当然発生すると思います。僕は、不幸して学生時代海外に行く機会がなかったのですが、同じ考え、情報をもって、同じ言語でとなると非常にメリットになるわけです。それがあってからこそ、個人の国際化というのが進んでいくのです。個人の国際化が進む、人為的に交流が進む、ではその結果何が生まれるのか。ナショナリズムを越えた思想が発生します。ここで言うナショナリズムは、国家主義、民族主義だとか非常にセクショナリズムのような小さな単位です。そうではなくて、嫌が上にもそのようなグローバル化、情報、技術、また技術は少し別として、情報や言語の

**情報の共有はできている？**

言葉の問題      文化の違い

意思疎通の障害

言葉のグローバル化



**情報共有の手段**

メディアの有効利用

テレビ・インターネット（ワールドカップ）  
即時性

情報のグローバル化

人的交流      個人の国際化

グローバル化が進むことによって、ナショナリズムを越えて、グローバリズムに進むのではないかと思います。今までグローバリズムということで、頭に技術、言語、情報とつけて説明しましたが、結局何が言いたかったのかと言いますと最初に挙げた、環境問題、非常に深刻です。これを進行させない、悪くしない、という方策が大切です。悪くしないためにはグローバル化というのが避けて通れないし、必要不可欠であるというのが、私の結論です。

以上で講義を終わります。

### 司会(植村)

ありがとうございました。質問があれば受け付けます。

### 質問者A

砂漠化からグローバリズムというのが僕としてはイメージし難いのですが。

### 発表者:麻生(工学)

砂漠の見た感じのイメージというと、砂がパラパラになっています。ゴミ砂漠は非常に典型的な砂漠ですが、ここでいう砂漠は木が無くなることによって、地面が水を蓄えることができなくなることを言います。水が無くなるので当然乾燥する。熱帯雨林だから木があるからと言って、安心してはいけません。木が無くなると、木が無くなるという現象だけではなくて、その先に色々なことが進むのだよと言うことが考えられるのです。

### 司会(植村)

他にありませんでしょうか。では学生授業評価が終わりましたら、若干休憩をとりたいと思います。5分程度です。その次に、3班の発表に入りたいと思います。

#### 第二班の討論の流れ

われわれ第二班では、まず各人がそれぞれ独自のアイディアでワールドカップからグローバリズムへの議論の流れを組み立てた。次に各人がそのアイディアをスライドを用いて他の班員に説明した後、質疑応答を行った。各人の意見は大変多彩で、質疑応答では大変活発な議論がなされた。その後、それぞれの班員が出したものの中でよいと思われるものをいくつかピックアップしてみた。最終的には、熱帯雨林の伐採による温暖化、工業生産による環境破壊、そして文化などを通じたナショナリズムを超えた共通認識の必要性という三つのテーマが選ばれた。まず、熱帯雨林の伐採による温暖化というテーマはサッカーからブラジルへという連想から生じた。次に、工業生産による環境破壊というテーマはワールドカップといえば優勝カップが連想され、優勝カップといえば金属だと思われるので、金属加工だ、という一連の連想によって生じた。最後のナショナリズムを超えた共通認識の必要性というテーマは、ワールドカップのような世界的行事は必ずマスコミでとり上げられるが、マスコミは現代社会において国を超えた価値観や思想を作り出す働きがあり、ナショナリズムを超えた共通認識を形成する潜在力を秘めているというやや複雑な連想から生じた。また、それぞれテーマにおいても、それぞれのスキーマがふさわしいかどうか、また、スキーマとスキーマの間の整合性はどうかなど、時間をかけて討論し、モデル授業の要旨を練りあげた。とくに、スキーマとスキーマの間の整合性に関しては、各班員の考えの違いが顕在化し、活発な議論となった。ひとたび要旨が決まると、次はどのように教材を提示するか、そのレイアウトとじっさいの授業の流れをどのようにするかという点を検討し、再び活発な議論となった。

ナショナリズムを超えた思想

グローバリズム

技術 言語 情報

### 3班:発表者:池田(徳山高専)

おはようございます。昨日はかなり皆様暑かったのですが、なかなか寝付けなかったのではないかと思います。4時ぐらいになるとかなり寒くなってきて、慌てて毛布を出された先生もいらっしゃるのではないかと思います。眠い目をこすって、しばらくの間お付き合い下さい。

それでは、第3班を代表しまして、山口大学ではないのですが徳山高専、池田が「グローバリズムって何。」ということについて少しお話をさせていただきたいと思います。まず、ワールドカップという言葉が入りますけれど、これを連想するものをいくつか考えてみたいと思います。まず、先ほどもありましたようなFIFAワールドカップ、これは少しゆっくり説明させていただきたいと思います。その他に野球も1つのワールドカップであり、ラグビーもあります。なかなか日本はラグビーでは善戦しているのですが、上の方には行けなません。それからスピードスケート、アイススケート、フィギアスケート、これもワールドカップがあります。私が徳山高専という工業高校ですから工業的な話をしてしまいますが、ついこの間北九州の方でロボカップというのがありました。そういうのもワールドカップから連想されます。また、私の趣味は車です。車のワールドカップといえばF1です。もうすでにF1の方チャンピオンが決まっております。誰かご存じですか。ミハエル・シューマッハ、この人が全15戦中、8戦で優勝してしまいました。全然面白くない結果になりました。また、オートバイの方ですが今年からレギュレーション変わります。今までは2サイクルのエンジンばかりだったのですが、今度は2サイクルのエンジンの車と4サイクルのエンジンの車が共存して走るというカテゴリになりました。今まで500ccクラスと言っていたのが、フォトGPに変わりました。そういう風にいろいろな種目にもワールドカップというのがあります。その中で、最も世界規模で大きな大会と言えば、やっぱりFIFAワールドカップではないかなと思いました。私はサッカー部の顧問の先生が「FIFA」と言われていますので、サッカーのワールドカップとは言わずにFIFAワールドカップと言っています。ですから、これからずっと、FIFAワールドカップといえば、サッカーのワールドカップと思っていただけたらよいと思います。今回は、質問しようかなと思っていたのですが、「どこが優勝しましたか？」ということは先ほど言われました。なかなか熱い戦いを繰り広げており、

## グローバリズムって何？

What is the GLOBALISM?



第3班 代表  
徳山高専 池田光優

## ワールドカップ



↓

## FIFAワールドカップ



## FIFAワールドカップ

世界5大陸から地区予選を勝ち抜いてきたチームと開催国の12チームによって開催される世界最大のサッカー大会。2002年度は日韓共同開催でブラジルが優勝した。



私の学校の、私の学科は今、校舎改築の話が出ていますが、その校舎改築の会議をしていた際に、日本・トルコ戦が始まるので会議を中断して日本・トルコ戦を見てから再開しました。教員もこれくらい熱中する大会でした。FIFAワールドカップというのは何カ国出場しているのかご存じですか。

世界の5大陸から勝ち抜いてきたチームが今回は30チーム、プラス今年は日韓共同開催でしたので開催国2チーム出ていますので、合計32チームです。これを予選リーグ4チームずつ行っていきます。そのうち、上位2チームが決勝に進んで行きます。決勝はトーナメント方式によって進められます。今年、我々が熱中したワールドカップ、「日韓共同開催で優勝したチームはどこですか。」これも質問しようと思っていたのですが、ブラジルが優勝しました。これが、決勝のワンシーンです。カーンが可哀想でした。私はロナウドが好きなので、ロナウドが決めた時大喜びで走り回って、かみさんに蹴りをいれられましたが、彼も、その前のロナウドのシュートが弾けたところをロナウドが決めました。さらに、その前にロナウジーニョがロナウドだったと思いますが、このシュートでカーンは右手の小指の靭帯を延ばしてしまっていたために、キャッチできませんでした。勝負というのはなかなか奥深いものだなというのを感じました。こういうふうなFIFAワールドカップは世界を熱中させたわけですが、試合だけではなくて周囲の話題も我々、色々と耳にしたと思います。例えば、ベッカム。あの選手が率いるイングランドチームですがキャンプを行った場所はどこだと思いますか。

兵庫県の淡路島です。ここは、私の地元になります。近くなので「山口に来ずに、淡路島にいればベッカムに会うこともできたのに。」と少し後悔をしました。それと同じようにキャンプ地と言えば、出てくる地名があります。大分の中津江村です。中津江村とカメルーンのスったもんだは皆さん印象に残っているのではないかと思います。カメルーンが「金がない。」と言っていました。空路の確保が出来なかったのです。東南アジアの空路を確保するために、お金を払わなくてはならない。そうしないと、領空侵犯になって



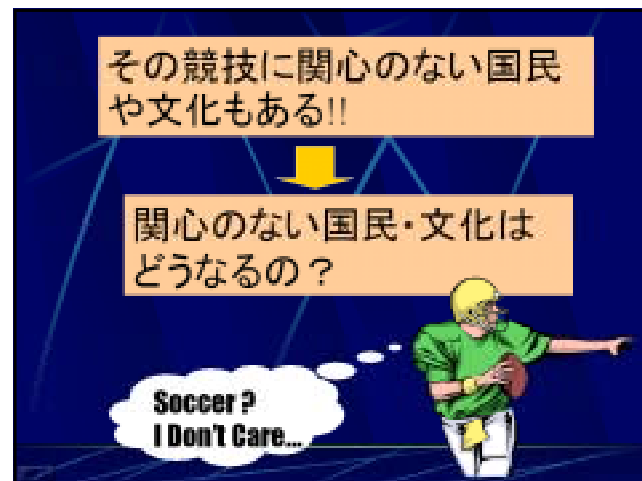
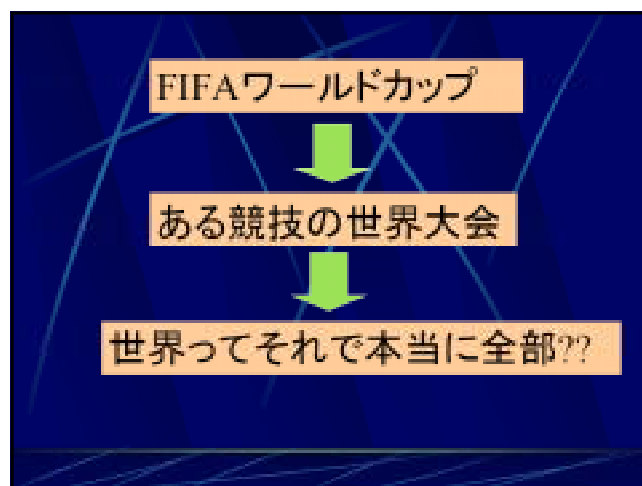
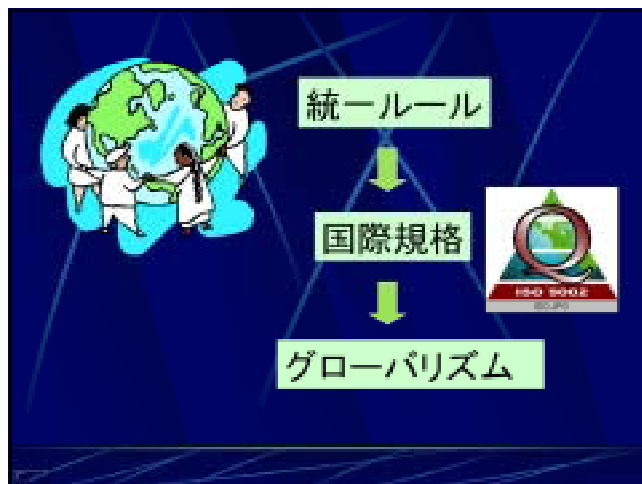
狙撃されても仕方がないらしいです。そういうスったもんだがあったので、2、3日到着が遅れました。にもかかわらず、中津江村の人は大熱狂で迎えました。しかも、あれは到着したのは夕方中津江村に着いたのは午前3時くらいだったそうです。真夜中なのにどんちゃん騒ぎをして、中津江村の地元の踊りをしたので、カメルーンの人々が喜んだのです。これが中津江村です。FD研修が終わったら、夏休みに行ってみようかなと思っています。キャンプで2、3日しか一緒にいなかったけれど、中津江村とカメルーン文化交流があったと思います。それによって、中津江村の人達は、日本を応援するのと同じように、カメルーンの人達も応援されていました。どういうことかと言いますと文化交流が起こったことにより、意識の共有化がなされたのではないかなと考えます。他の例としては、日本は決勝トーナメントの1回戦、トルコとやっけて0-1で負けてしまいましたが、その後韓国はイタリアに逆転勝ちし、スペインを最後PK合戦で敗って、3位まで残りました。そのような試合を日本人のサポーター達が自分達の国のように一生懸命応援しているのを、皆さんテレビで見ていると思います。道頓堀川に飛び込んだり、渋谷の八チ公前で、騒いだりしていました。私も日本戦の時には、思いっきりやっちゃって、ご近所さんから「すみません、もっと静かに。」と言われたものです。そのように日韓に於いても意識の共有化というのがあったと思います。意識が共有化することによって、一体感というものが生まれるのではないかと思います。では「一体感というのはどういうところから生まれてくるのかな。」というのを考えてみますと、FIFA



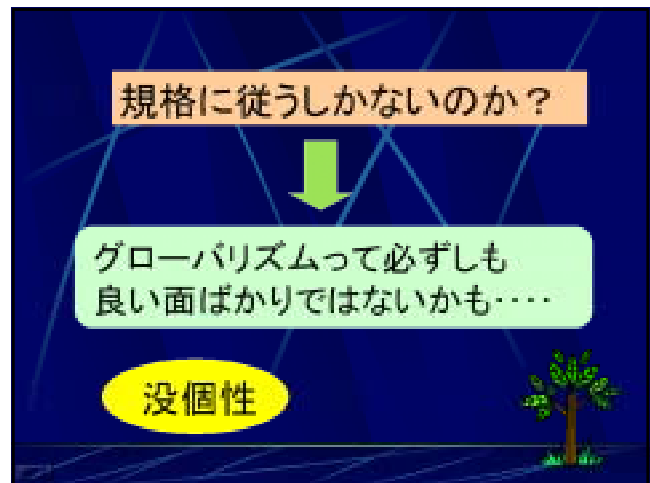
のワールドカップというのはFIFAが定めたルールに従って試合が進行していきます。レッドカードの出し方、イエローカードの出し方、点の取り方、世界で統一されたルールのもとで行われています。これは、どういうことかと言いますと、実際にサッカーの試合を行う人は、どの国にあっても同じ観点から試合を進めることができます。また、それをテレビ、

競技場などで見る人も同じ観点で試合を見ることができます。そのような意味で国際規格といえるのではないかと思います。この国際規格を工業製品で例えますと、工業製品の国際規格のビデオレコーダー、CD、DVD、電話などが挙げられます。私も昨日聞いた話なのですが、道路の幅も、世界でほぼ決まっているそうです。私達は島国ですから、海外に行くために海を渡りません。その先の海外で移動することもあります。車に乗っている際に、道が急に細くなると車が通れません。道路の幅というのも国際規格があるそうです。こういう風に1つの基準を設けてひと括りにしてしまうのがグローバリズムであります。例えば、FIFAのワールドカップを見てもらえれば分かりますが、全世界が同じ時間を持って、全世界が同じ感動を持てる。非常に良い面があります。時計、パソコン、このような装置の国際規格が決まっておれば、「これはどう使うの?」「あれはどうするの?」ということを気にすることなく、ボタンを押せばどこの国に行っても操作でき、非常に便利なのです。ですから、グローバリズムは一体化するという意味なのだと思うのですが、工業製品、スポーツのルールに関しては、非常に便利になる、または楽しいものになるということがあると思います。

しかし、違う面からグローバリズムというのを見てみましょう。FIFAのワールドカップというのは確かに世界で一番大きなスポーツの祭典ではあります。しかし、これはある競技の大きな祭典でしかないのです。他にも野球の世界大会があったり、ラグビーの世界大会があったりします。では、それが世界で本当に全部なのでしょうか。例えばFIFAは現在加盟204ヶ国あります。でも、世界にはそれ以上の国が存在します。FIFAに加盟していない国もあります。もっと細かい話をすれば、プロ野球好きのお父さんがいます。私は阪神ファンであるのですが、こういうプロ野球の大好きなお父さんにしてみれば、「ワールドカップのために、何故プロ野球の試合がなくなるだ。」とかなり怒っていると思います。そういう方はそんなにいらっしゃらないかもしれませんが、中には必ずいらっしゃいます。少しは、「なんなんだこんなお祭り騒ぎみたいなのをして。」と否定的な感情を持たれる方もいらっしゃるでしょう。では、その様なサッカーにまったく興

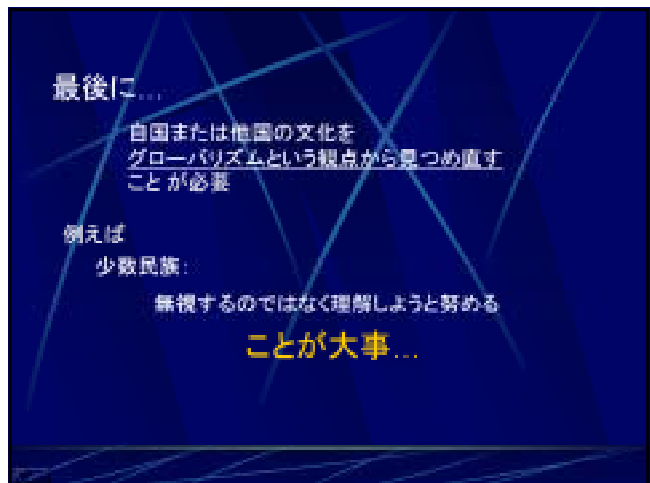


味がない人々の文化が合ったとしたら、その国民達はどうなるのかという問題が出てきます。例えばそれが陸続きの小さな島の国であり、他の国も騒いでいるから見てみるかと思います。最初は普通テレビは見ません。しかし、他に影響を受けて、「見てみようか。」となり、「サッカーって面白いじゃないか」となり、FIFAの企画に従ってFIFAのルールに従ってサッカーをするようになってしまう。このように、マイナーなものが自然淘汰される可能性がでてきます。例えば工業製品、こちらソニーのバイオです。Windowsのノートでデザイン、機能性をすべて満たしている一番売れているパソコンです。大体、最近ノートパソコン市場は落ちているのですがソニーのノート型パソコンだけは増収しているという状況です。片や私が使っている、「かけりんご」マッキントッシュパワーブックG3ですが、マッキントッシュというパソコンを知っている人？



皆さん、結構ご存じですね。ありがとうございます。どちらを皆さん使っているかという、やはり

Windowsの方を使っていると思います。私もこのような発表の時には「かけりんご復興会」の一人なので使っておりますが、学生に授業を教える際にはWindowsで教えてしまいます。こういうマイナーなマシンというものは淘汰されるのです。一時期はマッキントッシュというのは「倒産するのではないか。」「いつ倒産するのか。」と言われていましたが、i-Macの登場で今まで延命しています。少し昔、ビデオテープのベータとVHS、この競争もありました。はっきり言って私、ベータ派なのです。何故かマイナー派なのですが、ベータのどこが良いかと言いますと画質が鮮やかなのです。そのような理由で、愛好家達、放送業界等でよく使われていました。実際デジタルビデオが出る前に放送業界はずっとベータを使っていたそうです。しかし、宣伝の仕方、戦略でVHSは負けてしまった。マイノリティの方は自然淘汰されました。このような意味でグローバルイズムは完全に良い意味ではないのかもしれない。また、最近の渋谷の町をテレビで見ると、彼らは全て茶髪、顔グロ、ロン毛。みんな同じような容姿をしています。これはどういうことかと言いますと、没個性に繋がります。これを究極に続けていくと、自分のアイデンティティまで没個性に繋がっていきます。こういう危険性を含んでいるのがグローバルイズムではないかと考えます。今まで、「グローバルイズムって何？」という議題で良いところ、良くないところについて話しましたが、最後に皆さんに考えてもらいたいのが、今お話ししたようなことを踏まえて自国又は他国の文化をグローバルイズムという観点から見つめ直していただきたいということです。例えば少数民族の国があります。国ではなく民族の単位でも良いのですが、このような民族の文化に対して無視して駆逐していかうとする。今まで世界の歴史ではこのようなことばかり行われてきましたが、無視するのではなく、理解しようと努めることが大事なのではないかと思ひます。皆さんもそういう観点でもう一度グローバルイズムというのを考えてみてください。以上で講義を終わらせていただきます。



司会(植村)

有り難うございます。ご質問ございますか。

**藤原(経済)**

先生にお聞きしたいのですがグローバリズムのスペルを教えてください。

**発表者:池田(徳山高専)**

間違っていますか？すみません。原稿僕が作ったのではないので、GRではなくGLですね。申し訳ございません。

**質問者A**

先生教えてください。グローバリズムと言われていました標準化、規格化というのはスタンダードというのが英語では良く使われるのですが。

**発表者:池田(徳山高専)**

例えば、スタンダードは基準という意味。その様に数字で表せるようなものではなく、みんなが一体になるという外面的な考え方で言うとグローバリズムになるのではないかなと思います。グローバルというのが一般です。それをリズムというのは「～にする」という概念ですから、一般的なものを1つにする、世界を1つにすると言うのがグローバリズムではないかと思います。そして、世界を1つにしようというのがグローバリゼーションと思うのです。よろしいでしょうか。

**前田(教育)**

先生のご専門は何ですか。

**発表者:池田(徳山高専)**

専門は熱工学です。

**前田(教育)**

3班での講義内容を作っていく際に、強制連結法で仕上げることはどの程度意識されましたか。

**発表者:池田(徳山高専)**

実際、意識して作ると発表が3分50秒程度になりましたので、かなり脱線した話を入れさせていただきました。流れとしては「ワールドカップ」というのは「サッカー」だということから始まりました。「サッカー」、「ルール」というのは「規格」、「国際標準規格」になるということは、「グローバルスタンダード」になるということですから、グローバリズムに繋がる。しかし、そういう良い面ばかりではない、と言うのが第2の流れです。グローバリズムの良い面が第1の流れとしてあって、グローバリズムしすぎるのもあまりよくないよというのが第2の流れです。ですから、単語としては、繋げたものしか出しておりません。

**藤間(農学)**

山口大学の1年生はノートパソコン必見であって、ノート型パソコンを買わなくてはならないと言う状況にあり、Windowsが当然多いです。先生の考えるマッキントッシュの優位性はどのようなことですか。

**発表者:池田(徳山高専)**

まずは、見てもらえばわかりますが、「見た目が美しい。」というのは冗談なのですが、OSXになり、BS

Dベースのユニックスライクなものが使えるようになってきました。OS9までは例えばシェアウェアが具合悪いということになりますと初期設定を全部捨てればよいそういうのを目指しているのがマッキントッシュです。それから、やはりグラフィックがマックの方が早いですね。昔やってみたのですが、ペンティアム3,500MBのマシンでPowerPointの1GBくらいある高密度な画像を出そうとしたら2分30秒くらいでした。それをマッキントッシュのG3,400MBのマシンで30秒。それだけグラフィックに関しての優位性が高いのがマッキントッシュです。

### 藤間(農学)

ありがとうございました。最初の答えはちょっと1年生には難しいかと思います。

### 司会(植村)

他にご質問等、ございませんか。ではアンケート回収させていただきます。自分の班に投票してはいけません。では、4班の発表お願いいたします。

#### F D研修会報告(3班)

平成14年8月1日(木)、2日(金)の両日、国立山口徳地少年自然の家においてFD研修会に参加した。

3班は所属のちがう8名からなり、うち男性が6名、女性が2名である。他の7班に比べて、強いていえば若手がわずかに多いかもしれないけれども、それが特徴とまではいえない。共通の課題である「ワールド・カップ」という言葉から出発し、最後に「グローバリズム」という言葉に到達するミニ授業の目標は、教本の「ロケット」から「ジャガイモ」までの雛形を参考にしたが、その方法論である強制連結法の導入の仕方をめぐって8名の解釈は同一でないので、講師に教示を仰ぐが要領を得ない。その結果、連想ゲームのようなつながり、つまりこじつけたリンクのおもしろさを重視する授業設計とあくまでスキーマどうしの論理の明晰さを重視する設計ができあがった。8人中、スキーマ最多の方は51、最小の方で16であった。隣の方に見せて、その助言からリンクの仕方を直しているところに、講師から受講生は大学新入生が対象であると指示が入り、術語を消したり加えたりする。各自OHPで説明後、班としての統一作業に入った。

キーワードを書いた200枚近いカードを机の上に展開し、ああでもない、こうでもないと言いが合うが、結局、8名中には奇しくも共通した流れ、つまりリンクが2つあり、加えてもう一つ、全員が共感し重要性を気づかされたリンクの都合3つが生き残り、授業編成の流れとなった。その目鼻がつくころ、いったい誰がこの授業をするのか大問題になると思いきや、ネクタイをしている先生が一人しかいないという理由で彼を講義者と決定。

講義者が火だるまのように頭をかかえて、3つの流れを2つに編成し直した時には、他人はただ従うのみ、もう誰も異を唱えない。残りの者は、教材作成に協力し、予定時間ぎりぎりで行演習するが哀れ、授業は4分もたなかった。そこで我々は出来るだけ、参考になる助言をメモに書いて講義者に渡し、不安をうち消すように食事・懇親会場へと足は軽い。その間、まったくの修羅場であった。2日目、本番。昨日の不安は一体、何だっただろう。講義者、絶好調。脱線、アドリブ、時間超過。その結果、優勝してしまった。(記録者;中村 友博)

#### 4班:発表者:加納(理学)

4班の授業は「グローバリズムの光と影」というテーマです。全体の流れは3つに分かれています。Power Pointを扱ったのが初めてですので、上手くは使えていません。Power Pointを使うことが初めて、というおじさんが何を言いたいのかは、皆さん大体想像が付くのではないかと思います。

サッカーを主催しているFIFAの会長。昨日までは覚えていたのですが、名前を忘れてしまいました。皆さんはご存じですか。この人は相当な実力者だそうです。「FIFA」はサッカーの世界大会であり、スポーツの祭典であると同時に、世界中の多くの人が見るため、莫大なお金が入るものです。「金儲け」が悪いわけではありませんが、たいへんなお金が動きます。



世界の経済活動という目で見ると、このお金を牛耳ろうとしているのは「多国籍企業」です。国籍を越えてお金や物が動きます。それに付随して莫大な利益が発生します。その時に問題になるのが、世界標準です。私はパソコンの世代ではありませんし、あまり凝ったこともしませんので「Windows」とマッキントッシュのどちらでもかまいません。実は2、3週間前までマッキントッシュを使っていたのですが、値段が高いため「Windows」に乗り換えました。操作性については気にしていません。パソコンの機能のほんの数%しか使用していないのではないかと思います。何が世界標準を握るのかで熾烈な争いができます。パソコンの世界は「Windows」が世界標準になりつつあります。世界標準を握ったところが世界を制覇して莫大な富を得るのです。「Internet」を介して世界に行こう、という現在の世の中で、社会の基本となっている1つの流れです。良い悪いは別にして、現実の流れとして存在します。これが、いろいろな方面で影響を及ぼします。

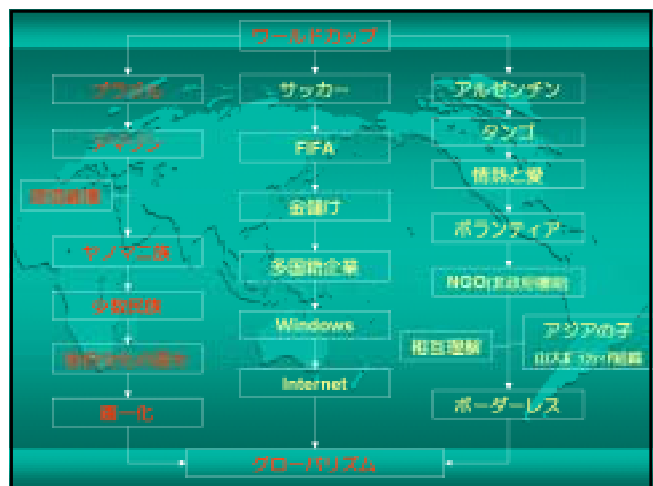
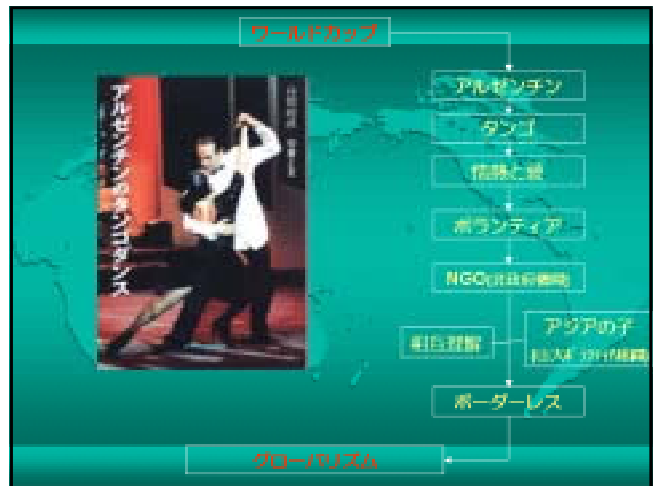
次に社会や経済の流れを柱にして、人間の文化活動を考えてみたいと思います。ワールドカップでは負けましたが、南の国「アルゼンチン」。「アルゼンチン」と聞いて思い浮かべるのは「タンゴ」。私は見たことはないのですが、女性と一緒に踊るダンスでたいへん情熱的でもあり、魅力的でもあります。これは「情熱と愛」に繋がります。おじさんから見ると欲望ではないかという気もしますが、欲望ではありません。愛です。愛というのは人に対する思いやりです。最近「ボランティア」の活動が取り上げられます。国と国の関係では政治的な思惑が働いて上手くいかない場合もありますが、「NGO」といわれる非政府機関は、そのような政治の枠組みを離れて人道主義的な活動を行います。山口大学にも、アジアの国に対して「ボランティア」活動をしている組織があります。「ボランティア」等を通じて全世界の「相互理解」が広まっていきます。Internetを通じて国境を越えて、政治や国家の枠組みを離れて、「相互理解」

を広げていきます。これは良い面です。これも「グローバリズム」の1つと考えることができます。

しかし、良い面ばかりではありません。ワールドカップでは「ブラジル」が優勝しました。「ブラジル」と聞いて、まず思い浮かぶのは、世界最大の熱帯雨林、「アマゾン」。「アマゾン」では最近問題になっている森林伐採が起っています。アメリカ等の多国籍企業が爆大の面積の森林をブルドーザーで切り倒して、牧場を作ります。そのためどんどん熱帯雨林が切り開かれていきます。現代は茶の間に居ながら、テレビを通じて世界の秘境の映像を見ることができるようになりました。そのため熱帯雨林の奥深くには、私達があまり知らない民族が住んでいることもわかります。森林伐採のため「環境破壊」が進んでいくのですが、ジャングルの奥深くで平和な生活をしている「少数民族」、例えば「ヤムマミ族」がいます。「アマゾン」には裸族がいます。ほとんど裸に近い民族で、石器時代に近い生活をしています。「アマゾン」の「環境破壊」に直面して、この民族の生活の基盤が失われつつあります。「少数民族」は世界の中ではマイノリティです。日本も中国やインドの人々に比べるとマイノリティと言えます。日本の中にもまだマイノリティがあります。「グローバリズム」が進むほど、そのような「少数民族」が持っている「独自文化の喪失」が起こります。似たようなことが世界中で進行していき、「独自文化の喪失」が進むにつれ「画一化」していきます。「所変われば砂変わる。」という言葉がありますが、おじさんは知らない所に行くと、「何を肴にして飲もうかな。」と思います。世界中ハンバーガーだらけになると、このような人達は絶望してしまいます。このような面白くない世界はごめんですが、少数民族は文化的に負けていくのです。世界標準を握って、経済活動をするような大きな流れには適いません。独自文化を持っている人達が可哀想だと思っても、このような流れが現実にあるのです。

それぞれの地域の独自文化が無くなっていくと申しましたが、完全には無くならないと思います。必ずそこにどのような形であれ抵抗が生まれます。

このように国境を越えた情報の流れが人類共通のプラスの面を持つと同時に、一方で文化の喪失が行われます。大きな流れの中で自分は何を見て、何を生き様のターニングポイントにしていくのかを、考えてみてはどうでしょうか。質問はありませんか。



## 藤原(経済)

3つの流れがありますが、その3つの流れに分かり易い名前を付けてください。

## 発表者:加納(理学)

「市場経済」、「ボーダレス」、「反グローバリズム」です。

### 【第4班 報告書】

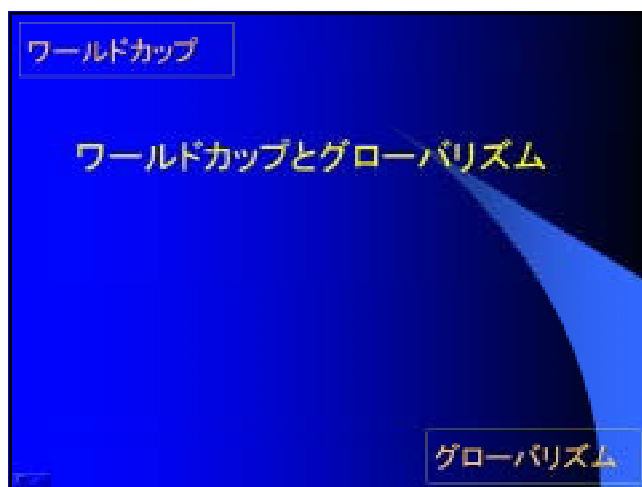
第4班では、「ワールドカップ」「グローバリズム」への強制連結法に基づく講義の組み立て案について、以下のような意見・議論がなされた。

比較的容易に「ワールドカップ」から「グローバリズム」が想像しやすく、例えば両者間を2～3のスキーマ、あるいは直接的にも結ぶことができるため、様々なバリエーションを構成しにくいとの意見がなされた。また、同強制連結法に基づく講義組み立ての主旨が十分に理解できず、単なる単語連想ゲーム的に多くのスキーマを並べ立てるような案もみられた。内容に関しては、与えられた議題について、自ずと「グローバリズム」の説明を中心とした講義案をつくってしまい、同研修会で主眼とされる各スキーマの構成(プロセス)に反して、いかに「グローバリズム」を説明するかといった内容に進む傾向がみられた。これらのことを踏まえて、与えられるキーワードはおよそ容易に連結出来ないようなものとして、各教官の個性を生かして様々なバリエーションが見られるようにするべきとの意見が出された。できれば、せっかく様々な学部・学科から色々な立場の教官が参加しているので、それぞれの特色を反映出来るような議題として欲しいという希望意見もみられた。

与えられたキーワード「ワールドカップ」に対応して、多くはスポーツとりわけサッカー(フットボール)を連想したスキーマが多くみられたが、そこから経済的な問題を組み込まれた方、あるいは文化について論じられた方、環境問題に触れられる方など多くの発展性がみられた。第4班では、これらの多くの意見の中から、「グローバリズムの光と影」という題目で、グローバリズム化の進められる現況に対して、その「光」部となる利点を経済的な側面から示すとともに、人類愛の一例として国際協力(ボランティア)を紹介する講義案を作製した。さらにこの「光」部に対して、「影」部の一例として少数民族などの文化の相違や環境問題を交えながら議論を進め、「アンチグローバリズム」もまた重要との結論に達した。上記の2つ側面から講義案を作製し発表を行った。

## 5班:発表者:芳賀(経済)

おはようございます。経済学部の芳賀と申します。まだ皆さんお揃いではないようですので、第5班で出てきた議論について若干お話ししたいと思います。このFDに参加して、理系の先生と授業のお話を初めて交えさせていただいたことが非常に参考になりました。私の専門は法律ですので、物を見せる、実験することはありません。しかし、実験系の先生は、まず物を見せる、触らせるというアプローチにでることを教えていただきました。この授業で使用するPower Pointは実験したり、触らせたりはできません。そのため、かなり限定された授業形態になります。私の頭の中には認識としてはありましたが、そのようなアプローチをすることが非常に大切なのだということを今回のFDで実感しました。私自身は六法の辞書に載っている手形や小切手を、みんなで見てもらうという程度のことしかできませんので、少しは何かやらないとま



ずいだろうなということを感じました。

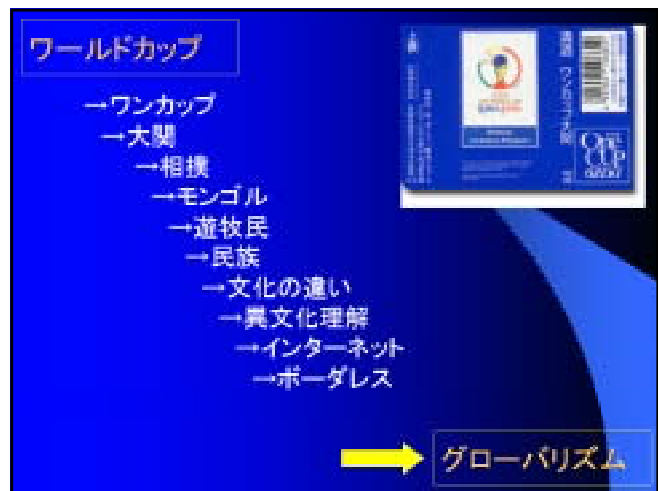
### 司会(植村)

では、5班の発表をお願いいたします。

### 発表者:芳賀(経済)

それでは、5班の発表をいたします。講義テーマはここに挙げております、「味噌汁とボードレス」です。皆さんを10代の学生さんと想定して接しますので、失礼がありましてもお許しください。カメラは止めていただきたいのですが、お仕事で取られている方は、どうぞ。授業に出席せずにデジタルカメラを撮って、それを使用する学生も前はいました。私は今年からPower Pointで授業を行いましたが、紙は配りませんでした。書いていただく、出席していただくことに意味があるからです。アンケートでは紙を配る、インターネット上でアンケート、という話しも出ますが、そのようなことは避けた方がよいと思っています。流れは大きく分けて3つになります。2、3番目は同じ所から分岐致しますので、大きく分けると2つになります。また「グローバリズム」という言葉の概念が曖昧であるため、「ボードレス」という言葉をキーワードにして内容に迫っていきます。

未成年の皆さんは興味があっても飲めないものがあります。それはワールドカップ中に発売されました。何かと言いますと、「ワンカップ」で



す。「ワールドカップ」と言えば「ワンカップ」、「ワンカップ」と言えば、「大関」です。この「大関」に続くものがキーポイントになります。「相撲」が続きます。「相撲」と言いますと、次には「モンゴル」。そして「モンゴル」と言いますと「遊牧民」です。「遊牧民」と言いますと「民族」、そして「民族」といえば、「文化の違い」が挙げられます。そして文化が違えば、当然「異文化理解」が必要になってきます。「異文化理解」の1つのツールとして「インターネット」が連想されます。そして、「インターネット」は国境に関係ないため、「ボードレス」に繋がっていきます。従って「グローバリズム」であるという1つの流れができてきます。10代の学生さんはお酒には興味がありますし、語呂合わせですから、「ワールドカップ」、「ワンカップ」、「大関」、「相撲」、「インターネット」、「ボードレス」そして最後に「グローバリズム」に続くという1つの流れを作りました。

ワールドカップと言いますといろいろな種類のスポーツの祭典だと思いますが、皆さんどのようなスポーツを想像されますか。是非お応えいただきたいと思ひます。

「ワールドカップと言いますと、どのようなスポーツを想像されますか？」

### 回答者1

「サッカー」

### 発表者:芳賀(経済)

「理由は何ですか。」



### 回答者1

「最近、良く耳にしたからです。」

### 発表者:芳賀(経済)

「どうもありがとうございました。他の方にもお伺いしたいと思います。ワールドカップといいますとどのようなスポーツを想像されますか。」

### 回答者2

「野球」

### 発表者:芳賀(経済)

「どうしてですか。」

### 回答者2

「良くテレビで見ます。」

### 発表者:芳賀(経済)

「ありがとうございました。他に、どのようなスポーツがあるでしょうか。ワールドカップと言いますとどのようなスポーツを想像されますか。」

### 回答者3

「スキー」

### 発表者:芳賀(経済)

「どうしてですか。」

### 回答者3

「スキーが大好きだからです。」

### 発表者:芳賀(経済)

「ありがとうございました。」

「スキー」と言いますと別の言葉が連想されます。「雪」。「雪」と言いますと今問題になっているのは「暖冬」です。「暖冬」と言いますと、非常に問題になっているのが「温暖化」です。そして、「温暖化」と言いますと今度は「環境汚染」です。「環境汚染」は国境に影響を受けず、世界的な対策が必要になってくるものです。従って「ボーダレス」、「グローバリズム」に繋がってくるのではないかという1つのアプローチが出てきました。

そして3番目の流れですが、「スキー」、「雪」、「暖冬」、「温暖化」、「環境汚染」の部分は2番目と同じ流れに沿っていきますが、「環境汚染」から分岐します。「環境汚染」の原因が何かということに着目します。「環境汚染」が何故地球上で起こるのかという原因の1つとして、「人口増加」が挙げられます。「人口増加」の次に何が連想されるのかと言いますと、「食料」の問題。これは、私達が生きて行かなくてはならない大切な問題なので、「食料」の確保が問題になります。それでは「日本の食卓」に何が上

がっているのかですが、もう1つ質問してみたいと思います。今日の朝、食堂で何を召し上がったかを聞いてみます。

「今日の朝、食堂で何を召し上がりましたか。」

**回答者4**

「パンを食べました。」

**発表者: 芳賀(経済)**

「ありがとうございました。他の方にもお聞きしたいと思います。今日の朝、食堂で何を召し上がりましたか。」

**回答者5**

「かゆです。他には玉子。」

**発表者: 芳賀(経済)**

「ありがとうございました。今日の朝、食堂で何を召し上がりましたか。」

**回答者6**

「サラダ。」

**発表者: 芳賀(経済)**

「ありがとうございました。洋食の方が多いようですね。先生は、何を召し上がりましたか。」

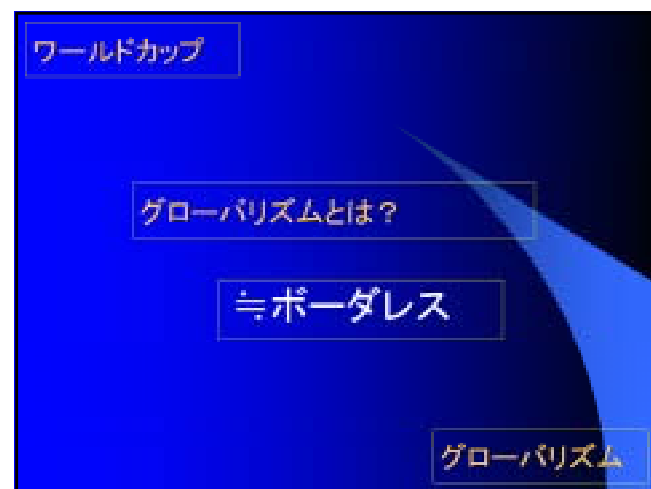
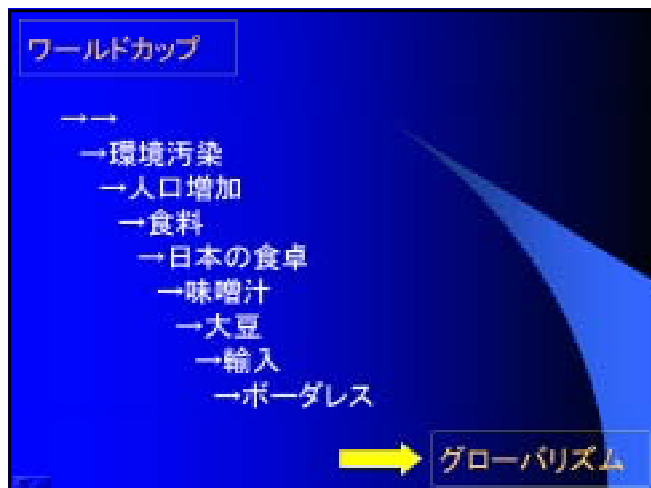
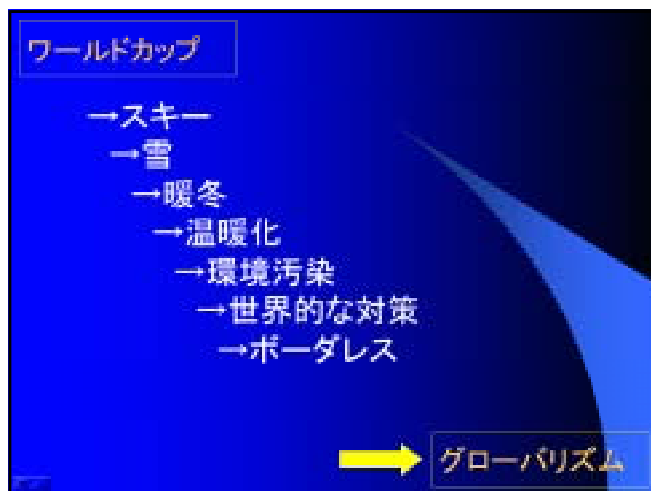
**回答者7**

「芳賀先生が使命感を持っていただかされたもの、味噌汁を食べました。」

**発表者: 芳賀(経済)**

「ありがとうございました。」

表題にも「味噌汁」が付いていますので、なんとか「味噌汁」という応えをいただきたかったのですが、なかなか難しかったようです。私は実は今朝、「味噌汁」を食べました。「日本の食卓」を「味噌汁」とした場合に、「味噌汁」の原料を考えますと「大豆」がまず初めに挙げられます。では、この「大豆」はどこから来るのでしょうか。もちろん、国産のものもたくさんあると思いますが、輸入されているものも多いと思います。そうしますと「ボーダレス」という言葉がでてきます。「ワールドカップ」から「ボーダレス」、「グローバリズム」という流れがでてきます。今までの流れですが、いずれも「グローバリ



ズム」そのものには触れていません。キーワードの「ボーダレス」を連結式にして「グローバリズム」に迫っています。「グローバリズム」は「ボーダレス」という言葉と近いのではないかとということが明らかになりました。皆さんに課題ですが、「グローバリズム」についての考えを800字以内にまとめてE-mailで提出してください。提出先は丸本先生のアドレスです。来週までに提出して下さい。課題や内容についてご質問ありますか。

#### 質問者A

課題の評価はどのようになっていますか。

#### 発表者:芳賀(経済)

厳しい質問だと思います。内容自体が定まっておられないので800字以内に今の話しをどう上手くまとめているかが1つのポイントになります。5班でそこまで相談しておられないので私の独断では決められません。他にはございませんか。ご協力いただいてありがとうございました。法学ではこのようなことをソクラティックメソッドといわれる問答教育が必要だと言われるのですが、望む答えに辿り着くかどうか、朝から気を揉んでいました。ご静聴ありがとうございました。

#### 鴨川(経済)

資料の方には「グローバリズム」「グローバルスタンダード」「アメリカ」となっているのですが。

#### 発表者:芳賀(経済)

昨日の会合で「グローバリズム」の次に出てくるキーワードとして、「グローバルスタンダード」、「アメリカ」、「至上主義」が出てくるかもしれないという話しは上がっておりました。これは、「グローバリズム」の内容にありませんので説明しませんでした。学生が「グローバリズム」にたどり着いた後、「グローバルスタンダード」を出してくるのは、一方的な押しつけになるかもしれませんし、統一規格でコンピュータがどこに行っても便利だという結論がでてくるかもしれません。いろいろな結論があると思います。

#### 質問者C

ソクラティックメソッドとはどのようなものですか。

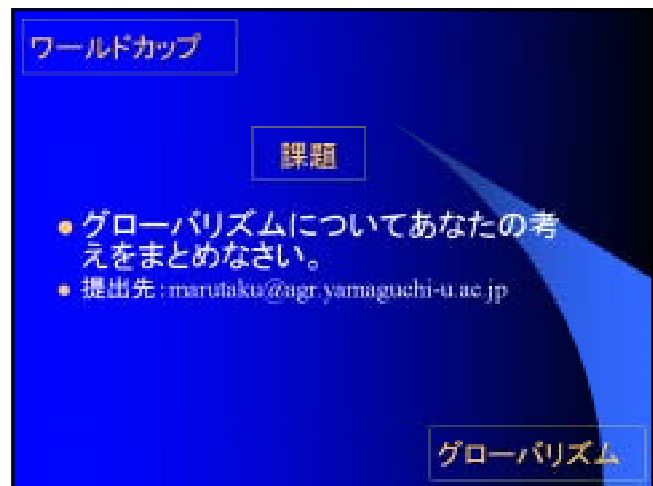
#### 発表者:芳賀(経済)

問答形式です。お互い対話しながら1つの議論を深めていくという考えです。社会科学、自然科学では1つの真実というのがありませんので、お互いに議論をして内容を確認、法的な考え方を身に付けていくということになります。

#### 質問者D

資料にはスライド記載があるのですが。

#### 発表者:芳賀(経済)



完全に順序が一致してはいないかもしれませんが、今ご説明したスライドで出てきました順番が記載されております。

F D 研修会報告書 (14年度第1回 第5班)

1. アイスブレイキング  
各自の自己紹介、リーダー(藤間)、タイムキーパー(芳賀)、記録係(上田、幡谷)の選出。所属学部は多岐に渡っていたが、経済学部以外の先生方はすべて理系であることから、発想法に偏りが出来ることも考えられた。
2. イメージマップの作成  
強制連結法を用いて「動機づけ(ワールドカップ)」から「学習目標(グローバリズム)」までのスキーマとリンクの作成。  
作成の前に問題になったのは、「グローバリズム」という言葉の定義である。それを明確にしなければ、講義案の作成は不可能であるが、「グローバリズム」という単語そのものがかなり曖昧なものとして日常使われている。とりあえずは、それぞれがイメージするもので、イメージマップを作成することとした。
3. 講義対象者の公表  
講義の対象者は山口大学に今年入学した1年生。学部は特定しない。学習目標に対する対象者の既存の知識にはかなり幅があると推察される。
4. 隣との交換、批評  
発想する内容、展開などに個人差が大きいことが理解された。ただ、この段階では発想するキーワードを連結しているだけなので、授業展開の方法は感じ取ることは不可能である。
5. OHPシートにまとめる
6. グループ内での発表  
各自の発表と批評。10分という限られた時間内で、非常に広範にわたる発想が展開されることは驚きであった。しかし、今回は、「出来るだけ多くのスキーマを・・・」という指示があったので、チェック項目のうち「内容が盛りだくさんすぎないか?」というのはいっていないのではないかと。この段階でも、授業を行うことよりも、各人の発想の違いを認識することの方が主目的ではないか?
7. グループ内討議および講義案作成  
講義案係には金折先生を選出。  
授業を行うことを前提に、スキーマとリンクを作成。我が班では、グローバリズムとは色々な事柄において国境がなくなった状態、すなわちボーダレス化がグローバリズムを作り上げるものという認識で、それが日常生活と如何に結びついているかを理解することを目標に授業を展開することにした。
8. 講義者の選出・授業資料作成  
講義者には芳賀先生を選出。PowerPointによる資料の作成。資料はなるべくシンプルな構成にした。
9. 予行演習  
時間の都合により予行演習を行うことは出来なかった。他の班でも同様であると考えられるが、予行演習をする時間が確保できれば、更に良いプレゼンテーションを行うことが可能であったと考える。特にプレゼンテーションの時間が短い班が多かったのは、予行演習を行えなかったのが原因であると考えられる。
10. 全体を通して(個人的な意見)  
二日目のマイクロプレゼンテーション後に、もう一度各班で模擬講義の批評を行ったほうが良いのではないかと。各々の講義に対する考え方を明らかにすることが出来ると思える。  
以上。

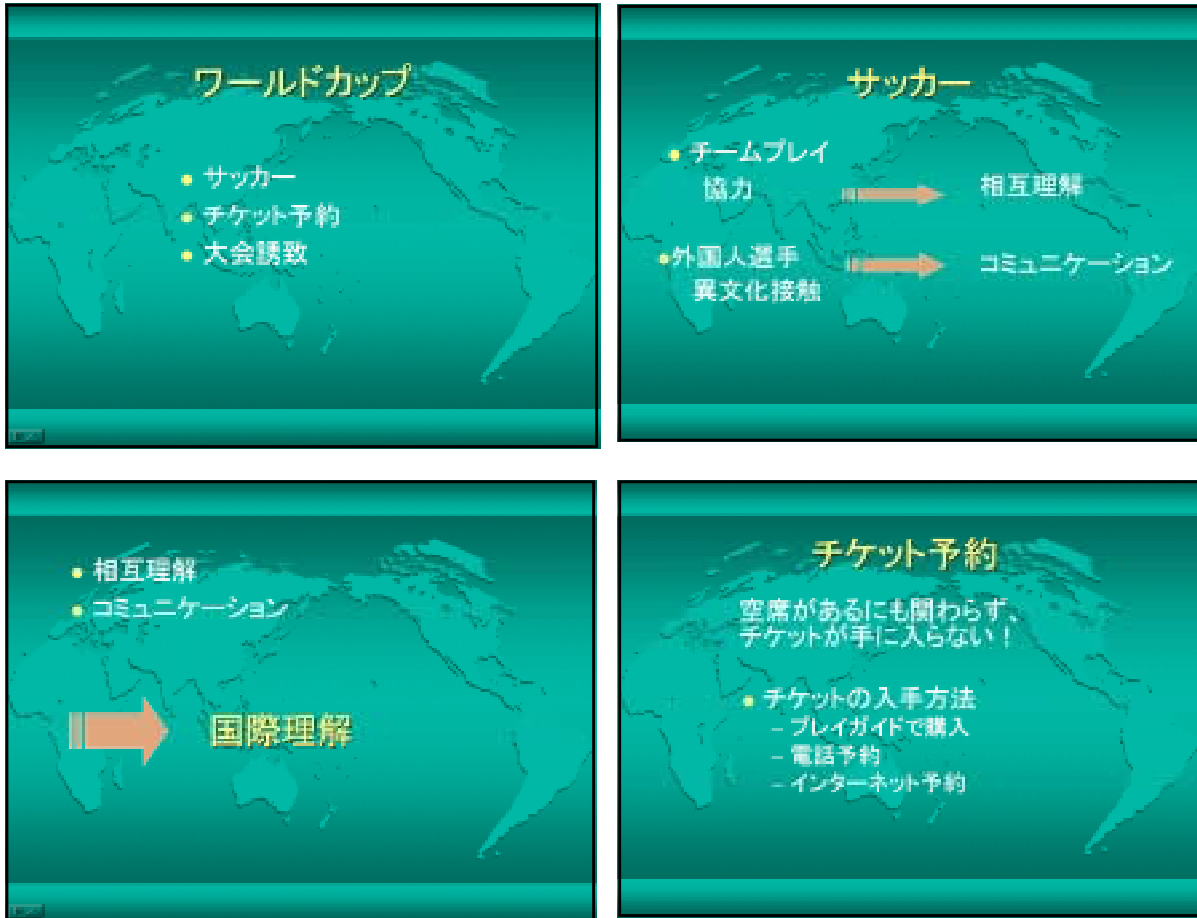
**6班:発表者:一ノ澤(経済)**

6班は、興味の違う新生に、抽象的な概念である「グローバリズム」をどのようにすれば理解してもらえるのかを考えながら進めていこうという趣旨で行いました。新生のスキーマとリンクを得るために単純化し、まとめました。講義の内容を聞いていただき、この件が上手くいっているかご判断いただきたいと思います。

テーマは「ワールドカップに見るグローバリズム」です。「ワールドカップ」から連想されるのは、6月に行われた「サッカー」です。ニュースでご覧



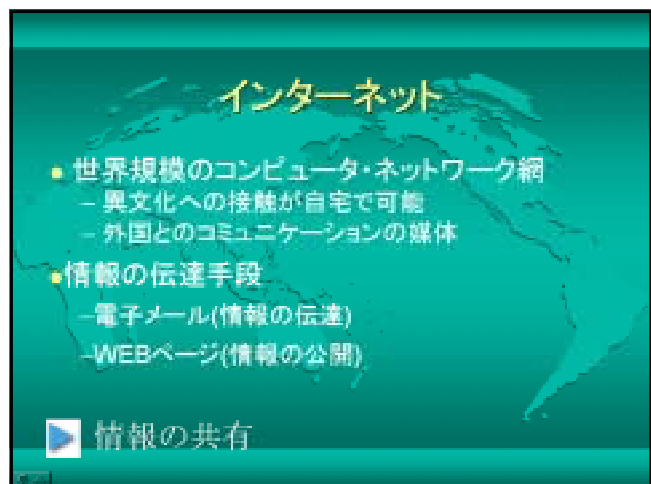
になった方もいらっしゃると思いますが、「サッカー」を見るための「チケット予約」が上手くいかないという問題が取り上げられました。また、「ワールドカップ」の1年以上前から「大会誘致」の問題が発生していました。この3つの観点から「グローバリズム」を考えていきたいと思っています。



まず、「サッカー」から連想できるのは何でしょうか。「サッカー」と言いますと「チームプレイ」です。「チームプレイ」が上手くいくためには「協力」が必要です。「協力」が働くために必要なものは「相互理解」です。

また、「サッカー」でイメージするのは中田選手がイタリアにいたり、小野選手が外国に行ったり、外国の選手が日本に入ったりと、「外国人選手」です。「外国人選手」が入ることによって、スポーツの中で、「異文化接触」が起こります。ヨーロッパ、南米などの「異文化接触」が日本でも行われています。「異文化接触」はまさに「コミュニケーション」です。「相互理解」と「コミュニケーション」が国を越えたレベルで行われると「国際理解」に発展します。

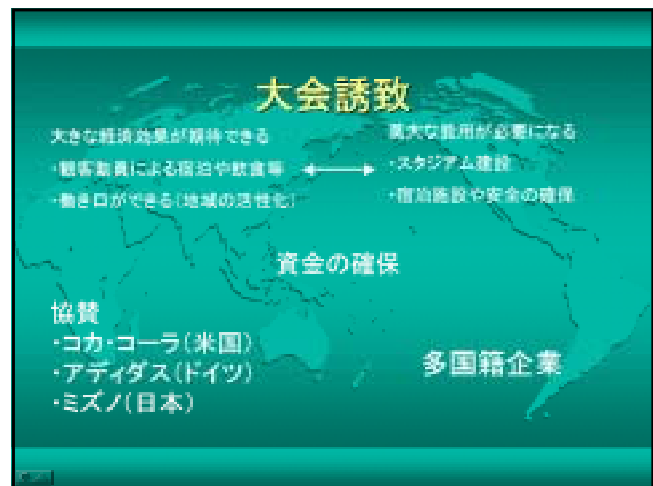
2つ目の流れとして「チケット予約」の問題がありました。「チケット予約」の問題とは、空席があるのにチケットが手に入らないという問題です。チケットの入手方法としてプレイガイド、電話で予約する、「インターネット」による予約があります。「インターネット」ですが、メディアとしての「インターネット」とは、誰もが、いつでも、どこでもコンピ



ユータの端末があれば自宅からアクセスすることができ、異文化との接触が可能になるメディアです。外国とのコミュニケーションを、「インターネット」を使うといつでもどこでも誰でも可能になります。情報の伝達手段として、電子メールを送れば世界中のどの人にも情報の伝達をすることができます。Webページを使用して世界中の情報を自分の家に見ながら見ることができます。インターネットを使用してできることは、「カレーの作り方から核兵器の作り方まで」を見ることができるといわれています。このようなインターネットを使用することによって、「情報の共有化」が生じます。以上のことが「チケット予約」から始まって言えることです。

3つ目の流れは「大会誘致」の問題です。「大会誘致」ができると、大きな経済効果が得られます。観客動員による宿泊や飲食、働き口の確保、地域の活性化が行われます。一方で、スタジアム建設、安全の確保をするために莫大な費用が必要になります。資金の確保の方法として、「協賛」が上げられます。皆さん、「ワールドカップ」の際にコーラを買ったと、そこにシールが貼ってあったり、コンビニでコーラを買ったとコリアジャパンのマークが付いているコーラのハンカチがおまけについていたりということもあったと思います。そのような形で協賛企業が入ります。協賛企業から出資してもらい、資金の確保が図られています。協賛企業としてイメージするのは、「コカコーラ」、アディダス、ミズノです。「コカコーラ」は元々米国の企業です。アディダスはドイツ、ミズノは日本です。これらの企業は色々な国々に現地法人を作り、世界的な規模で経済活動、企業活動を行っています。いわゆる「多国籍企業」といわれるものです。この「多国籍企業」は「世界市場」で商品を生産し、販売します。1国対1国の市場ではなく、世界を市場にして活動している企業です。これには悪い面も出てきます。それが、「貧富の格差の拡大」です。経済格差、南北問題、工業国、農業国の問題が発生していきます。しかし、「世界市場」を作ることによって貿易が活発になります。それにより、消費者は安く良い物を手に入れることができます。メリットである世界市場が上手く廻るという前提の上で、基準を作っていく必要があります。国と国とのレベルになれば条約になります。世界全体の国が入れば統一条約となります。統一条約ができれば、世界指標が上手くいくのではないかと思います。

サッカーから考えた文化、大会誘致から始まる経済、インターネットから始まる情報の3点をについてお話しさせていただきました。ワールドカップから考えて文化、情報、経済という面で考えられることは何でしょうか。文化という面から見ると、国際理解がなされたということが言えます。情報という面から見るとインターネットを通じて情報の共有がなされているということが言えます。経済の面から見ると世界市場が形成され、それが廻るようなシステム、または問題点が出始めているということが言えます。これら3点が「グローバリズム」の問題やその現れ方として挙げられました。6班の講義はこのような形でま



まりました。宜しくお願いいたします。

**司会(植村)**

質問をお願いいたします。

**田村(農学)**

コリア & ジャパンの順番はどういった基準で決められているのか。

**発表者:一ノ澤(経済)**

講義の担当者は抽選で選ばれたので解らないのですが、来週までに調べておきます。



**田村(農学)**

通常の世界大会はアルファベット順になるので何故かなと思いました。

**司会(植村)**

コリア & ジャパンという順番になっているのは何故かご存じの方いらっしゃいますか。アルファベットの順番で行くとJ、Kで反対です。アルファベット順ではありません。優勝戦を日本が取ったため、大会名は韓国が取ったという話があります。確証はありません。



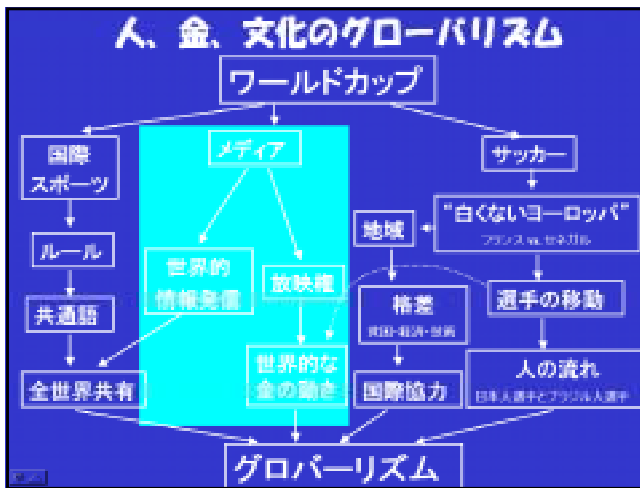
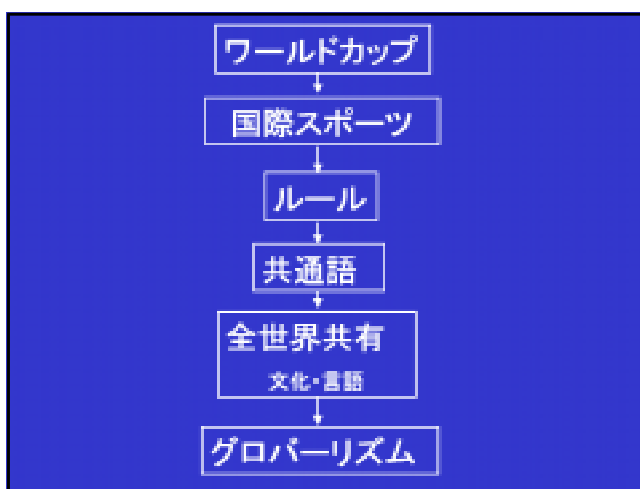
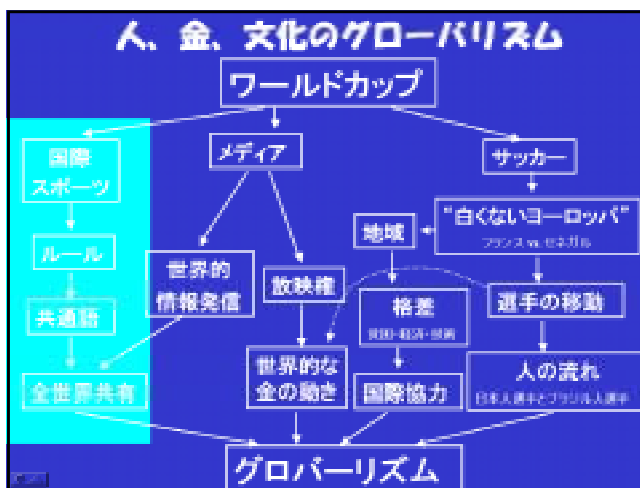
- ワークショップ風景 (発表を聴き入る受講者の様子) -

**第7班:発表者:藤井(理学)**

皆様、お疲れさまです。私達7班はキーワードとして「人」、「金」、「文化」がどのように「グローバリズム」に関わっていくのを見ていきました。「ワールドカップ」を例にとってお話ししますので皆様にも考えていただきたいと思います。

まず、全体の流れを示しました。大きく分けて3つの流れになりました。「人」と「金」の一部に関しては理学部の藤井がお話します。後半の「文化」に関しましては、人文学部の藤永先生がお話されます。

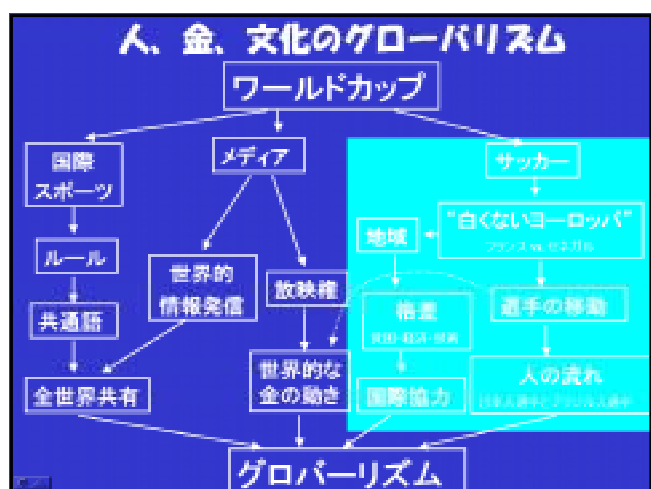
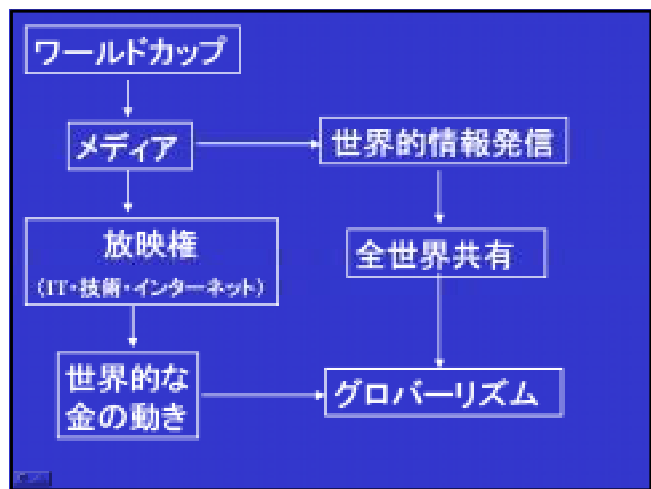
「ワールドカップ」。今日、何度もお話が出ているので、「またか。」と思われる方もいらっしゃると思いますがお付き合い下さい。「ワールドカップ」と聞くとスポーツの一大イベントと直感的に思います。中でも大体の人が思い浮かべるのがサッカーの大会です。サッカーは、何故このような国際規模の大会が行われるのでしょうか。サッカーの「ワールドカップ」が行われる際には FIFA と言われる国際サッカー連盟が主催し、このサッカー連盟に加入している 204ヶ国が参加します。その 204ヶ国が各地区の予選を勝ち抜き、本大会に進み、1次リーグを経て、決勝トーナメントで戦うという流れになります。204ヶ国が参加するということから、大きな大会であるといえます。ここで問題ですが、FIFA の国際ランキングは 204位ではなく、203位までしかありません。何故でしょうか。1つ足りない理由をご存じの方いらっしゃいますか。通常の授業ですと、ここで手を挙げてくれる学生がいて、「この学生は良い学生だな。」と思い、長い目で見てあげようという気がしてきます。国際ランキングが 203位であるのは、アフガニスタンが入っていないからです。理由はいろいろとされていますが、アフガニスタンは国際的に問題を抱えているので国際試合に参加していません。従って、アフガニスタンはランキングのしようがないというのが一説です。そのような「国際スポーツ」としてサッカーが位置づけられていますが、この大会が何故成功しているのでしょうか。1つは「ルール」があります。競技上の「ルール」はいろいろあります。サッカーゴールに点を入れれば1点入るというのも1つの「ルール」です。実際にサッカーをプレイする方ではなく、見る方のマナーといわれる「ル





ール」もあります。実際、サッカーが国際的に行われるためには、サッカーという「ルール」を介した「共通語」が生まれます。ここに集まっていた大学1年生世代であれば、サッカー=キャプテン翼というイメージがあるかと思います。キャプテン翼の名台詞を覚えていらっしゃる方、いらっしゃいますでしょうか。大学1年生であれば、ここで素早く手が上がって答えてくれると思います。キャプテン翼の有名な名台詞は「ボールは友達」です。これには解釈の仕方がいろいろあります。ボールそのものが友達、自分の体の一部と考えられる場合もありますし、ボールを介して友達が増えていくと考えられる場合もあります。これもテレビの有名なセリフですが、笑っていいものの「友だちの友だちはみな友だちだ。世界に広げよう友だちの輪。」というものもあります。このようにして共通語を話し話が広がっていくのではないかと思います。共通語を使用して、それを世界の人々が共有するということが大切です。「世界共有」には「文化」や「言語」のように代表されるものもあります。実際に、お互いを知ることから物事が始まり、サッカーや他の物を通じて相手のことを理解します。どちらかが一方的に物事を主張するのではなく、譲るところは譲り、意見として主張すべきところは主張します。このように相互理解をすることを「国際理解」と言い、この「国際理解」が最終的には「グローバリズム」に繋がっていくのです。第1の流れはこのように考えております。

次に「メディア」の話をしてします。「ワールドカップ」を考える際に、「メディア」の存在を忘れることはできません。「メディア」という言葉は漠然としています。色々な物があります。情報は「インターネット」や「IT」の技術を使用し、「メディア」を通じて、全世界に向けて発信されます。どこにいても情報が解るので、結果的に全世界が情報の共有をしているということになります。途中に入るレポーターや解説者の話において、映像として見るものはまったく同じものです。それをそれぞれの人々がどう理解するのか、お互いに理解し合うかが先ほど同様に「グローバリズム」に繋がってくるのではないのでしょうか。また、「メディア」から「放映権」が発生します。韓国&日本も非常に多額の「放映権」が発生しました。放送に関しては言うと、各家庭でワールドカップを見るためにテレビを新しく購入した、BS内蔵の技術を取り入れるようにした等いろいろな人がいます。例えば、テレビやビデオを購入しますが、テレビが完成するためには様々な部品が必要になってきます。それをどこで作ったか、流通ルートはどうか、と考えますと、1国だけで動いているということは考えられません。「世界的なお金の動き」が発生しているのです。すなわち、国際ビジネスの成立に繋がってきます。1国の独裁では国際ビジネスは成立しません。お互いに理解し合うものが必要になっ



できます。従ってこのような観点から「グローバリズム」がいえます。私からの話は終わりで、発表者を交替します。

### 第7班:発表者:藤永(人文)

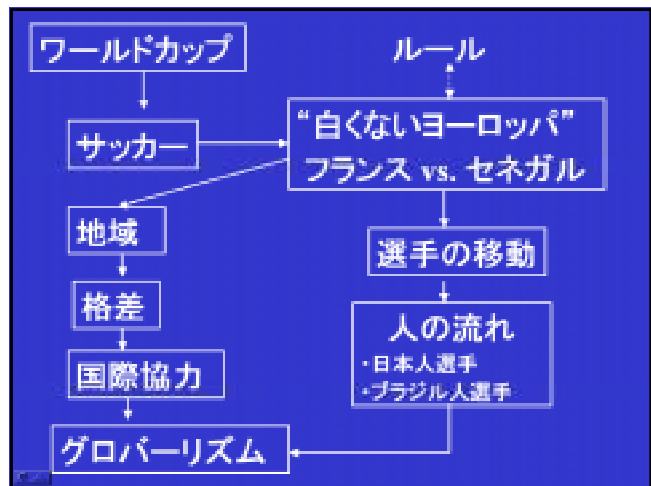
人文学部の藤永と申します。宜しくお願ひいたします。私も皆様を大学1年生という想定のもとでお話いたします。失礼がありましたらお許し下さい。

1年生に覚えてもらいたい言葉の1つとして、ambivalence があります。答えがないところを扱うのは大学の学問です。両価値性、両向性であり良いことと悪いことが一緒になっていてはっきりしないという分野です。「ワールドカップ」が11月に行われていれば、入学した人の顔ぶれはかなり変わったと思います。いくら受験生でも「ワールドカップ」は見るであろうということから紐解いていきます。「白くないヨーロッパ」、これは開幕戦のことです。開幕戦、日本戦、決勝戦は見た方が多いと思いますが、開幕戦でフランスとセネガルが戦いました。フランスのツートップの1人、アンリ。彼の祖先は西アフリカのセネガル出身です。ヨーロッパ

は他にもドイツに1人黒人がいました。前の大会ではオランダの中に多数の黒人がいました。ヨーロッパ代表といっても白人だけではありません。今や、ボーダレスの時代にあり、国境を越えた交流がなされています。本来、国民しかねない国の代表に外国人選手が選ばれるようになりました。それは現在、多くの政府が血統主義ではなく、属地主義という国籍の概念を使用しているからです。国が帰化を認めなくても、子どもがその国で生まれると市民権を与えられることが国際標準になっています。その結果、フランスは「白くないチーム」になってしまいました。白い人物ですが、ジダン

はアルジェリアです。このことから「選手の移動」が言えます。選手の親が移動しているというケースもあります。ボーダレスの社会というのは昔から続いており、「ワールドカップ」をきっかけに目に見える存在として登場してきました。それが、「白くないヨーロッパ」であり、選手が移動しているという事実です。オリンピックですと「150

の国と地域」という言い方をします。ワールドカップも「204の国と地域」という言い方をします。私は、地域とわざわざ言う所に興味があります。国と地域を分けるものは何かということを考えます。ルール、近代社会国、法話と統治がなされている所は国としての発言権が認められます。しかし国ではないところもたくさんあります。特に第1次世界大戦に遡ると多いです。1つの流れがフランスの「ワールドカップ」です。それよりもさらに大きな流れで人が動いています。日本とトルコが当たる際に、「FIFAのランキングでトルコは一番低い。」という



7班

- 藤永康政(人文学部)
- 和泉研二(教育学部)
- 浜島清史(経済学部)
- 藤井寛之(理学部)
- 岩本美江子(医学部)
- 山田 守(農学部)

特別メンバー:丸本 副学長

Thank you!

ことを聞いて、これは勝てるのではないかと思いました。トルコですが、試合中にハカン・シュキルという人物にボールがあたりましたが、彼は中田と一緒にパルマで活動しています。トルコの選手もほとんどヨーロッパで活動しています。ブラジルの選手であるロナウドはセリエAのインテルで活動しています。日本人がイタリアに行く場合と、ブラジルがヨーロッパに行く場合は意味合いが少し違います。そうした場合に見えてくるのは「地域」です。地域別予選といっても、そのフィールドは決して平ではありませんでした。何故、ヨーロッパはたくさん出場できるのに、アジアは3つしか出場できないのかという話しになります。ここで「格差」の問題がでてきます。この「格差」をどうすればよいのでしょうか。冒頭でもお話しした ambivalence です。このような状況が起きたために交流が深まり、他の国と知り合いになれた、他の国の文化が解った、というのは良い面ですが、悪い面では摩擦を引き起こしてしまいます。摩擦の例が、フランスの前の大統領選挙で予選を勝ち抜いたルペンです。国際協力が上手く行ければ、混沌とし、無秩序に進んでいる「グローバリズム」の両価値性の悪い側面を無くすことができるのではないのでしょうか。世界が「ワールドカップ」をきっかけに、悪い側面を無くす方向に行けばよいと思います。日本と韓国というのは悲しい歴史があり、長く環境も良くありませんでしたが「ワールドカップ」を一緒に行い国際関係が良好になったと判断できると思います。 ambivalence のなかで悪い側面を無くし、未来を考えていくことが重要ではないかと思えます。授業をこれで終わります。

### 藤原(経済)

発表者が2人いるのはルール違反になるのではないのでしょうか。

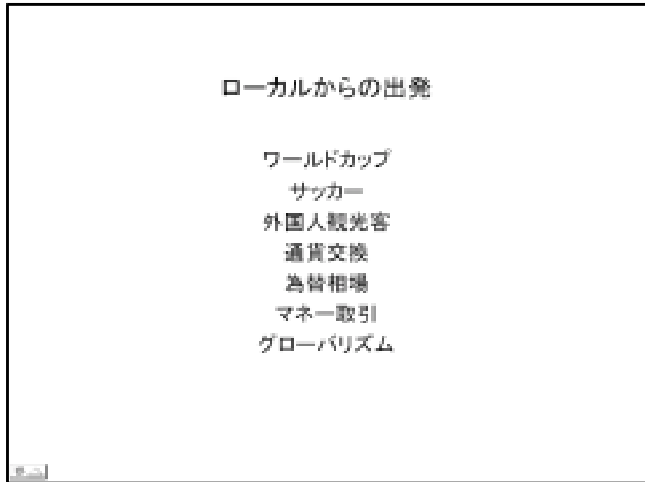
### 司会(植村)

最初からルールとして明確にするべきだったと思います。この場合はご質問があり、発表者が必ずしも1人でなくても良いと判断いたしました。しかし、20分ですので、たくさんの方が講義を行うのは難しいだろうと思います。

### 第8班:発表者:下寄(人文)

講義テーマは「ローカルからの出発」です。「ワールドカップ」が「グローバリズム」にどのように繋がっていくのかですが、「ワールドカップ」と一口に言いましてもいろいろなスポーツがあります。しかし、ごく最近、日本で開催されたということから皆さんが思い浮かべるのは「サッカー」です。「サッカー」の「ワールドカップ」というところから話し始めたいと思います。話は大きく4つに分かれていきます。1つは通貨にポイントをおいた話です。次にインターネットにポイントをおいた話です。次にテロリズム、ナショナリズムにポイントをおいた話です。最後に日本人の価値観、対人関係の築き方にポイントをおいた話です。

まずは通貨の話からしてみたいと思います。「ワールドカップ」と言ってもいろいろなスポ



ーツがあるのですが、ここではサッカーという観点から話を行います。この前のワールドカップの際には、大変な人数の外国人サポーターが日本に来ました。その中にはサッカーだけを見て帰ったという人もいるでしょうが、中にはついでだから日本を観光していこうという人もいたと思います。日本はどこへ行ってもいろいろな観光地がありますので、見るものには困りません。サッカーだけ見て帰るにしろ、観光するにしろ、外国の人が日本に来る場合しなくてはならないことは、「通貨の交換」です。外国人が日本に来る場合だけではなく、日本人が外国に行く場合も同じです。現地の通貨に交換するということが必要になってきます。私も以前外国に行ったことがあります。私が行ったのは、統一前の西ドイツです。通貨を交換した際に、「これがマルクというものか」と思った思い出があります。東ドイツにも少し足をのびしたのですが、当然、西ドイツ、東ドイツは通貨が違いました。東ドイツの通貨に比べると、西ドイツの通貨はおもちゃみたいなもので、東西の格差はこのようなものなのかなと、通貨を通して実感いたしました。通貨を交換する際に問題となってくるのが、「為替相場」です。昔、変動相場制であるとき、1ドル360円という時代がありました。その時代と今を比べてみると、円は3倍くらいの高さになってしまいました。ドイツマルクはなくなり、ユーロになってしまいましたが、マルクは20年くらい前には110円くらいだったと思います。ユーロになる間には50円くらいでした。時代とともに通貨の相場は変わっていきます。円はどんどん強くなっていきます。一時期に比べると弱くなってきていますが、それでもかなり強い力を保持しています。円が強いので外国から来た人は日本人でも泊まらないのではないかとというような安宿に泊まっていたようです。「為替相場」ですが、「マネー取引」によって相場が変動していきます。「円、ドルが強そうだから買っておこう」、あるいは「円がまずいぞ、中央金庫が回収されなくてはならない」といったことで相場は変わっていきます。「マネー取引」というのはまさにグローバルな行為です。ある人は「マネー取引というものが真の意味で唯一のグローバルな行為である」と言っています。通貨を中

ローカルからの出発

ワールドカップ  
サッカー  
チケット問題  
インターネット  
情報のグローバル化  
情報の世界同時共有  
規格の世界的統一化  
グローバリズム

ローカルからの出発

ワールドカップ  
サッカー  
来日  
交流  
異文化発見  
ローカリズム  
テロ  
テロ対策  
暴力に対する世界的意識の形成  
世界的協調  
グローバリズム

ローカルからの出発

ワールドカップ  
サッカー  
中国  
海外飛躍  
日本の理解度向上  
日本人の国民性の再評価  
日本人間関係の再評価  
非対立的協調手法の再評価  
国際緊張緩和  
グローバリズム

心とした話はこれで終わります。

次にインターネットを中心においた話に移ります。何人かの方がお話になっていらっしゃいますが、今回のワールドカップには「チケット問題」が取りざたされていました。ワールドカップのチケットは取るのが大変で、実際にとれた人はごく少数であり、大部分の人が取れませんでした。しかし、空席がたくさんあり、どうしたことかという問題になりました。いろいろと手違いがあったことが報道されていましたが、空席があるので急遽追加でチケットを販売することになりました。「チケットを取るぞ」と予約の電話を入れる人たちが大勢いたようです。「100回もかけていたが全然繋がらない」という人もいたようです。今回のワールドカップでは従来のように電話による注文ももちろんできたのですが、インターネットの注文もできたようです。これがいろいろ混乱を招いたようです。インターネットはいろいろと便利なことがあります。ワールドカップのチケットの注文もでき、様々な情報発信として利用することもできます。山口県のホームページを見ると、いろいろな市町村にリンクするようになっています。山口県のホームページを持っており、外に向かって情報を発信しています。こうしたホームページは世界のどこからも見るができます。小さな自治体だけではなく、各個人がホームページを開くこともできます。ローカルな情報、パーソナルな情報を世界に向けて発信できるという状況になりました。世界で日本語、日本文化を学んでいる人がどれくらいいるのかわかりませんが、かなり増えてきているのは事実です。そのような人たちがネットサーフィンをして日本の自治体や日本人の作っているホームページを見て、情報を得るということも起こっています。まさに情報がグローバル化していると言えます。日本のある町、村、個人が作ったホームページを外国の人が見る、あるいはホームページを通じて日本人が外国のいろいろな情報入手することができます。外国の情報は書物を除いて昔は得るのが大変でした。外国のニュースを聞きたいときには短波ラジオを使って聞くことができました。短波ラジオを使うしかなかったのですが、今ではインターネットで海外のニュースを見たり聞いたり自由に行えます。「情報の世界同時共有」をするためには、「規格の世界的な統一化」が必要になってきます。インターネットも日本史が使えない、ヨーロッパしか使えない、では困ります。今現在、あれほどインターネットが広まっているのは全世界と繋がっている規格が統一化され、我々がその恩恵を受けているからです。まさにグローバリズムです。

3つ目のナショナリズムやテロの話に移ります。サッカーのワールドカップでいろいろな人が日本に来ました。民間レベルの様々な「交流」がもたれました。外国のチームを受け入れた自治体における交流がもたれたりしました。そこでいろいろな異文化と接し、異文化を発見するということが行われました。実際に外国人と接した人だけではなく、ワールドカップで世界各地からいろいろな国々が来ています。その国々に関する説明もいろいろ行われていました。それにより、「異文化発見」が行われたと思います。たとえば、アフリカのセネガル、カメルーンが来ました。セネガル、カメルーンという国があるのは知っていても、名前は聞いているが、どんな国か、どこにあるのかわからないという人もいるのではないのでしょうか。今回日本にやってきたことにより、テレビでも取り上げられ、認識を深めたという人もいるのではないのでしょうか。異文化と接して分かることは世界には様々な文化があり、独自の宗教があり、独自の言語があり、「ローカリズム」の一つの形ですが、それが国、民族ということに結びつくと、「ナショナリズム」になります。「ナショナリズム」そのものが善、悪であるということはないのですが、「ナショナリズム」が変な方向に行ってしまうと、「テロリズム」に繋がっていきます。「テロ」は世界の様々な場所で起こっています。北アイルランドの問題、イ

スラエルの問題、アメリカの9月11日の問題です。アメリカの9月11日のテロは全世界が大変注目したのですが、世界のほとんどの国々が反テロという形でまとまっていきました。「テロ」があったらすぐ、ロシアのプーチン大統領が、ブッシュ大統領に電話をかけて、「対テロ」に対する姿勢を明確に表しました。まさに、世界が一つにまとまって、「対テロ」に対する姿勢を明確に表す事柄だったと思います。このテロをきっかけとした世界的なまとまりと言えます。

サッカーというと、日本では「中田選手」が海外で活躍しており、ワールドカップでも非常に注目されました。サッカーに限らず、野球のイチローもそうですが、日本人が「海外で活躍する」ということが見られるようになってきました。日本と聞くと、富士山芸者、集団行動している、個性がないという程度の理解しかしていない外国人もいます。伝統文化と最先端の技術が同居している不思議な国という理解もされています。しかし、外国で活躍しているスポーツ選手が登場してくることによって、「日本にはこのような一面があるのか」と日本への関心が強くなればよいと思います。それが、さらに、日本をもう一度見直してみようじゃないか、日本の文化はいったいどういうものなのか、日本をもっと深く知りたいという気持ちに繋がっていくと良いと思います。その中で特に日本人の人間関係の築き方、和を非常に大事にする、個人主義ではなくて、全体をうまくまとめていこうとする人間関係の築き方を世界の誇ってもいいのではないのでしょうか。今、いろいろなところで対立が起っていますが、この国際緊張を緩和する一つの解決の手だてになるのではないのでしょうか。あまりにもオプティミスティックな考え方になるのかもしれませんが、一つの希望です。以上で私の講義を終わります。

#### **司会(植村)**

ご質問ございませんか。

#### **浜島(経済)**

昨年のテロ以降、全世界がまとまってテロ対策をしたというお話でしたが、学生が行っていたということから、昨年のテロ以降爆撃が収まらない、それに対して、反抗している学生が募金活動を行っていましたが、テロに対してこのようなことを行う学生は一面的なものであると思うのですが。

#### **発表者:下寄(人文)**

もちろんその通りです。しかし反テロといったことでは、皆共通した姿勢があるのではないかと思います。それに対してどのような手だてを取るのかというのはいろいろあるかと思います。

1. 役割決定

- ・リーダー：古川先生
- ・タイムキーパー：早崎先生
- ・発表担当：下崎先生
- ・資料作成：田中先生
- ・記録係（スキーマ）：南部先生
- ・記録係（議事録）：藤田先生
- （欠席者：渡辺先生）

2. 作業予定

- 14：00 強制連結法による授業設計
- 14：30 休憩
- 14：35 グループ内発表
- 16：00 グループ内討議
- 16：30 講義案作成・講義資料作成

3. 進捗状況と議事録

- 13：30 <手順1> アイス・ブレイキング
- 14：00 イメージマップの作成<手順2～4>
- 14：10 新入生のスキーマに合致した内容になるかどうか、考える。
- 14：25 P P Cシートに書き込み完了
- 14：30 5分間個人発表開始

<手順5, 6> 個人発表に対するディスカッション

最初の4人分のディスカッション

- 1) 事件がらみのキーワードや話がほとんど。
- 2) p.3の最後の5行との関連はどうすれば良い？
  - 講義者の意図と聞き手のイメージの乖離があるかもしれない。
  - ポジ・ネガで切ることはいできない。
  - 単純な提案をしているだけかもしれない。
- 3) グローバリズムとグローバリゼーションとの意味の違い  
なぜグローバリズムになったのかを教えてもらえればよかった。
- 4) 早崎先生の発表  
枠を越えた考え方はなかなかできない。  
非常に共感できる。  
主要部分の肉付けが必要ではないか。
- 5) 古川先生の報告  
「グローバリズムはローカリズム・ナショナリズムだ。」  
世界を知ることによって自分を知る。  
スポーツが大きな影響を与える。  
地域で行っているにすぎないWCが、結局政治やなにやらのパワーにつながる。
- 6) 下崎先生のディスカッション  
アメリカがワールド・スタンダードになっていく。  
グローバリズムが相対的な位置を築く それでナショナリズムを生む。  
発想が共通してくる。

<手順7> 講義案をまとめる

- ・全員のアイデアからストーリー代案を作成
- ・最終的に4種類のストーリーにまとめる。

- 1) コリア・ジャパンのチケット問題
- 2) サッカー中田 海外への飛躍 日本の良いところをもって世界で協調しよう
- 3) サポーター 国際交流 民間 ローカリズム ナショナリズム フーリガン  
テロ 世界協調 多国籍群
- 4) スポーツ ルール アメリカ パワー リーダー 移民国家 モザイク 連邦

- ・キーワードの追加・削除、ストーリーの作成を行う。

上記4に 大国主義 経済対立 欧州連合 通過統合 国際通貨 グローバリズム  
「マネーがまさにグローバリズム」という主張を活かして、ストーリーの組み替えた。

- ・さらに、それぞれのストーリーを変更し、新たなパターンを作成した。
- ・最後に4つのストーリーをどの順序で話すかを考え、整序した。

<手順8> 16:35 資料作成のための準備

- 1) キーワードを洗練させた。
- 2) 資料づくりのための方向性：配布物の体裁の決定
- 3) タイトル・テーマの選定  
「ローカリズムとグローバリズム」「中田から学ぶもの」「なぜグローバリズム？」  
「ローカルからの出発」(決定)  
「日韓から世界へ」「日韓ワールドカップから世界が見える」  
「ワールドカップとカップヌードル」「グローバリズムへの問いかけ」
- 4) 配布資料の構成
- 5) パワーポイントの構成

<手順9, 10> 講義資料作成

- ・配付資料づくり(田中先生)
- ・パワーポイントづくり(早崎先生+古川先生)



- ワークショップ風景(発表の様子) -



# ワークショップの記録

( 9月24 / 25日実施 )

# ワークショップの記録（9月24 / 25日実施分）

## 司会(植村)

おはようございます。昨日は大変お疲れさまでした。少し早いのですが、2日目のワークショップを始めたいと思います。

本日は早く始め、できるだけ早く解散したいと考えております。本日用うことですが、基本的には授業の実演をしていただきまして、それを参加者の皆さんに学生授業評価をしていただきます。最終的には点数を出しまして、1位、2位、3位については、豪華かどうかはわかりませんが、賞品を出します。学生授業評価には良いところ、悪いところとあり、いろいろな諸条件、運不運、出番が早いか遅いかという要素により、変わってしまうこともあります。必ずしも学生授業評価が全てではないのですが、前回のFD研修では評価結果にそれぞれ納得していただいております。運不運もございますので、今日の結果が全てではないのですが、学生授業評価を付ける方向で進めたいと思います。

最初に順番を決めます。順番は結果に大きな影響を及ぼします。順番についてはくじ引きをさせていただきます。各班の代表者の皆さんは前に集まって下さい。よろしくお願いいたします。

1班の人からくじを引いてください。番号が書いてあります。済みませんが最後の7班の人が残りのくじになります。

順番が決まりました。1番目が、7班。2番目が5班、3番目が1班、4番目が3班、5番目が6班、6番目が4班、7番目が2班です。途中、1班と3班の間に学長講話がございます。学長は間もなく到着されると思います。それでは7班から始めさせていただきます。学生授業評価は、自分の班については評価をしないで下さい。基本的に自分の班の評価をしないというルールで行います。

講演につきましては15分で鈴1個、18分で鈴2個、20分でタイマーがなります。今回は20分まで間が持たないというケースが多かったようです。授業の後には質疑応答の時間を設けておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、7班の方始めて下さい。

**7班:発表者:中村(工学)** それでは7班でございます。私たちは山口大学の今年の新生を授業の対象にしております。ですから皆さん新生のつもりで聞いていただきたいと思います。それでは始めたいと思います。

皆さんおはようございます。今日は皆さんに「グローバリズムとは何か。」ということについて、授業で考えていただきます。私は今日の講義を担当いたします工学部の中村と申します。よろしくお願いいたします。

「グローバリズム」、この言葉を皆さん最近聞くようになったと思います。この言葉を

聞いて皆さんはどのようなことを思い浮かべるでしょうか。少し考えてみてください。約26万語入っている英和辞典の「リーダーズ」で「グローバリズム」を引いてみますと、「世界化」、「世界化推進政策」、「世界的関与主義」といった言葉が出てまいります。「リーダーズプラス」という「リーダーズ」に19万語新たに加えた辞書で見ると、「各国の利益より全世界としての利益を優先させる地球主義」といった意味が出ています。この授業で皆さんと一緒に



に「グローバリズム」を考えるのですが、辞書にはこのように載っています。しかし、辞書に載っている言葉でもみなさん受け取り方が違うと思います。このようなことを参考にしながらグローバリズムというのはどのようなことか考えていきます。

「globalism」、英語で書くところになります。もう少し簡単に考えるために分けて考えます。この「グローバリズム」のもととなっている言葉は、「グローバル」という言葉です。「グローバル」は「グローブ」の形容詞です。「グローブ」は、「地球」、「世界」、「天体」、「太陽」、「惑星」、「地球儀」、「天球儀」、「球」、「球体」といった意味があります。「グローバル」はこの形容詞ですから、英和中辞典には、「地球全体の」、「世界的なグローバルな」と載っています。「グローバル」は、既に日本語になっているといえるでしょう。さらに「全体的な」、「包括的な」、「球状の」、「球形の」といった意味があります。別の辞書で引いてみますと、「地球上の」、「世界的な」、「全世界にわたるグローバルな」とあります。これら言葉から類推しますと、「グローバル」は、「全世界的な」といった意味があるように考えられます。

皆さん新入生として山口大学に入ってきたわけですが、皆さんの身近にグローバルな経験はないでしょうか。普段皆さんは特に考えていないとは思いますが、無意識のうちに「グローバルな経験」をしていることはないのでしょうか。

例えば洋楽。皆さん音楽が好きで勉強の合間受験勉強を一生懸命しながらも聞いていたと思います。アメリカの音楽も、イギリスの音楽もあります。いろいろな国の音楽があります。このようなものも皆さんの身近にあるグローバルな経験ではないでしょうか。海外の音楽を聞いて、その海外のいろんなことを考える。詞を読んでみると海外の人が考えていることもわかるかもしれません。

他にはハリウッドを代表とする映画です。いろいろな国が映画をつくっています。ハリウッドでもつくられていますし、フランスでも香港でもつくられています。映画を通して、海外の風景、人の考え方を見ているのです。

他には留学生。皆さんの中にも留学生の方いらっしゃると思いますが、留学生の方とつき合ってみて、その国の考え方、習慣、いろいろなことに触れることができます。

他には海外旅行。皆さんはまだ入学したばかりで海外旅行の経験はないと思いますが、夏休

## グローバリズム(globalism)とは？

皆さんはどのようなことを  
思い浮かべるでしょうか。

英和辞典 リーダーズ (研究社) 26万語  
 世界化: 世界化(推進)政策, 世界的関与主義

英和辞典 リーダーズプラス (研究社) 26万語+19万語  
 《各国の利益より全世界としての利益を優先させる》  
 地球主義, グローバリズム

**globalism**

↓

**global(グローバル)**

globeの形容詞  
 地球、世界、  
 天体(太陽・惑星など);  
 地球儀、天球儀、球、球体

身近にある  
グローバルな経験

- 語学学習
- 洋楽
- 映画
- テレビ
- 留学生
- インターネット  
電子メール
- 海外旅行
- World Cup

みや春休み等の長い休みに海外旅行に行く。そうすると、言葉はもちろん、外国の生活習慣も学ぶことができます。外国の人との心の触れ合いを感じて世界を感じることができるかもしれません。

最近行われたことといえばワールドカップがあります。このために多くの国の人々が日本に来ました。ワールドカップでは同じルールのもとで競い合い、世界中が熱中しました。これも皆さんの身近にあるグローバルな経験であると思います。

他にはインターネット、電子メール。皆さんは新生なのでノート型パソコンを買ったと思いますが、ノートパソコンをネットワークに繋げることでインターネットを通して世界のことを知ることが出来、電子メールで世界の人と文通することが出来るようになりました。

他にはテレビです。テレビではCNNのニュースで世界のいろいろな出来事が取り上げられています。日本のことではなく世界中のいろいろなことをたくさん見るようになりました。

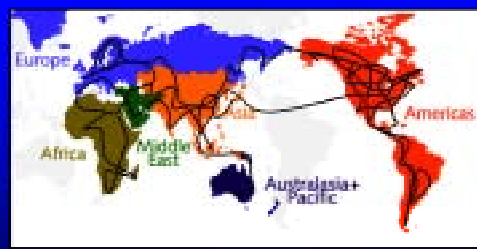
皆さんは中学、高校と英語の勉強をしてきました。これからも勉強すると思いますが、英語の勉強を何のために行っているのかと言いますと、海外の方とコミュニケーションをとるためです。

ですから、あまり意識してないと思いますが、皆さんの身近には「グローバルな経験」がたくさんあります。世界は皆さんのごく身近にあるのです。

例えばインターネットのネットワークですが、全世界を駆けめぐっています。電子メールを使えば、瞬時に世界の人とコミュニケーションがとれます。昔は手紙を書いて届くまでかなり時間がかかったのですが、今は出してしまえば数秒で届き、すぐに返事が返ってきます。「Yahoo!」などの検索サイトで海外のことを調べるとすぐに情報が入ってきます。日本にいながらルーヴル美術館にどのようなものがあるか、検索をかければ瞬時にわかります。昔は海外のことを知ろうと思うと非常に大変だったのですが、今は簡単にいろいろなことを知ることができます。自分もホームページを作り公開すれば、海外の人へ情報を発信することもできます。このように今の時代は、世界が本当に身近になっているのです。

それでは、「グローバリズム」とはどういったことでしょうか。辞書では、「世界化」、「世界化推進政策」、「世界的関与主義」、「地球主義」といったことが載っていました。それでは、

たとえば、インターネット・電子メール



世界とのコミュニケーションが可能  
世界の情報が簡単に入手  
世界へ向けての情報発信

世界が身近

World Standard  
世界標準化  
(共通のルール)

技

globalism

全世界が一つになること

多様な価値観の理解  
異文化理解

心

全世界が一つになること

文化 歴史 宗教 状況

多様な価値観

↓

多様な価値観の理解  
心を一にする  
globalism



「世界化」、「世界化推進政策」とはどのようなことなのでしょう。

私は、世界化をこのように考えています。世界化とは、全世界が一つになること。ただ全世界が一つになるといっても、それぞれ民族も違いますし、宗教も違います。それを同じ国として統一するというのは不可能なことです。「グローバリズム」は全世界が一つになることとして考えておりますが、これは心と技が一つになることであって、その国自体が一つになることではありません。例えば心で言いますと、世界には

いろいろな人が住んでいます。生活習慣も違えば、宗教、置かれている環境も違います。皆さん多様な価値観を持っています。そのような価値観を認めながら、お互いを理解していく。そうすると心が一つになります。これが「グローバリズム」ではないでしょうか。

もう一つは技。これにはいろいろ入るのですが、例えば先ほど紹介しましたインターネット、これを各国がそれぞれの規格で作れば世界共通として通信することはできません。同じプロトコルのもとで取り決めをしています。そうして世界が一つになっているのです。

ワールドカップでありましたようにサッカー。これもそれぞれの国が別々のルールで競い合えば一緒に競技できません。ですから「世界標準化」、「共通のルール」があって初めて世界が一つになるのです。私は、「グローバリズム」をこのように受けとめております。

皆さんの考えているグローバリズムとは、それではどういったものでしょうか。少し考えてみてください。授業の終わりに課題を出しますので、メモをとるなりしてよく聞いてください。

先ほど「グローバリズム」とは全世界が一つになることと申し上げましたが、それぞれの国にはいろいろな人がいます。文化も違いますし、歴史も違います。宗教も違いますし、状況も違います。多様な価値観も持っています。例えば宗教で言いますと、私のところに一昨年、イスラム教のイランから来られている先生がいました。その先生は、1日に5回、きちんと手足を洗ってからお祈りをします。それを私たち日本人は信じられないなという思いで見えていました。これが日本人の考えです。

ところが、他の国から日本を見るとどうでしょうか。日本人はキリスト教の方もいらっしゃいますが、キリスト教ではない方もいます。ところが、クリスマスになればクリスマスプレゼントやケーキでクリスマスを祝っています。これをイランの国の人が見ると、「日本人は信じられないことをしている。」と思うのです。日本人は宗教を余り重んじていません。これもイランの方から見ると信じられないところだと思います。やはり価値観が違うのです。以前私のところにアルゼンチンの留学生いました。テレビのニュースでどこかの会社が不祥事をした時に社長以下全員を処分されるということを放送していました。日本ではそれを連帯責任と呼びますが、そのような話を彼にすると「信じられない。」と言っていました。「自分の国であれ

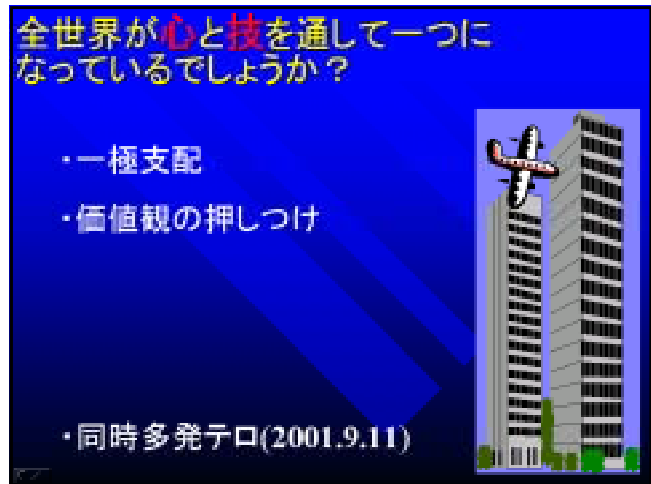


標準化されていると便利

世界標準化  
(共通のルール)  
World Standard

携帯電話の通信方法  
パソコンの通信方法  
DVDの記録方式  
⋮

技を一つにする  
globalism



全世界が心と技を通して一つになっているのでしょうか？

- ・一極支配
- ・価値観の押しつけ
- ・同時多発テロ(2001.9.11)

ば、悪いことをした責任のある人だけが処分されるべきであり、社長以下全員が処分されるようなことはない。」と言います。ですから日本人の常識が世界の他国の人から見ると信じられないと感じる場合もあります。

私はパジェロという車に乗っています。アルゼンチン人はスペイン語を話しますが、パジェロという名前を見て変な顔をします。パジェロというのは、スペイン語です。日本で意味を知っている方は少ないと思うのですが、スペイン語では非常に卑猥な言葉です。興味のある人がいましたら、スペイン語の辞書で引いてみてください。アルゼンチン人は卑猥な単語のパジェロを日本人は恥ずかしげもなく乗っているという点が信じられないそうです。このように多様な価値観があるのです。私たちの常識が全然常識ではない場合もあります。世界を一つにするために、全てを同じにするのは無理です。ですから、こういう多様な価値観を理解して、心を一にすることがグローバリズムではないでしょうか。



現在、携帯電話の通信方法は統一されていませんが、仮に通信方法が統一されアメリカに行っても、イギリスに行っても、フランスに行っても、中国に行っても携帯電話を使えるといったように、通信方法が統一化すれば、どれだけ便利でしょうか。パソコンの通信方法は統一されています。例えばDVDの記録方式。アメリカDVD、フランスのDVD、全部同じ規格で統一されています。そのため、海外の映画も同じように見ることができます。もし、この規格が違えばどんなに不便でしょうか。

ヨーロッパでは通貨もユーロという形で統一されています。通貨が統一されているとどれだけ便利でしょうか。スポーツも料理もそうですが、こういった意味でもう一つ「世界標準化」、「共通のルール」をつくるということも非常に大切だと思います。先ほど説明した多様な価値観を理解するというのは、心の面の話しですが、こちらはどちらかというところを一つにするという話しになります。これも「グローバリズム」ではないでしょうか。

先ほど「グローバリズム」とは全世界が心と技を通して一つになることだと申しましたが、現在の状態では一つになっていると言えるのでしょうか。例えば、アメリカの一極支配、これは自分達の価値観を押しつけているということにならないのでしょうか。また、私たちは世界化と言いながら、アメリカの方ばかり向いてはいないのでしょうか。アメリカのことはよく知っていますが、東アジア、西アジア、アフリカの知っているのでしょうか。このようなことの一例として同時多発テロがあったのだと私は考えています。全世界を考えた地球人になるためには、このような多様な価値観の理解と世界標準化が私は必要だと考えます。皆さんはどうお考えになるのでしょうか。

それでは課題です。来週までにあなたの考えている「グローバリズム」について 800

**課題**

あなたの考えている  
**globalism**について800字  
以内で述べよ。

字内で述べてください。 以上で今日の講義を終わります。ありがとうございました。

#### 司会(植村)

7 班の講義が終わりました。御質問、御意見はございませんでしょうか。今、学生授業評価のシートを配っております。7 班の人は書かないでください。

#### 司会(植村)

次の 5 班の方、準備をお願いします。それでは 5 班をお願いします。

#### 5班:発表者:藤川(人文)

では 5 班の発表をさせていただきたいと思えます。

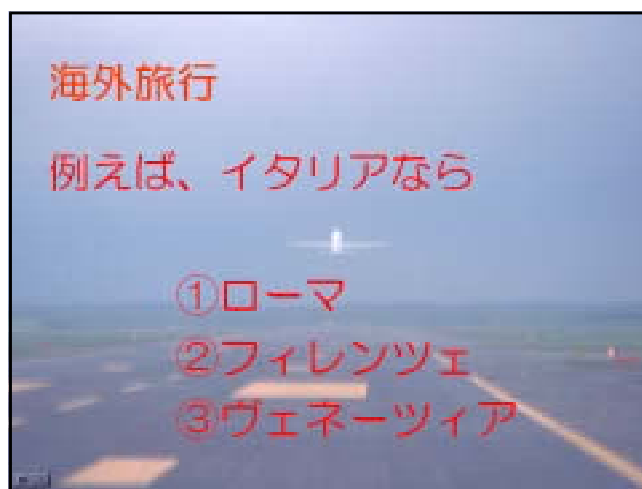
私たちの班は、学習者の設定を「ときめきのある山口の女性」と設定いたしまして、ときめきをキーワードに「グローバリズムとは何か?」という学習目標に向かって、強制連結をフルに活用しながら講義設計をいたしました。

それでは始めさせていただきます。私は人文学部の藤川と申します。よろしくお願ひします。

一口に「ときめき」といってもいろいろ考えられると思えます。胸のときめきといっても、色恋に関することだけではありません。今、季節は秋ですが食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋、日常のいろんな対象に向けてときめきを感じることができると思えます。そのような日々のときめきの中で、海外旅行を考えてみます。場所が違えば普段は対象としていないものに対してもときめきを感じることができるとは思いませんか。例えばイタリアを考えてみます。

イタリアというのはいろんな観光都市を擁しています。オードリー・ヘップバーンが主演しました「ローマの休日」のスペインのシーンが印象的です。そうした映画の背景、モチーフ、シチュエーションになったローマ、フィレンツェ。また、イタリアはルネサンス時代に絵画芸術や彫刻芸術、芸術の中心になり、レオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロ、ラファエロといった数々の有名な芸術家たちを輩出いたしました。そうした人たちの作品が美術館で見られる花の都フィレンツェ。ゴンドラに乗ってサンタルチアの歌を聞きながら町中を走っている運河を周遊することができるロマンチックな水の都ベネチア。このようにローマ、フィレンツェ、ベネチア等、有名な観光都市をイタリアは擁しています。

イタリアにときめきというキーワードで生きる喜びを学びたいと思えます。イタリアには古くから「マンジャーレ」、「カンターレ」、「アモーレ」という言葉があります。それぞれ「マンジャーレ」は「食べる」、「カンターレ」は「歌う」、「アモーレ」は「愛する」という意味




です。この3つの言葉は、「イタリアに來たらおいしいものを食べて楽しく歌って人を愛するような生き方をしましょうよ。」という呼びかけがあるように思います。私たちが日々生きていく上で一番大切なことをうまく言い当てている言葉のように思います。

最初に申しましたが、この講座のテーマは「グローバル化とは何か?」ということです。ときめきという単語が多様な対象を持つように、「グローバル化」という単語もいろいろな解釈の仕方があり、一口では説明ができませんが、言葉そのものの意味を少し分解して考えると、この言葉の最初の「グローバル」部分ですが、これはもともと「グローバル」、さらにいえば「グローブ」という言葉から来ています。「グローブ」が最終的に「グローバル化」という単語になったのです。「グローブ」という単語は「地球」、「地球儀」、「球」といった意味があります。「地球儀」から、丸い球が用意にイメージできます。「グローバル化」は、私たちが生きている世界を、一つのまとまった丸い球の形で捉えるという意味を持っています。地球を一つのまとまった形で捉えるとき地球温暖化の問題が挙げられます。地球を覆っているイメージでその表面を球の形で考えることができます。「地球全部覆うような」という表現から、何か思い当たるキーワードはありますか。何年も前から有名になっている言葉ですが、「インターネット」があります。ホームページや電子メールで利用しているインターネットですが、これを成り立たせているものがWorld Wide Webという技術です。World Wide Webは、それぞれの頭文字をとってWWWという表記をします。この最後のウェブの部分、通信網という言い方をしますが、網という意味です。インターネットの通信網は、世界全体、地球全体を覆っているイメージがあります。インターネットの普及がグローバル化、世界的な規模での情報の流通や人の交流を非常に加速的に推進しました。

インターネットの普及により、海外旅行をするのも随分と便利になってきました。例えば航空券の手配ですが、ホームページを利用することにより、格安の航空券を探すことができます。旅行会社は日本旅行、JTB、エイチ・アイ・エス等がありますが、どこが一番安いチケットなのかが分かり、一番有利なものを使うことができるようになったのです。ホテルの手配、宿泊の手配も可能です。予約の確認がホームページ上でできるようになりました。まだ数は少ないのですが、先ほど上げたローマ、フィレンツェ、ベネチアのような有名な観光都市にある町の三ツ星ホテルや四ツ星ホテルはホームページを持っており、「開いているか」、「金額は幾らか」、「このシーズンは幾らぐらいするのか」等をインターネットで検索できます。他にはイベントや観光情報などの確認ができます。これから自分が行こうとする滞在先の都市に今どんなイベントがあるのかという情報を、政府環境局を初めとするホームページによって手に入れることができます。他には町の地図をインターネットで表示させることができます。このようにインターネットの普及で、旅行の準備、

イタリアに学ぶ  
生き活きた生き方



マンジャーレ (食べる)  
カンターレ (歌う)  
アモーレ (愛する)

インターネットで  
便利になったこと

- ・航空券の手配
- ・ホテルの手配
- ・イベントや観光情報などの確認



下調べ等が随分と便利になりました。インターネットは、アメリカで誕生した技術です。インターネットの普及により、英語があたかも世界公用語のような印象で、世界中に浸透しています。インターネット以外にもアメリカ化が起っています。私たちの身近にもアメリカ的なものを思い起こすことができます。

例えばマクドナルドです。一昔前にはコカ・コーラでしたが、世界中にコカ・コーラのロゴマークが溢れ、その当地の言葉で書かれた瓶入りのコカ・コーラが売られていました。今やいろいろな都市に行くとマクドナルドの「M」の文字を見ることができます。

他にはハリウッド映画です。最近の映画で、世界同時公開というのが売りになった映画がありました。これも、めずらしくはないことです。

他にはユニバーサルスタジオやディズニーランドです。ディズニーランドはヨーロッパにもあります。このように、アメリカの娯楽は世界中に展開しています。そのような様子を私たちは新聞で見ることによって感じることができます。

他にはジーンズ。「衣食住」という言い方がありますが、その中の「衣」、「食」は、私たちの身の回りに随分とアメリカ的なものがあり、それが自然に感じられるくらい浸透しています。

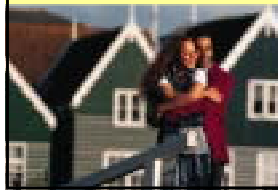
このアメリカ文化の浸透についてもう少し考えてみます。先ほど紹介しましたイタリア旅行でベネチアでもフィレンツェでもローマでもいいのですが、マクドナルドのお店を見つけて少し安心した気分になります。メニューを知っており、注文も簡単なので、安心します。英語が通じます。私も面倒くさくて入ることがありますし、私の友人も「マクドナルドは安心だよ。」と言い、入ってしまう人がいました。

長く滞在する中で、1回や2回マクドナルドや、他にも結構安心な日本料理店や中華料理店に助けられるということはあるかもしれません。しかし、日本に帰ってくることを思えば、せっかくイタリアに行ったのですから、マクドナルドのビッグマック、チーズバーガーよりも、スパゲティーやピザを注文して食べてみたいものです。メニューは英語で書かれたイングリッシュメニューを置いているお店もありますが、他は当然イタリア語で書かれたものです。自分で少し簡単なイタリア語を覚えて行ってはどうでしょう。「ボンジョールノ」から始まって、「これ、下さい。」という意味の「ケストボーレイ」。お皿が来たら「ありがとう」という意味の「グラッチェ」を返してあげたいと思いませんか。帰るときには「さようなら」という意味の「チャオ」で挨拶を交わす。当地の言葉を少し覚えて行き、その言葉でコミュニケーションをする。このようなことが海外旅行を豊かにするのだと思います。

ときめきある山口の女性である皆様に、グローバリズムの時代に大切なものを結論

## 世界中で進むアメリカ化

- ・マクドナルド
- ・ハリウッド映画
- ・ジーンズ . . . etc.



## グローバリズムの時代に大切なもの

- ・輝く個性
- ・豊かな感性
- ・開かれた知性

として申し上げますと、一つは輝く個性です。輝く個性を持つ人であってほしいと思います。グローバル化は、言ってみれば均質化していくということです。いろいろなところに行っても同じようなものがあり、同じような風景、文化、行動様式、考え方、このようなものが浸透していくのです。その中で、イタリアにはイタリアの、日本には日本の個性があっても良いはずですが、イタリアに行って日本で体験できるようなことを体験して帰ってくるのでは、おもしろい海外旅行にはならないでしょう。やはりイタリアでしかできないことを肌で感じ、海外旅行から帰ってくる。この世界が均質化していくようなグローバル化の時代に個性というものはますます貴重になっていくのではないのでしょうか。

ハリウッド映画でも言えることですが、いつもよく見るシーンやテーマがあります。爆発シーン、家族を大事にするというテーマ、恋愛のハッピーエンド。いつも同じようなエンディングを見せられているような気がします。このようにパターン化されたものではなく、多様なものがあるはずですが、恋愛もそうです。アメリカ映画とフランス映画では恋愛の書き方が違います。「ときめきのある女性の皆様」としては、いろいろなものを見て豊かな感性を持ち続けていただきたいと思います。

最後に、開かれた知性。当地の言葉を覚えるのは少し面倒かもしれませんが、こういった努力が豊かな感性や感動する体験に繋がっていくと思います。これは異文化理解にも繋がっていきます。自分にも個性があるが相手にも個性があります。相手の個性を理解するという開かれた心を持ち、許容することができる知性を持った女性であってほしいと思います。

グローバル化は、一方では世界が便利になっていきますが、他方ではそのひずみが出てくるのです。地球温暖化の問題もですが、昨年9月11日のテロ事件を思い出して下さい。あれはアメリカの世界的な経済の支配力から生まれたひずみであり、終えん化されてしまった人たちの悪あがきであります。痛ましい事件に発展した、とんでもない行動でした。

一方では、貧富の差がどんどん拡大しています。このような問題は地球規模で展開しています。しかし、個性を大事にする気持ち、感動する気持ち、そして開かれた態度、考え方によって少し良い方向に展開するのではないかと思います。

以上です。御静聴ありがとうございました。

#### **司会(植村)**

ありがとうございました。御質問、御意見ございませんでしょうか。

#### **森田(工学)**

本日のテーマは「グローバルズム」でした。講義の中で「グローバル化」については分かったような気もするのですが、「グローバルズム」の話は余り無かったように思います。この違いは何なのでしょう。

#### **発表者:藤川(人文)**

私たちは講義設定を市民講座としたため、大学が市民の方に対してどのようなメッセージを発信できるのかということに主眼をおきました。「グローバル化を通して何を伝えるべきか」に学習目標を設定したため、「グローバルズムとは何か」に直接向かってはいきませんでした。「グローバル化」という状況を通して、私たちは世界の問題を考え、個人的に自分があるということ意識し、生きる指針、稟議のようなものを御提示できればと思いました。このような設計方針で進めたので、最終的に「グローバルズム」という観念には向かいませんでした。よろしいでしょうか。

#### **司会(植村)**

ほかに御質問等はありませんでしょうか。

### 沖(大学教育センター)

ありがとうございました。今回はターゲットが女性でしたが、ターゲットを特に「ときめきのある山口の女性」にされた理由、その女性のレディネスに合わせた部分がどういうところであり、どういう工夫されたかを詳しく教えてください。

### 藤川(人文)

対象を「ときめきのある女性」に設定したのは、講師が楽しく講義ができるといった理由からです。私は必ずしもそうとは言えないような気もするのですが、同じ講義をするのであれば、「ときめきを持った女性」のきらきらしたまなざしを受けながら講義を展開したいということが出発点です。

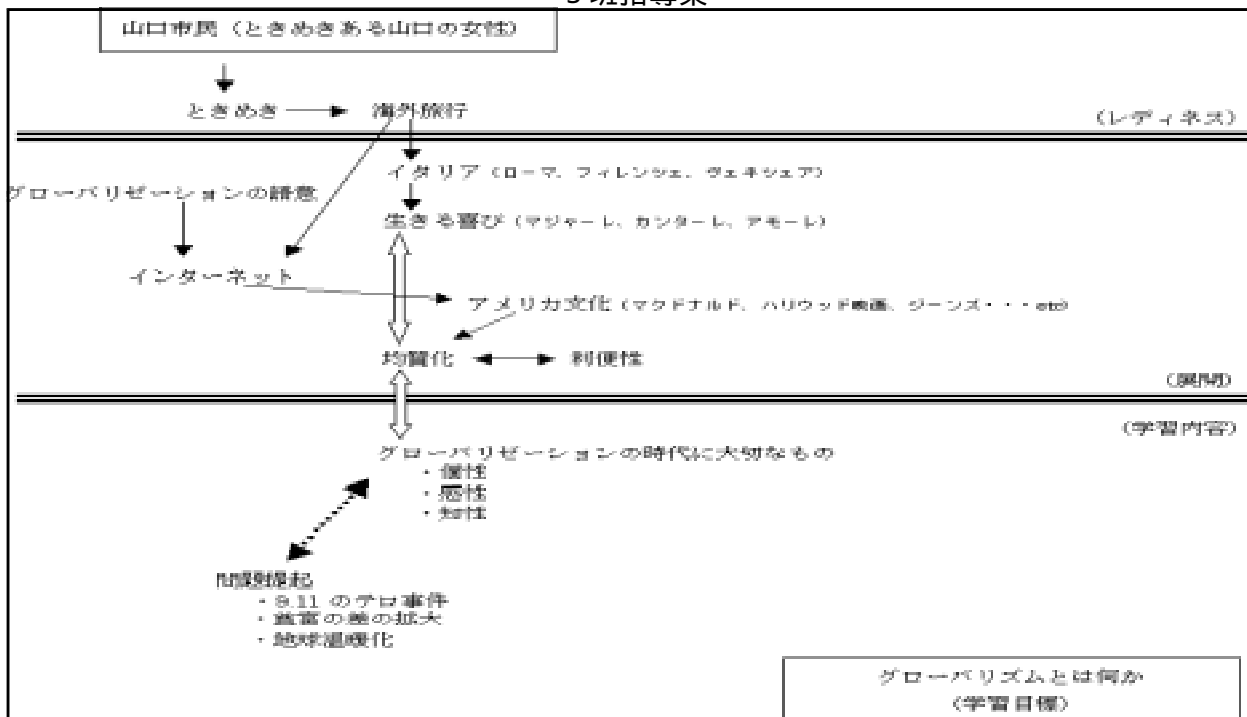
もう一つあります。強制連結法を上手に活用しなくてはなりません、「グローバリズム」に持っていくまでの連結を強制的につくっていくということが一つのワークショップの目的としましたので、あえて困難ではないだろうと思われる「ときめき」というキーワードから始めてみました。工夫したところは、海外旅行というキーワードを用いることで、グローバリゼーションにたどり着いたところです。先ほど発表いただいた7班の講義では、辞書を随分活用されて、しかも多様な例を引きながら講義設計をされていたと思います。私どもの5班でもいろいろなグローバリゼーションについての状況、事例を説明するようなカードは随分集まっていたと思います。しかし、それをたくさん出して市民である山口の女性にどれだけ持って帰っていただけるだろうかということ考えたので、逆にそれを全部そぎ落としていくという設計がレディネスへの配慮とになっています。よろしいでしょうか。

### 司会(植村)

ほかに御質問ないでしょうか。

それでは、次の1班の方準備をお願いします。5分程度休憩したいと思います。

### 5班指導案



平成 14 年度第 2 回 FD 研修報告書

第 5 班：藤川(発表者)、末廣、谷、羽野、季村(記録)、原田(司会)、松井(報告者)

「ときめきのある山口の女性」のための市民講座：グローバリズムとは何か

専門の異なる先生方が一同に集まり、ユニークな発想が飛び出す中で研修が進められた。1 日目のワークショップでは、対象者を山口市民として各自のイメージマップを作成した。そこで得られた小テーマとして、情報、経済、政治、文化、国際、環境が挙げられ、われわれは現在、グローバリズムの真只中にあるとの認識で一致した。さらに学習目標として、グローバリズムには情報の利便性、政治、経済による豊かさの享受といった良い面がある一方で、それぞれの地域固有の文化を凌駕する恐れとして均質化を生み出すマイナス面もあることを問題提起していくこととした。

この時点で、対象者の設定について再度検討を行い、実際に市民講座に参加する女性が生き生きと元気であることから上記タイトルとし、強制連結法を「ときめき」から「グローバリズムの時代に大切なもの」へ向けて討議を行った。そして、レディネスでは女性に親しみやすい内容として「ときめき」「海外旅行」「イタリア」「食・歌・愛」を想定した。ここで「イタリア」としたのは、文化の固有性を示す上で女性になじみやすい国であると同時に、2001 年ジェノヴァ・サミットではグローバリズムに対する抗議行動が起きた点にも因る。さらに「インターネット」「アメリカ化」をスキーマにグローバリズムについて触れ、「グローバリズムの時代に大切なもの」として「輝く個性」「豊かな感性」「開かれた知性」を「ときめきのある山口の女性」に伝える学習内容とした。また、全体を通して硬い表現を用いないよう配慮した。

2 日目、これらの強制連結法をもとに、ワークショップではパワーポイント、途中に黒板を用いてプレゼンテーションを行った。その結果、話し方、教員の態度、メディアの効果的使用については比較的良い評価を得た一方、有意義、わかりやすい説明という点でやや課題が残る結果であった。以上、この度の FD 研修の参加では、これらの課題と参加賞の栄養ドリンク、先生方との有意義な交流が最大の土産となった。



- 優秀班の表彰風景 -

(この写真は、本文とは関係ありません)

## 司会(植村)

そろそろ再開したいと思います。よろしくお願ひします。先ほどから加藤学長が来られております。それでは、1班の発表です。よろしくお願ひします。

### 1班:発表者:福代(工学)

第1班の福代でございます。工学部から参りました。7班と5班のハイレベルな発表を見ますと、もう手が届かなくなったという感じを受けましたので、地道に頑張つて成果を報告したいと思ひます。本日の発表の講義対象は、山口市内の公立中学校の3年生です。それでは、発表させていただきます。

グローバリズムとは何かという問題を中学生の皆さんに伝えたいと思ひます。まず、皆さんの身近な例からグローバリズムを考えたいと思ひます。

皆さん大体知っていると思ひますが、イチロー、中田等、海外で活躍しているスポーツ選手がいます。イチローは大リーグ、中田はセリエAに行っていますが、最近は何にもたくさん、日本人の若いスポーツ選手が外国で活躍しています。これは言ってみれば人の国際化という言葉でくくることができると思ひます。スポーツ選手だけではなく、英語力の抜群な人はアメリカへ渡ったり、香港へ渡ったりして世界的に大活躍しています。このような人の国際化が今大変進んでいます。ですから中学生の皆さんも英語を頑張ることによって、外国で働くチャンスがこれからどんどん広がっていくと思ひます。

身近な例の2つ目として、ユニクロが挙げられます。ユニクロは山口県が発祥の地です。皆さんの住んでいる山口県からスタートして全国展開しています。最近の成績は難しいものがありますが、誰もが知っている一つのブランドになりました。ユニクロにより比較的安い服を皆さんは手に入れることができます。これは主として中国で作っております。つまり皆さんの着る服は、外国から集められ、手元に届くのです。これは言ってみれば物の国際化です。ユニクロの服だけではなく、例えばマクドナルドのハンバーガー等の食べ物も世界のあちこちから集まってきています。結局皆さんの生活に身近なものの多くは世界中から集まってきている状態であり、物の国際化が進んでいます。

皆さん多分お持ちだと思ひますが、携帯にはメール機能がついています。進んだ携帯になりますとパソコンと同じようにインターネットにアクセスできます。そのような携帯を持っている人もいます。「IT社会になった」と言いますが、要は皆さんの持っている携帯によって世界中へつながっていくことができまるようになったということです。昔日本の中だけで電話が行われていたのが、携帯のメールを使えば、世界のどこ

## グローバリズムとは何か？ (平成14年度山口大学 FD研修会)

- ・ 日時:平成14年9月25日
- ・ 場所:山口徳地少年自然の家
- ・ 第1班 報告者 工学部 福代 和宏

### 国際化の例

- ◎イチロー・中田 → 大リーグ、セリエA  
人の国際化
- ◎ユニクロ(山口県発祥の地)  
→ 中国製の服  
物の国際化
- ◎ケータイ、メール → IT社会  
情報の国際化

へでも連絡がとれるようになります。また、パソコンを使用すると、英語さえ解れば外国の情報を自分の家で知ることができます。これは情報の国際化です。人・物・情報、それぞれの国際化が今非常に進んでいます。

国際化自体は余り目新しいものではありません。何故かという、例えば皆さんの住んでいる山口市には昔大内氏という大名が治めていました。大内氏がどうやって栄えていたかという、中国、朝鮮、ポルトガル等と貿易を行っていたからです。ザビエル記念聖堂があり、キリスト教文化が山口市に昔入ってきていました。何百年も昔から

国際化というのは行われており、昔はその最前線だったこともあるのです。国際化とは言っても、現在言われている国際化はグローバリズムという名前で新たに言われています。

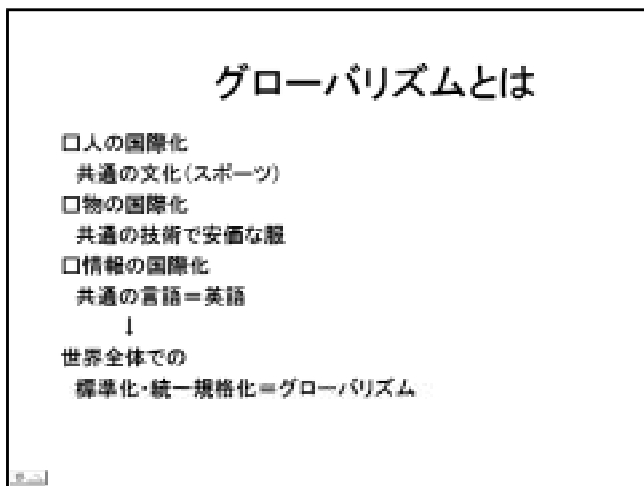
どこが今までの国際化と違うのでしょうか。人の国際化は、例えば先ほど申し上げました大リーグ、セリエAのことですが、これは何故成立するのかということと共通の文化として同じスポーツをそれぞれの国で行っているためです。野球を行わない国ではイチローが行っても何もできません。サッカーは野球よりも世界各地に普及しています。そのため、レベルの高い日本の選手は、サッカーというスポーツを共通に行っている国に行って活躍します。そのようなことが可能になりました。共通の文化、スポーツを持っている国があるということが「人の国際化」を非常に発達させている原因の一つとして挙げられます。

物の国際化ですが、先ほどユニクロの例を挙げました。もし中国が日本の製品に比べて、全然水準に達しておらず立派なものがない国であったとしたら、輸入をして安くても皆さんは着ようとは思わないかもしれません。しかし、中国は今や日本、ヨーロッパから学んで、高水準の技術を持っています。違うのは1人当たりの単価、仕事の料金です。一人当たりに払う仕事の料金が低いいため、同じ技術で安価な服をつくれます。安い服をつくるというのがベースにあるため、中国、日本間の貿易が非常に盛んになっています。これは結局共通の技術というものが根底にあるからです。

そして、情報の国際化ですが、皆さんインターネットで外国のサイトにアクセスできます。その国の言葉で書かれているホームページもありますが、大体が英語で書かれています。英語さえできれば、ある程度世界中の情報を集めることができるのです。このベースには共通の言語としての「英語」があります。人口でいうと中国が一番ですが、世界の面積で言うと英語がいろいろな国々で幅広く使われているというのがベースにあります。

このように共通の文化、共通の技術、共通の言葉等、共通のものがあるおかげで、国際化がより進んでいくのです。大内氏の例を出しましたが、大昔の国際化と今の国際化を比べて違う部分とは、共通のもの、一つの共通のスタイル、言語、考え方で覆われているおかげで、世界全体の標準化、国際化が進展しているのです。国際化をする上でこのような共通の基盤を持つことが、いわゆるグローバリズムの一つの定義と言えると思います。

実はグローバリズムを反対側から見た場合、「グローバリズムとは何なのか。」という説明できます。新聞、テレビ等でよく聞く言葉ですが、グローバリズムの反対に「反グローバリズム」というキーワードがあります。反グローバリズムとはなんでしょうか。グローバリズムにより共通の価値観、物の見方、言葉等、一つのものを押しつけられていると思



っている人々が反対し、異議を唱えているのが反グローバリズムです。

「貧富の差の拡大」という難しい言葉で言いますが、具体例として日本やアメリカの自動車の売り上げがタイ、マレーシア等の国の GNP よりはるかに大きくなっているということがあります。世界中どこでも走れるような設計になっている車を、車をつくっていない国に売ることによって、世界中の売り上げを独占してしまうということも起こっています。これは車の例ですが、貧富の差の拡大を一つの国で考えることができます。

中国の上海は世界的な大都市です。ここはアジアの中心になりつつあります。何故かという、まず物が集まる、人が集まる、それから情報が集まるので、非常に発達してきているのです。それは、上海の人々がグローバリズムという世界共通の基盤を受け入れ、うまく活用しているから、人、情報、物が集まるからです。ところがそのような教育を受けていない中国の内陸部は今まで通りの機械に頼らない農耕生活を行っています。彼ら自身が貧しいと思っているかはわかりませんが、収入ははっきり変わってきます。このような状況に文句を言う人もおり、反グローバルを叫んでいます。

そしてもう一つ、文化の衝突があります。共通のスポーツや共通の言語、工業化して同じ技術を持つといったことを受け入れない伝統的な社会があります。共通の物を持ったところはアメリカの生活様式と大体一致していますが、そのようなものを受け入れない社会があります。例えばイスラム社会はイスラム教という考え方に基づいた生活習慣を持っています。そのような人々にとっては、アメリカの生活習慣を含んだグローバリズムの考え方に対する拒絶反応があります。

例えば、今サウジアラビアのメッカにアメリカ軍が駐留していますが、それに対する反発があります。アメリカ軍の女性兵士が、暑い時には半そでになって外に出るのです。それに対してイスラム教の考え方では、「女性は肌を見せてはいけない。」という習慣があります。肌を見せると「何しているのだ。」という異議が発生します。

必ずしもグローバリズムのせいではないのですが、環境破壊が起きています。例えば皆さんが食べるマクドナルドのハンバーガーも環境破壊を起こしている一因になります。ハンバーガーのパンは小麦でできており、肉は牛肉使っています。牛肉をつくるために牛の餌として穀物が必要で、また、パンには小麦が必要です。このように同じ農作物をたくさん必要としています。そうすると、農地がたくさん必要になります。森林の伐採をして農地を拡大する。収穫を上げるために、農業をしているところで大量の農薬を使います。結局グローバリズムに沿って農業を行うことが結果として環境破壊を生み出しています。

## 反グローバリズム

- 貧富の差の拡大  
(具体例:三菱、フォードの売り上げとタイ、マレーシアのGNP)
- 文化の衝突  
(具体例:イスラム社会の反発)
- 環境破壊  
(具体例:森林の伐採、農業汚染)

## 反グローバリズム

- 貧富の差の拡大
- 文化の衝突  
⇒ 相互理解
- 環境破壊  
⇒ 環境保護の推進(京都会議)省エネ、

これらに対してももちろん放置することは出来ないので、グローバリズムを進める側が考えなくてはならないことがあると思います。貧富の差の拡大、文化の衝突に対しては相互理解をするために相手の身になって考えることが必要だと思ひます。

環境破壊に対して、環境保護の推進を進めることが必要になります、例えば日本の京都で会議が行われまして「地球環境をどうするべきか。」「どういう行動をとるか。」ということが決められました。個人的な例を挙げますと、省エネを行い、環境破壊を防いでいくことができます。結局アメリカの真似をする生活を行うと、エネルギーが多く必要になるので、それを防いでいかななくてはなりません。このような地道な活動をしていき、反グローバリズムとの間での相互理解、調整を深めていく必要があります。

最後に、New Globalism (真のグローバリズム)と書きました。グローバルという言葉は地球、あるいは世界というキーワードが入っています。最初に説明したグローバリズムというのは、一つの規格を世界中に広めようという形でしたが、一方では反発が発生します。それに対して考え直し、相手の立場を理解した上でグローバリズムを展開する必要があると思ひます。皆さんとこれからも真のグローバリズムについて考えていきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。



**司会(植村)**

評価用紙を配ってください。御質問等ありましたらお願ひします。

**木戸(工学)**

県内の中学生が対象ですが、この講義内容ではレベルが高いのではないかと思ひます。

**発表者:福代(工学)**

出てきたレディネスから、講義対象者が少し低いのではないのかとなり、中学3年生を対象としました。

**木戸(工学)**

少しレベルを高くして、大学の新生ぐらいの方がいいのではないかと思ひます。

**今井(留学センター)**

今回パワーポイントを使用するということでしたが、パワーポイントによる説明がありませんでした。今の講義はシンプルなものでした。必ずしもシンプルな方が悪いということではありませんが、意図的にシンプルにしたということがあれば教えてください。

**発表者:福代(工学)**

視覚効果ということに結びつくと思ひますが、私がシンプルな方法を選んだ理由は、も



のを受けとめるときに情報が多いと残らない、むしろ絞ってキーワードだけ並べた方がいいのではないかと思ったからです。すぐれたプレゼンテーションに対して批判になってしまうかもしれませんが、イラスト等に気をとられてしまうというのはあると思います。今回は古典的な手法に近いと思いますが、時間が許せば板書のスタイルの方がさらに良いのではないかと考えております。

#### 司会(植村)

ほかに御意見等ございませんか。それでは授業評価の方をよろしくお願いします。

#### 山口大学FD研修会報告書

第1班 福代和宏  
(工学部 感性デザイン工学科)

##### 1. 研修内容

###### 1.1 強制連結法による授業設計

学習者のレディネスから出発する授業設計方法：「強制連結法」を用い、「グローバリズムとは何か」を学ぶ授業の設計を行った。学習者を「山口市内の公立中学三年生」とし、「イチロー、ナカタ」、「ユニクロ」、「メール、ケイタイ」などをレディネスとして想定し、グローバリズムへと結びつける講義案を作成した。

###### 1.2 講義案の内容

「イチロー、ナカタ」から人の国際化、「ユニクロ」から物の国際化、「メール、ケイタイ」から情報の国際化を導く。これらの国際化はグローバリズムと呼ばれ、根底にいわゆるグローバルスタンダードを持つことを説明する。また、このグローバルスタンダードの押し付けが文化衝突などの問題を引き起こしている点を指摘する。そして、異文化との相互理解を経て、真のグローバリズムへと向かう必要性を説く。

###### 1.3 マイクロプレゼンテーション

上述の講義案に基づきプレゼンテーションを行ったが、準備不足が祟り効果的な講義にならなかった。他班は行き届いたプレゼンテーション資料(主としてパワーポイント)を準備し、cueを適宜使うなど演出も優れており、学ぶべきことが多かった。

##### 2. 所感

###### 2.1 強制連結法について

本手法に基づく授業設計は、私にとって新鮮なものであり、学ぶべき点が多かった。講義のイントロダクションなどで応用できると思う。しかしながら、学習者のレディネスが貧弱である場合には、いわゆる詰め込み型の教育により、基礎知識を徹底学習する必要があると思う。

###### 2.2 ワークショップの進め方について

本班のペースでは講義案の作成でワークショップの時間を消費してしまった。他班は寝食の時間を惜しんで資料作成を行い、プレゼンテーションに備えていた様子である。教育者の姿勢として他班を見習うべきとは思いますが、大学教育センターのスタッフ諸兄には課題の全作業を過不足なく進行させるような時間配分を計画していただきたいと思う。

以上

#### 司会(植村)

そろそろ再開したいと思います。よろしくお願いします。次は3班です。

#### 発表者:高橋(人文)

3班です。非常に優秀な班の後も講義をしにくいのですが、学長先生の後はもっと講義をしにくいです。学長先生の話は、必ず声が小さくなればなるほど皆さん熱心に聞かれています。

3班の方では、「グローバリズムは何か。」という講義を、市民講座シルバー大学の講座

にいらした年配の方々を対象にし、授業を設計しました。「地域住民と地球市民のはざままで」という副題をつけさせていただいております。

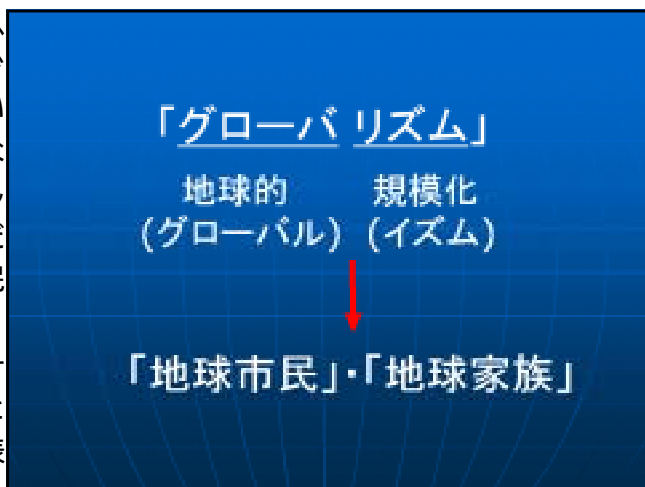
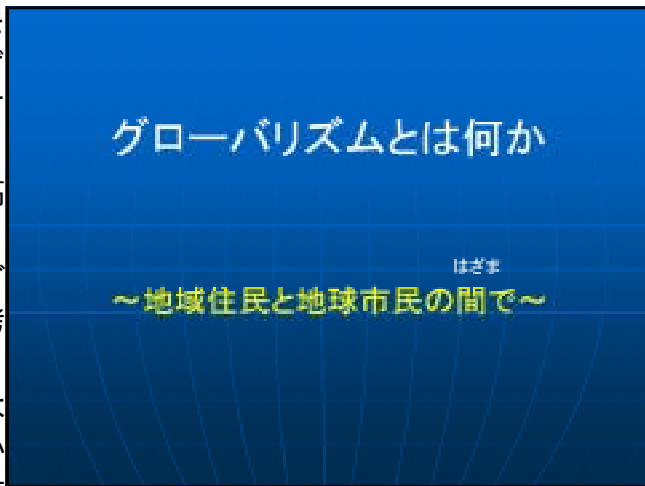
それでは、始めます。私、人文学部の高橋と申します。よろしくお願いいたします。今日はシルバー大学にいらした皆さんとグローバリズムということについて一緒に考えていきたいと思っております。

「グローバリズム」という言葉は、実は比較的新しい言葉です。90年代になってから、新聞やテレビ等、いろいろなもので使

われるようになりました。では、それまでは何と言っていたのでしょうか。実は国際化という言葉を使っていました。インターナショナル、あるいはインターナショナリズムと言われていました。では「グローバリズム」は国際化では何が違うのでしょうか。「グローバリズム」は、もともと「グローブ」、「地球」という意味があります。その視点で物事を考えましょう。直訳すると地球主義となりますが、主義という言葉ではわかりにくいので、「地球的規模化」と言い換えます。いろいろな物事を地球的な規模で捉えたり、地球的な規模で結びつきを考えたりしなくてはなりません。この「グローバリズム」が80年代のバブル期に盛んに言われた国際化という言葉とどう違うのでしょうか。国際化はインターナショナルということですから、国家を前提にし、その間の交流を活性化しようという真相です。それに対して90年代以降のグローバリズムは、国家の壁をもう少し薄く捉え、あるいはそれを乗り越えたい

いろいろな結びつきについて考えなくてはならないものです。私たちは、地域住民として普段意識して暮らしていますが、それだけではなく、地球という規模の中の一市民として物事を考えなくてはならないのです。実際に地球の一市民と意識しなくても、そのような生活の中に巻き込まれてしまうという現象をグローバリズムという言葉で表現していると思っております。

ここに地球家族という言葉も書きましたが、まるで自分の家族の出来事のようにいろいろな現象が起こります。地球サイズで物事を考えるのは、偉い政治家の方や、国際的なビジネスエリートだけのように思われがちですが、決してそうではありません。例えばスポーツの世界を見ても、イチローや中田が海外で活躍しています。また、この間の大相撲で優勝したのは武蔵丸でした。このように地球規模の人の交流が始まっています。昔は農業をしている方は自分で一生懸命田んぼを耕したり野菜をつくったりしたものです。しかし、今は格段に安い中国製の野菜がどんどん入っており対抗できません。町工場で働いている方も一生懸命されてきましたが、工場の拠点をどんどん海外に移すことが進んでいます。大企業の下請も全部海外発注です。そして、自分になかなか仕事が回ってこないという状態になります。このような形でグローバリズムを非常に肌身に感じるすることができます。



一般的な話をしてもおもしろくないので、皆さんが子供のころどのような遊びをしていたのか、聞いてみましょう。子供の遊びでグローバリズムという現象を考えてみたいと思います。(回答者1)先生、子供のころどのような遊びをされていましたか。

#### 回答者1

余り遊ばない子供でしたが、チャンバラをしていました。他には隠れんぼうや缶けりです。

#### 発表者:高橋(人文)

(回答者1)先生の場合お勉強が忙しくてなかなか遊べなかったのだらうと思いますが、ほかはお年寄りの方々は戦争で遊ぶ余裕なかったという方もいらっしゃると思います。この中も缶けり、鬼ごっこ、チャンバラ、めんこ、女性ではお手玉で遊ばれたという思い出はあると思いますが、このような遊びは、非常にローカルなルールで行われていたのです。イメージしかないのですが、昭和20年代くらいの子供の生活は、買い物に行くのはまず駄菓子屋です。駄菓子屋にはけちなおばさんや、面倒見の良いおじさん等いろいろな人がいましたが、みな顔見知りの中で生活していました。めんこやお手玉、缶けりにしても、隣の地区に行くとルールが違いました。「こんなルールで遊んでいたのか。」という発見があったり、またはルールを巡っていざこざが起こったりしていました。昔の遊びは非常にローカルな世界で行われていたのです。その中で地域や仲間と一緒に遊ぶということが最大限に重要視されていました。共同体の価値といいますが、そのようなものが非常に重要視されます。もし駄菓子屋に1,000円札持って買い物に行くとすると、駄菓子屋のおばちゃんは売れるということなので良いことのはずなのに、なぜか「その1,000円どうしたの」という話が始まります。お互い顔見知った中での取引、あるいは交換というものが行われていたのです。

では今の子供たちはどうでしょうか。質問をしますので、おばあさんになったつもりで、お答え下さい。お孫さんはどのような遊びをされていますか。

#### 回答者2

テレビゲームです。

#### 発表者:高橋(人文)

テレビゲームですね。ではお小遣いはどこでどのようにして使っていますか。

#### 回答者2

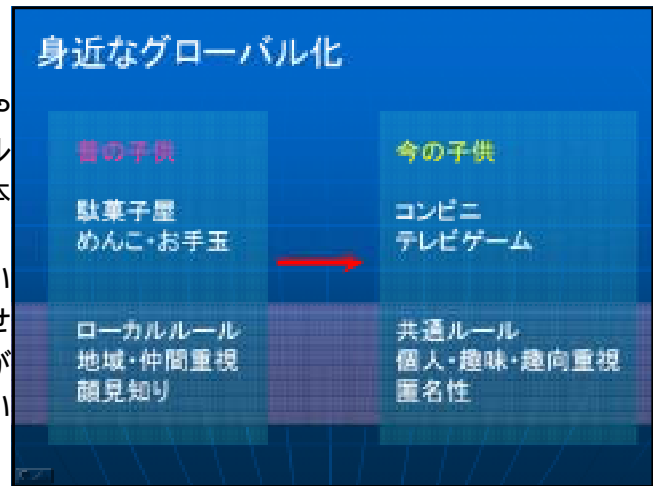
コンビニです。

#### 発表者:高橋(人文)

恐らく日本全国の子供がコンビニで使っているでしょう。他にはテレビゲームで使っている子もいます。テレビゲームは今や子供たちの生活の主要な軸になっています。ではコンビニと駄菓子屋では何が違うのでしょうか。コンビニは山口ですと、先生が行くと教えている学生が定員として働いていることもあります。「今日の晩飯は弁当か。」と学生に言われることもあるのですが、実は非常に匿名性が高いのです。子供が何を買ったか定員は一切感知しません。どこの子供が来た、知らない人が来た等も一切感知しません。大体の

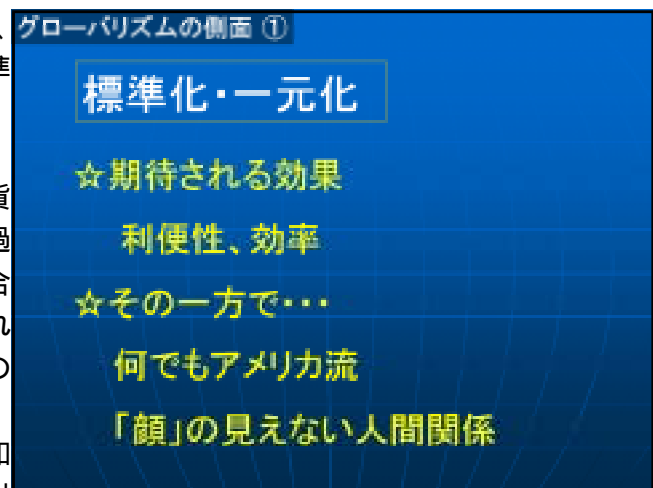
もの、「20代」、「30代男性」、「10代女性」といったデータを入力していただけます。

テレビゲームや今、子供たちの間ではやっているカードゲームには、地域ごとにルールが違うということはありません。日本全国沖縄から北海道までほぼ同じゲーム、同じストーリーにのりこった遊びをしています。このようにローカルルールが発生せず、すべてインターネットで共通の情報が流れています。子供たちが一緒に遊んでいるとはいっても、一人がテレビゲームをし、一人がカードの整理をし、一人が漫画読ん



でいる。お互い別々のことをして、3人の子が一緒に遊んでいるということが成り立っている、これが現状です。今の子供たちもゲームの世界等では、お互い顔は知らないのに同じ趣味であれば同じ遊びができる。このような世界にいるのです。このような子供の遊び

のデータから何を言いたいかと申しますと、グローバル化の大きな要素に標準化、あるいは一元化があります。これは、工業製品の規格が世界的に統一されたり、環境問題を地球規模で話し合ったり、通貨を統合したりといった合理化と呼ばれる過程です。今の子供と昔の子供を比べた場合に、昔の方が楽しかったと皆言うかもしれませんが、しかし、はるかに今の方が良いのです。欲しいものが、コンビニで手に入る。また、ゲームのいろいろな技、いろいろな知識で日本全国、あるいは世界中で一緒に対



戦することができます。このようなことが大人の社会の中でも起きているので子供の世界も変わってきています。国際ルールの中で競争を行ったり、国際的な規模で紛糾したり、流通を展開することもあります。

現代人のエゴにすぎないと思われる方もいるかもしれませんが、私は実際非常に便利になったと思っています。私は、日本の商店街の人ごみを歩くととても不安になります。何故かという、人と頭一つ違うので、人の頭の上しか見えないのです。「この人頭が薄い、この人は濃い。」とということしか見えないのです。その中で「先生」と言われても、誰が言っているか解らない部分があるのです。ところがアメリカに行くと、意外とほっとします。目線が同じになるからです。しかも自分のサイズの服があり、頭が天上につかない車があります。このように世界基準化されると実は得しているのは私みたいなでかい人間だけかと思えます。今アメリカの話をしました。標準化する、一元化するといふときに、問題なのはすべてがアメリカ流になってしまうということです。つまりルールを決めるときに力の強いもの、声の大きいものをつくったルールが通ってしまうのです。もちろん顔も見えない人間関係が不安だという方もいるかもしれませんが、ただ、山口のような田舎で暮らしている人はもしかしたら、顔の見えない人間関係を羨ましく思っているかもしれません。今晚の夕食が何かを知られずに御飯を食べたいということもあるでしょう。こ

れは善し悪しあるとして、このような標準化、一元化という動向がグローバリズムに含まれる大きな要素になります。

規格を合わせたり共通の言語を使ったり、あるいは同じネットワークの中で話したりといったふうにメディアが発達して浸透していくと世界が小さくなります。この代表的な例がインターネットやジャンボジェットに示される情報流通の高速化と呼ばれる現象です。地理的な距離をコミュニケーションメディアの技術によって超越してしまいます。

このような中で、皆さんが海外旅行に行かれたり、子供たちや孫たちが海外に行ったり、海外で仕事したり、留学したりということが盛んに行われるようになりました。グローバリズムを体験されると、グローバリズムの良い面と問題の両方を気付かれると思います。例えばマクドナルドはどこ行ってもあります。入って安心して食べることができます。このような標準化、規格化された世界の中ですと、このようなものばかりではなく、そばが食べたくなくなってきます。つまりある種の規格化、標準化された世界の中で暮らしていくと、逆に対同性が発見されたり、多元的な文化が自覚されたりします。言葉にしても、いろいろ体験をしてみると、初めて違いが意識されるのです。コミュニケーションや国際語が重要なものだと理解されるのだと思います。

マクルーハンというアイデア研究家が、1970年代に「メディアがどんどん発達していくと地球は一つの村、グローバルビレッジになってくる。」と言っています。しかしインターネットの世界が発達しましたが、高速化し、大容量化して、だれでもどこでも地球上すべてにアクセスできるから、グローバルビレッジ的な使われ方をしているかというところではありあせん。同じ趣味、同じ興味があるもの同士、例えばサッカーファンだとしたら、世界中のサッカーファンが集まるサイトに集まります。アメリカのテロの話で発見されたのは、アメリカ社会の中にもアラブ系統のテロ組織のネットワークが存在しているということです。つまりグローバリズムが進展し、地球メディアが発達したので、地球が一つに村になったかということ、実はそうではありません。マーブルチョコレートのような世界という言い方をするのですが、実はインターネットの世界も全世界の人が一同に集うということではなく、それぞれの趣味、話し、興味の合ったもの同士が小さな村をつくり、この村が点在する世界がつくられてきたのです。

そこで、グローバリズムには考えなくてはならないもう一つの側面があります。多様化、多元化と呼ばれる部分です。メディアが発達して、流通が盛んになると、異文化や言葉等の情報が流入します。このようなものをどう処理するのでしょうか。お互いの文化や価値を尊重しながら、相互理解を深めていかななくてはならないのです。

先ほど言ったように地理的な境界は、あまり意味をなしません。価値観を共有することによって一つのグループ、社会システムが動き出しました。このような中で、異なった価値観を持つもの同士の対立をどのように回避するのが問題です。子供たちの遊びを見てもお互いに無関心で、別々に背中合わせで遊んでいます。それが子供たちの遊びだけでなく、大人たちの生活にも、同じようなことが言えます。「隣の研究室で行っていることは私には全く関係ない。」というような孤立、相互の無関心というものが世界を覆っ

## 世界が小さくなった！

☆情報、流通の高速化 — インターネット、ジャンボジェット

☆海外旅行 — グローバリズムの体験  
マクドナルド — 標準化・一元化  
そば屋 — 多様化・多元化

☆体験による相互理解  
コミュニケーション、国際語

ているのです。そのような中で考えなくてはならないのは、コミュニケーションの中で個人の価値観をどの程度まで発揮するのか、どのような仕方です相手にプレゼンテーションして説得していくのかという点です。

ここまで二つのことをこの講座ではお話ししてきました。グローバリズムの側面には一つは標準化、一元化、規格化と呼ばれるような利便性や法律性があります。これを探求すると合理化の進展としての世界の動きがあります。国際的な（ブンギョウ）が成立し、国際市場が動きます。しかし、グローバリズムのもう一つの側面には、世界が大きなサイズで動いてしまう中でそれぞれのローカリティー、価値観を持った、そのような独自性が始めて析出されます。単純にいうと、世界が広くなればなるほど人々は、「自分はどこにいるのだろう。」、「自分は何のために生きているのか。」といった個人の意味探求を迫られるようになります。このような多様化や多元化の軸でグローバリズムというものを捉えてみると、そこではコミュニケーションしか基本的には強制手段がないのです。その中でお互い調整しながら自分の価値観というものを作り上げて行く必要があります。それが今は重要な問題になっています。

皆さんに今日は一つ大きな課題を出したいと思います。地球市民が、地域住民として生きるということと地球市民として生きるということは、簡単には両立できない気がします。ギャップを抱えてしまっているのです。その代表的な事例として、巨人の松井選手が大リーグで活躍した方がいいのか、それとも日本の野球を支えて後進の育成に努めた方がいいのかという問題があります。

「オーナーは黙って欲しい。」というのがみんなの共通意見だとしても、これをどうするのかという問題があります。また、野球というゲームは、実はグローバリズムの波に乗り切れておらず日本流のルールがあるところがあります。野球をするのか、ベースボールをするのか、どっちがいいのか、これを来週まで皆さんに考えていただきたいと思います。好き勝手な意見で構いませんのでお答えいただければと思います。以上で講義を終わります。

グローバリズムの側面 ②

## 多様化・多元化

異文化・異価値等の情報流入



- ・文化・価値の相互理解
  - ・地理的拘束をこえた共通価値による社会システムの再編成
  - ・異価値間の新たな対立・無関心
- コミュニケーションと個人の価値観  
確立の重要性

グローバリズムの側面 ①

## 標準化・一元化

利便性、効率

グローバリズムの側面 ②

## 多様化・多元化

コミュニケーションと個人の価値観  
確立の重要性

「松井を出すか出さないか」

「野球」か「ベースボール」か？

### 司会(植村)

御質問、御意見等がありましたら、どうぞ。

### 発表者:藤川(人文)

人文の藤川です。大変声の抑揚があったので聞き取りやすく、内容も非常に分かりやすく、勉強になりました。昨日の最後に各班で行われた予行練習の際に「このような工夫をしよう。」ということが班の中で拳がり、実際に行ったということがありましたら教えてください。

### 高橋(人文)

私の個人的な経緯の話ですが、私の先生は東北なまりのズーズー弁の先生でした。(コウゾウキノウ)主義を教えていたのですが、学生はみんな最初の半年間は、ノートに(コウドウ)資本主義と書いていました。その先生によると授業はスキルよりもインパクトだということでした。何をインパクトとするかをまず初めに考えてから、グローバリズムを考えてみようと思いました。地域の特性をどれだけ大事にするのかということと世界のトップレベルで争うことのすばらしさをどのように考えたらよいのか。このネタを最初から出すと、逆に興味ない方もいらっしゃると思うので、最後に付けることになりました。あとは最後に行くまで、どうつなぐかを考えました。

### 司会(植村)

ほかに何かございませんか。

### 福代(工学)

講義の内容を老人のつもりで聞いたのですが、「インターネットやジャンボジェットで世界が小さくなった。」というインパクトを聞いた後に、後ろの多様化のところで「世界が広がった。」と言われたので、「どっちかな。」と思いました。イメージの問題ですが、そのあたりの結論の締め方に気を付ければ良かったのではないかと思います。

### 発表者:高橋(人文)

今の社会学の見解ですと同時に起こることだと思うのですが、高齢者の方に教えるとなると非常に厄介です。ですので、例を別々にしました。標準化、規格化の方は子供の遊びの話にして、インターネットや異文化接触の方は世界の多様化、多元化に話を絞りました。論理的にはお互い相反する内容ですが、現象としては同時に起こるものだということを伝えたいのです。ただ、このレベルの話しを 65 歳以上の方に伝えるというのが非常に難しいということは講義を組み立てている最中にも感じておりました。

### 今井(留学センター)

留学センターの今井です。グローバリズムの負の部分に関して、講義対象者が 65 歳以上ですので辛辣な意見が出るかもしれません。例えば、「大学ではグローバルを学問として行っているが、私たち 65 歳以上のものにとっては、グローバルイゼーションをもらっては困る。」「学問の世界では良いかもしれないが、私たちのためには何にもならない。」といった意見が出てくる可能性もあります。このような意見が出たときどのように対応されますか。

## 発表者:高橋(人文)

御自分のお孫さんが松井のような才能を持っていたらどうででしょうか。つまり、自分は自分の家業を守り、暮らせる分だけ稼げばいいとみんなは思うでしょう。「グローバリズムにより私たちの生活を海外の安い商品が邪魔をする。」という観点にとらえるかたもいらっしゃるかもしれませんが、息子さんが才能を持って世界規模の商店を経営したいといいだしたらどうするでしょうか。あるいは息子が世界規模のスポーツ選手だったとします。世界ではなく、山口と東京の話でもよいのです。すぐれた息子がいる、家にとどめておきますか、東京に出しますか。このような質問を行っていくことで、回答に替えさせていただきます。

## 司会(植村)

皆さん評価用紙を提出してください。どうもありがとうございました。

### 平成14年度 山口大学FD研修・第2回 第3班 ワークショップ 報告

平成14年度の上記研修第3班は、自己紹介を兼ねたアイス・ブレイキングから活動を開始した。手順通り司会に池田攻(工)、タイムキーパーに庄村長(経)、記録者に高橋征仁(人)、荊木康臣(農)、ワークショップ報告者に池上敏(教)の各教官を選出し、昼食休憩。

午後は与えられた課題「グローバリズムとは何か」を説明する対象を指定された5つの対象群のうちどれを選ぶかを討議することから始まった。「将来実際にこのような場合に遭遇する可能性もある。」「参加者の年齢層が自分の親たちの世代である場合も多い、かつ年齢層が限定されているのである程度具体的なイメージを持ちやすいのではないか。」「他の班との競合は避ける方が独自性が出しやすいので、他の班があまり選ばないものを。」などの理由で「シルバー大学の参加者」を選択することで討議がまとまる。小休憩の後、各人の考えたプランで小プレゼンテーションを実施、続いて質疑・討議を行った。全くと言って良いほど同じものが無かった、というのは各人の個性か、想像力や人生観に大きな隔たりがあるのか……。全体を整理、班としてのプレゼンテーションを構成する段階では削ることになったが、競争体験を重視した連結法でプランを考えたメンバーが半数ほど居たのが印象に残る。ここまで相当丁寧に行ってきたので、教育センターの提示したタイム・スケジュールよりは十分遅れていた。再び小休憩の後、全員のキーワードを整理、班としてのプレゼンテーションの概要を討議、ほぼ全体の様子が見えた段階でプレゼンターとして人文学部・高橋助教授を選出、パワーポイントによる提示案を分担で作製、工学部のメンバーがパワーポイント入力や細部の工夫に手慣れた所を見せてくれた。午後6時近くに模擬講義を実施、約10分で終わってしまったので、慌てて時間を埋めるための方策を協議、いくつかのエピソードをプレゼンターに加えて貰うこと、パワーポイントに説明の画面を一枚挿入することで意見が一致、午後の作業総てが終了したのは懇親会の開始時刻午後7時を少々過ぎており、慌てて会場に駆け込むことに相成った。当班は懇親会の後での全体としての練習や作業は行わないで済むように粘った、と方針であったが、さすがにプレゼンター高橋助教授は講義原稿の手入れに余念が無かった。

翌日のワークショップ(プレゼンテーション・コンペ)では予想を上回る好調子で、結果的には1位をいただくことができた。今回の第3班のワークショップでは司会の池田教授がまとめ役に徹して下さったこと、メンバー全員が積極的にワークショップに参加したこと、教材作製作業等に於いては分担領域を責任を持って遂行したことが「成功」につながったと思う。少なくとも記録者にとっては有意義な研修であった。

ワークショップ 記録担当 池上 敏(教育)



## 司会(植村)

6班、お願いいたします。

### 6班発表者:森野(人文)

それではよろしくお願いいたします。学習者の対象は、市民講座に参加した山口市民という設定です。

私たちの班の中では、特に市民講座に参加される生徒さんとして、子育てを終えた女性が主なのではないかと思い、そのような方々を対象として講義設定をたてております。講義は人文学部の森野が行います。よろしくお願いいたします。

「グローバリズムとは何か。」ということに関しては、いろいろな見方があります。

今回は副題にもある「ルール」という言葉を一つのキーワードにしてグローバリズムを考えていこうと思います。

日本人の活躍から地球温暖化等、4つの項目を上げましたが、この4つのポイントについてそれぞれルールというものがどういうふうに作用しているのかということをご一緒に考えていければと思います。

1つ目は日本人の活躍です。世界で活躍する日本人とってまず思い浮かぶのが、イチロー、野茂、中田、中村といった方々ではないかと思えます。この方達は、共通点があります。それは何でしょうか。会場の方にお聞きしたいと思えます。いかがでしょうか。

## 沖(大学教育センター)

スポーツです。

### 発表者:森野(人文)

そうですね、ありがとうございます。これを見てまず思い浮かぶのがスポーツだと思えます。私の期待通りの回答をいただきましたので、安心しました。今回は「ルール」というのがキーワードですので、スポーツを「あるルールにのっとって行うもの」と考えます。ルールが統一されているので国籍が違う、言葉が違うという環境に置かれていてもゲームは成立するのです。統一されたルールさえあれば、世界という土俵の中で頑張っていくことができるのです。

イチロー、野茂、中田等の話しはマスコミを通じて聞くことができますが、彼らの意識は、日本の国民という所属では世界を見ていない、という感じを受ける人もいます。彼らはサッカー選手や野球選手という所属で世界を見ていないのでしょうか。国という単位で世界を見るのではなく、国境のない世界を見ていく価値観が、このような人に

## グローバリズムとは何か？

### ～地球規模でのルールづくり～

平成14年度第2回山口大学FD研修会  
第6班

## 身近なグローバリゼーション

- (1) 日本人の活躍
- (2) 情報化社会(生活)
- (3) アメリカ、テロ
- (4) 地球温暖化

は備わっているように感じます。最後に中村という人の説明をします。この人も国から世界に出て行った人になるのですが、実は中村俊輔ではなく、ひっかけとして修二になります。知り合いの先生からお伺いしたお話なのですが、中村修二さんは発光ダイオードを発明した方で大変優秀有能な方だそうです。彼は日本の企業にいたのですが、評価が低かったため、自分の能力を正当に評価しているアメリカに行ったのです。テクノロジーやすぐれた能力を正当に評価するというルールが確立されていれば、このような人材やアイデアがどんどん集まっていくということが、中村修二さんの例から言えるのではないのでしょうか。日本にとって中村修二さんのような人がどんどん海外に出ていってしまうことは損失として考えられます。

そうすると、サッカー選手たちももしかしたら日本という国を単位にした場合には損失になるのではないのでしょうか。イチローが200本安打を先週打ちましたが、巨人の清水もそれなりに打っています。しかし、彼の活躍を皆さんは御存知でしょうか。あるいはサッカーでも稲本が得点に絡む活躍をしたという映像は流れますが、高原が4点入れたということは新聞の片隅にしか出てきません。人材の流出の観点が少し見えてくると思います。

先ほど損失という言葉を用いましたが、「国益にとっての損失」という発想です。このような場合に、二つのことが考えられるのではないのでしょうか。一つは「国益という観点は捨てるべきだ。国という観念を捨てて、世界規模で価値を考えていこう。」という考えであり、もう一つは逆に「国益というものにこだわり、世界から人材が集まってくるようなルールを受け入れれば、どんどん有能な人材が集まってくるのではないか。」という考え方です。

実は、先ほど世界で活躍する日本人を上げましたが、このようなケースは限られた有名人だけに適用されているものではありません。私たちの生活にも入り込んできているものなのです。ルールがあるため入ってきているものもあれば、ルールを押しつけられている場合もあります。

例えばマクドナルドですが、ファーストフードという新文化を、国境を越え世界規模に

## 世界で活躍する日本人

イチロー、野茂、中田、中村

### 活躍の源

統一されたルール：世界の舞台へ

## 中村修二氏

- 青色発光ダイオードの発明
- 日本企業の評価
- 能力に対する正当な評価がなされなかった
- より良い環境を求めて 日本からアメリカへ
- 人材の有効活用(世界、個人)
- 人材の流失(国)

## 生活におけるグローバリズム

マクドナルド、テーマパークの進出、衛星放送、テレビ

- 自由競争、適切な評価。「もの」の流通。
- 多国籍形態の確立。
- 文化の融合。

展開している食産業です。地域や国に合わせてハンバーガーの作り方をアレンジしているわけではありません。「これがハンバーガーで、おかずがポテトで、飲み物がコーラに限る。」といった、ルールを押しつけているというイメージを少なからずとも受けてしまうのではないのでしょうか。ところが、先ほどは国益の損失に少し触れましたが、例えばゆめタウンにマクドナルドが入ってきて、日本の国益が損失したとは誰も考えません。これは一体どういうことなのでしょう。一つにはマクドナルドという企業が国という小さな単位を超えているということがあげられるのではないのでしょうか。もう一つ、マクドナルドのルールを受け入れなかった場合の損失の方が大きいからではないのでしょうか。テーマパークと書いていますが、世界規模で展開している企業のルールを受け入れることができれば、東京ディズニーランドやUSJのように、観光客をコンスタントに大量に呼び込めるのです。ところがそのルールを受け入れられない、受け入れる余地を作り出せないという場合は、常盤公園の遊園地のようにになってしまうのです。

ルールというものが入ってきている現状に対して「押しつけられている。」と感じる場合もあると申し上げましたが、3番目にこの点を考えてみたいと思います。世の中には「マクドナルドは絶対食べない。お昼はちまきやのうどんに限る。」という人がいるのです。このようにグローバルな企業の展開を拒否する人たちは、「これが世界のルールだ。」という価値観に対してアレルギー反応を示します。自分たちのルールを強く守るということを前提に考えるとあり得ることです。これがアメリカのテロと係わる話になると思います。例えば皆さん山口市にお暮らしになられていますので、「話を聞いちよる」、「雨が降っちゃよる」という言葉を使用します。ある日、東京から来た人が、「その『ちよる』というのはおかしいですよ。『話を聞いている』、『雨が降っている』というのが、世界のルールですよ。」と言われたとします。そうすると、素直に世界のルールを受け入れることができ、「ちよる」という言葉をやめられる人もいれば逆に反発する人もいると思います。反発の気持ちを強く持った場合に標準語対方言という対立が出てきます。これが最も性悪にあらわれたのがアメリカのテロではないかと考えられます。このテロリストたちが標的としたのは、世界貿易センタービルでした。このビルは銀行や証券会社、国境を越えてお金のやり取りをやり取りするといった人たちが働いており、とても象徴的だと言われておりました。何でもお金もうけの対象とになってしまうやり方、文化や宗教をすべてお金に換算してしまうことに対して「自分たちはそんな卑しいことはしたくない。」という表明だったのではないのでしょうか。つまり資本主義がグローバリズムにのっとり、自分たちの地域社会に入ってくることに對するアレルギー反応として捉えることができるのではないのでしょうか。

実は思いつまされる思いをしております。私は山口大学の人文学部に所属していますが、今大学改革が行われており、国からお金がもらえなくなり、大学は自分たちでお金を見つけて自分たちの給料を稼げという流れになってきそうなのです。医学部や工学部の人たちはこのようなお金に通じる手段にたけているので、お金主義のグローバリズムになっても良いではないかと考えるのです。それを口出ししようとする、「これは日本全国的なグ

## 9. 11アメリカ、テロ

自由競争→「富める国、富めない国」。

宗教、経済、文化の受け入れを拒否。

ローバリズムの中での動きなのだから、山口のようなローカルな場所で、反対しても無駄だ。」と言うのです。しかし、例えば人文の源氏物語を研究している人間にとっては、「金もうけは卑しいことだ、それは受領階級のやるようなものだ。」となるのです。人文の源氏を研究している人たちには誇りもあります。工学部等よりもずっと前から学問としてあるのです。しかし状況的にはグローバリズムを受け入れざるを得ません。行き詰まってしまった時、テロリストは世界貿易センタービルに突っ込みましたが、もしかしたら大学教育センタービルに突っ込むという事態にもなりかねないのではないだろうかと思います。

このように、グローバリズムは立場によってはルールを押しつけられるという感覚を抱くものです。しかし、受け入れざるを得ないグローバリズムもあることは事実です。

4 番目ですが、環境問題です。これは国という単位を越えてルールを共有しないと解決ができそうにない問題です。空気は国別にあるわけではありません。これは公害問題から始まったのですが、どんどんグローバルな単位に拡大されていったという例です。もう少し皆さんの身近な例を取り上げます。私の家はマンションですが、子供が小さいものですから、煙草は禁煙です。しかし、隣の丸本さんが、夜になるとベランダで煙草を吸うのです。多分丸本さんの家では、奥さんに「家の中では煙草を吸う

な。」と言われて、しかたなく丸本さんはベランダに来て吸っているのだと思います。しかし、そのベランダに出て吸っている煙草の煙が私の家の洗濯物にどんどんついてしまい、せっかく洗濯したのに煙草のにおいで駄目になってしまうということがありえます。これは大気汚染です。幾ら森野家が頑張っても、丸本家に協力してもらわない限りは、洗濯物のにおいはとれません。このような問題よりももう少し規模が大きくなったものが地球環境問題として CO<sub>2</sub> 問題ではないでしょうか。例えば排ガス規制がありますが、このルールを守れば、マクドナルドのように市場が国という単位を超えてどんどん広がっていきますが、ルールを守らなければ市場はなくなってしまいます。ルールを受け入れるセンス、グローバリズムを受け入れるセンスが必要になってくるかもしれません。ぜひ丸本さんの御主人にも次回の「グローバリズムとは何か」という講演に参加していただけると願って終わらせていただきたいと思います。

司会(植村)

ありがとうございました。それでは、御質問はありませんでしょうか。

福代(工学)

**地球環境問題**  
「地球」単位での環境保全

- 公害(地域)→地球規模
- 排ガス規制等

**グローバリズム**

- グローバリズムを受け入れる、理解するセンス

**地球規模でのルールづくり**

講義は市民講座ということでした。お話はとてもおもしろかったと思いますが、話を聞いたのが大学関係者だったので笑ったのではないかと思います。お話の内容自体、私たちが聞いたらおもしろいのですが、市民の立場で見たときに、逆に静かになる可能性があると思います。

#### **豊澤(人文)**

最後に富めない国とありましたが、正確には「富まない国」だと思うのですが、そこはいかがでしょうか。

#### **発表者:森野(人文)**

後者の質問からお答えしますと、私たち実は夕べお風呂も入れない極限状態の中で講義をつくっておりました。対立語を確認する余裕すらなかったため、(ディテール)に関しては、曖昧なところもあります。

レディネスが違うというお話ですが、実は、今回は工学部の先生が多いので、あそこで引くという想定をしておりまして、そのときには「おかしいな、これ人文の先生に言ったときには受けたのに。」というコメントを入れて回復しようかと考えていました。

#### **谷光(経済)**

話しの中にでてきた、「受領階級」という言葉が解らなかったのですが。「受領階級」のきっちりした定義を教えてください。

#### **発表者:森野(人文)**

平安時代の話になります。貴族がいたのですけども、中央にいる貴族が地方に向けて、地方の上がりを得て生業としているのを受領といいます。これを光源氏の話では卑しい人間というのです。

#### **谷光(経済)**

今の役人ですか。

#### **発表者:森野(人文)**

役人の中でも地方に向かっている国家公務員です。地方公務員ではなく、地方にいる国家公務員です。文科省にいる、国家公務員の方もあてはまります。

#### **沖(大学教育センター)**

講義対象者が子育てを終えた女性でしたが、女性差別という観点から「これは、おかしいじゃないか。」といった話が女性側から出たらどういう対応をされますか。

#### **発表者:森野(人文)**

確かにそういう(ジェンダー)という観点を、今回の場出話する場合には考えなくてはならない問題だと思います。

#### **司会(植村)**

ほかにございませんでしょうか。ありがとうございました。

# 強制連結法作業用紙（班用）

（ 6 ）班

## グローバリズムとは

市民講座に参加し（学習）  
た山口市民

学習者のスキーマ＝レディネス

- (1)日本人の活躍 (2)情報化社会 (3)アメリカ、テロ (4)環境問題

強制連結＝授業の展開

(1)日本人の活躍

- ・ スポーツ（イチロー、中田）、テクノロジー（中村修二）
- ・ ルールの基での自由競争、適正な評価
- ・ 人材の有効活用、損失（国益）

(2)情報化社会（生活）

- ・ 物流システム、ファーストフード、文化
- ・ 利便性、適正な評価、多国籍企業形態の確立、アイデンティティーの欠落

(3)アメリカ、テロ

- ・ 宗教、ナショナリズムの対立
- ・ 富の偏在

(4)環境問題

- ・ 地球温暖化など
- ・ グローバリゼーション 共生

教師のスキーマ＝学習内容

悪循環を断ち切るためのグローバリズム

良循環を推し進めるためのグローバリズム

グローバリズムを受け入れる・理解するセンス

学習目標

地球規模でのルールづくり

#### 4班:発表者:外山(農学)

4 班の発表をいたします。お皆さん立派な発表でしたので、私とても緊張していますので、下手な講義になってしまうかと思えます。私、農学部の外山と申します。講義の対象は、山口大学の新生です。私たちがレディネスへの理解を一番しなくてはならない対象ではないかと思ひ決めさせていただきました。

新生の皆さん、今から「グローバリズムとは何か。」について講義を始めたいと思います。

まずようこそ山口大学へいらっしゃいました。山口大学に来て皆さんいろいろ行いたいこともあるかと思いますが、山口と聞くと何が思い浮かぶでしょうか。

## グローバリズムとは何か

### 4班

#### 丸本(副学長)

初めて山口に来た時に、「田舎だな。」という印象を受けました。ただ歴史的に非常に意味のあるまちだと思っていますので、このような所が良いと思います。五重塔も近いですし。

#### 発表者:外山(農学)

山口という地域は江戸時代から開かれていくときに活躍した人たちがたくさんいる場所です。皆さんも頑張ってくださいと思います。さてグローバリズムについてですが、皆さんの中で野球をお好きな方はいらっしゃいますでしょうか。手を挙げてください。

## ようこそ山口大学へ

### 山口大学の新生の皆様

半分ぐらいです。サッカーのお好きな方。

いらっしゃいますね。私は野球の方が好きです。では、宇多田ヒカルが好きな人。

若い割には少ないようです。大学の新生だともっと多いかと思ったのですが。例えば野球の世界でしたらイチローや野茂です。野茂は最初ドジャーズに行ったのですが、そのころ私は留学してまして、ドジャーズの試合をて感動しました。イチローはつい最近シアトルで見て、また感動したのです。サッカーに関しましては、中田、稲本、中村俊輔らが世界に出て活躍しています。そして宇多田ヒカル、彼女はアメリカに拠点をおいています。

このように世界で活躍している日本人はたくさんいます。特にスポーツですが、スポーツの世界には日本人でも活躍できる共通の決まったルールというものがあります。そのような活躍の場が与えられるためには、そのルールというのが決まったものでなくてはなり

ません。、そのルールですが、世界共通のルール、スポーツの世界でもスポーツの共通ルールが必要になります。今世界では、人・お金・情報・物のあらゆる自由化が限りなく自由に行き来するということが起こっているのです。

人の場合でいえば、世界いろんなところに海外旅行に行っています。私も8月にヨーロッパのスロベニアに行きましたが、スロベニアがどこにあるか知っている人いらっしゃいますか。結構皆さん知りません。スロベニアという国は、非常に小さな国ですが、旧ユーゴスラビア、イタリアの隣にあります。今回の旅行で特に印象的であったのが世界遺産になっている大きな鍾乳洞です。これは秋吉の秋芳洞よりもずっと大きいものです。秋芳洞を見たときも感動しましたが、それよりも大きな鍾乳洞には感動しました。皆さん新入生ですから、秋芳洞にも楽しみにして見に行ってください。そしてお金も自由に行き来しています。「ユーロ」と書きましたが、ことしからヨーロッパの通貨が統一されて、実際にそれをいろいろなところで使用されます。「電子マネー」と書きました。情報の流れとしてインターネットがあります。インターネットの世界でのお金のやりとりは、実際のお金を使わないでやりとりできます。その場合にはお金が瞬時に大量に移動します。

情報の自由なやり取りとして、インターネットを挙げています。インターネットでは世界中の情報を瞬時に知ることができます。物については、「多国籍企業」と書いていますが、国籍を越えて、いろいろな国で、統一したものをつくっています。物の流通により私たちの暮らしの中で中国製の製品があり、マクドナルドのハンバーガーを食べることができます。つまりいろいろなものが国境のような障害を越えて自由に行き来することができる、ボーダーレスの状態になっているのです。人、お金情報、物の流れというものが自由に行き来するところがグローバリズムの良いところです。グローバリズムは地球化という意味ですが、人・お金・情報・物の流れが自由化することにより非常に大きなメリットが生まれます。そのときに、重要になるキーワードが、「グローバル・スタンダード」です。日本語で言えば世界基準になります。「グローバル・スタンダード」というものにもとづいているいろいろな

# ルール

ヒト・お金・情報・ものの流れの自由化

- ・ヒト → 旅行
- ・お金 → ユーロ、電子マネー
- ・情報 → インターネット
- ・もの → 多国籍企業

ボーダーレス

# グローバルスタンダード

世界基準



インターネットの情報のやりとりが行われています。この「グローバル・スタンダード」なのですが、スポーツのルールのようにフェアであるということになります。

スポーツの世界は選手が活躍するための卓越した潜在能力をもっていれば、ルールにもとづいて行われるため、ほかの国々でも戦って活躍することができます。では、先ほど言いましたグローバリズムにおける流れの自由化に対してルールは本当にフェアなのでしょうか。いろいろなスタンダードの中ではアメリカ中心的な「グローバル・スタンダード」があるのではないかと考えます。

アメリカ中心主義という問題が提起されているのが地球温暖化の問題です。地球温暖化について、皆さんはどのくらい知っているのでしょうか。地球温暖化という言葉聞いたことのない人。

さすがにいません。ではこれはどういう現象かというのがわからない人。

地球温暖化は地球が暖くなる現象です。地球の周りには大気があります。皆さんの生活の中で炭酸ガスというCO<sub>2</sub>が大気中に広がり、CO<sub>2</sub>の濃度が高くなっています。CO<sub>2</sub>という化学物質は熱エネルギーを蓄える性質を持っていますので、地球から放出されるエネルギーが地球の外に出なくなります。そして、地球の温度が上がっていくのです。これが地球温暖化です。

この地球温暖化、何が問題なのでしょうか。ここはすごくCO<sub>2</sub>を出す、逆にここは出さないということがありますが、結果は地球上で共通しているのです。ですから、環境問題を地球レベルで考えることがグローバリズムという考え方になるかと思えます。京都の議定書ではCO<sub>2</sub>の排出を国々の中で制限をつけて守りましょうといった規則をつくっています。しかし、アメリカはその議定書には調印をしていません。CO<sub>2</sub>を一番たくさん出すところです。

次の問題として、英語は共通言語として実質的に使われています。皆さん海外旅行に出てヨーロッパの人とお話するときにも英語を使います。しかし、英語が共通語なのはスタンダードを押しつけられている結果からだと考えられます。このようなアメリカ主義的なスタンダードを押しつけられているような言われ方をよくします。ですので、何が問題になっているのかを考えると、そのスタンダードがどういうふうにつくられているかをみる必要があります。

先ほど言いましたように、グローバリズムは、物や人の流れの自由化といったポジティブで非常に良い面もあるのですが、それと同時に、地域性の文化、宗教等を消してしまうよ

グローバルスタンダードのルールは  
スポーツのルールのようにフェアか？

グローバルスタンダード＝アメリカ中心主義？

アメリカ中心主義



地球温暖化の京都議定書

英語

ニューヨークテロ 9.11

うなネガティブな部分もあります。(リージョナリズム)として地域性を大事にする必要があります。新しいグローバリズム、スタンダードをどうつくるのかというのが大事になってくるのではないかと思います。つまりグローバリズムと(リージョナリズム)をバランス良く共生していこうということを考えます。それが大事だと思います。

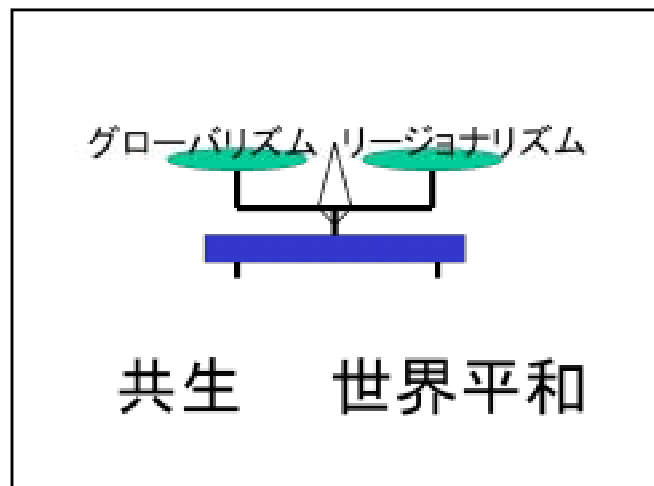
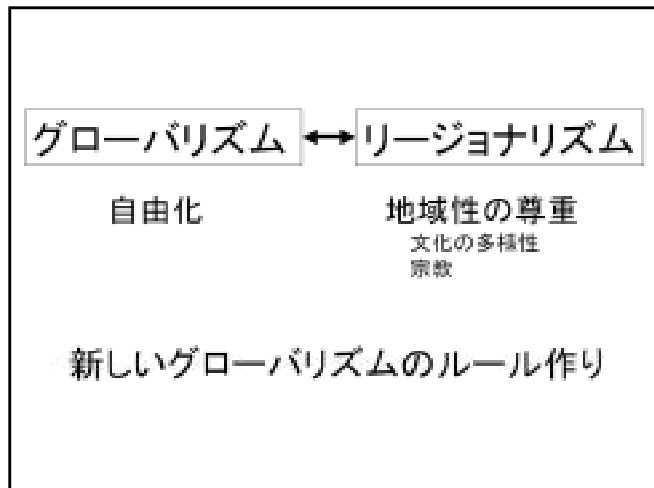
日本のプロ野球ですが、昨日も情報が入ってないので、巨人が優勝したかどうかは知りません。

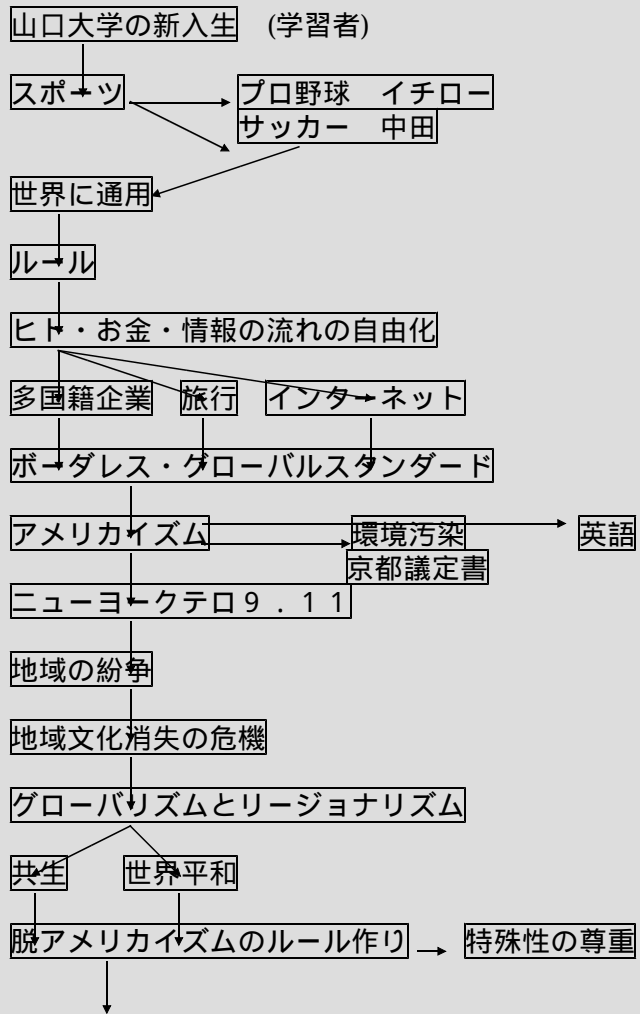
優勝したのですか。それは残念です。私は阪神ファンなので。甲子園で巨人の胴上げを見なくてすんだので、今日僕はここにいて良かったのではないかと思います。何が言いたいかというと、強いもの一つに集中する、そこにスタンダードするという形は良くないのです。ですから、阪神にも良い選手がいなくてはならない。このようなバランスが大事なのです。ご静聴ありがとうございます。

**司会(植村)**

御意見等ございませんでしょうか。

あと最後一班ありますが、ここで5分休憩をしたいと思います。御質問がなければ評価用紙を書いた上で提出をお願いいたします。





- 懇親会の様子 -



同じ大学でも初対面の先生が多いことに驚きながら第4班のワークショップの作業が開始された。まず、アイスブレイキングと役割分担を決め強制連結法による授業設計に入った。講義の学習目標である「グローバリズムとは何か」についてグローバリズムの定義に関して各先生の専門の立場からの解釈が多数でてきて議論が沸騰し昼食の時間に食込む有様であった。つぎに学習者を検討し、我々がレディネスをよく理解しているという理由で山口大学の今年の新生に決した。その後「強制連結法」の個人作業に入り隣人との議論も経て全員がマイクロプレゼンテーションを行なった。発表された講義案は各先生の専門性を反映したものが多く同じテーマに対して捉え方が異なるという大変面白い傾向が見られた。質問や評価はかなり厳しいものがでて予定時間をかなりオーバーした。結局、T先生の講義案をたたき台として、講義時間20分の講義案の作成作業を行なうことになった。ここでの議論にはかなり時間を要し、当初は各自の意見が衝突したり1つの事項に対する各自の認識に違いがあったりしたが、議論を尽くすことにより班内の認識が一致し第4班の講義案がようやくまとまった。この講義案のイメージマップを清書し、講義案に基づいた教材作成を行なうことになったが、ここで問題が発生した。班にはノートパソコンは5台もあったがフロッピーディスクドライバーが1台もなくこれらの作業ができないことが判明した。急遽センターのノートパソコンを1台借りて何とか凌いだ。作業が大幅に遅れ予行練習が1回しかできず翌日のマイクロプレゼンテーションに不安が残る状態でワークショップの作業を終了した。

強制連結法による授業設計という初めての体験で戸惑うことも多く、研修の目的をどの程度達成できたのか不明である。しかし、学習者レディネスの理解の重要性や論理性のある授業計画の必要性については十分認識でき今後の授業設計に反映しなくてはならないという意識が芽生えたことが今回のFD研修に参加して得られた最大の収穫であったと思う。

最後に、FD研修全般についてであるが、多数の先生方を1泊2日も辺鄙で情報環境も不備な施設に拘束するのは非効率的で非効果的であると思う。今後は情報環境の整った当学キャンパスのいずれかで1日間で実施することを考えるべきである。そしてマイクロプレゼンテーションは研修に参加していない教官にも公開すれば教官の資質向上に寄与するものと思える。

#### 司会(植村)

最後です。2班、お願いします。

#### 2班:発表者:長崎(教育)

最後のトリを努めることになりました、2班の教育学部の長崎です。よろしく申し上げます。くじで最後に当たってしまい、どんどん緊張が募っております。

5つの班は人文の先生と工学部の先生ばかりで、私が人文・工学部除いて初の発表になるかもしれないと思っていたのですが、外山先生に入ってくださいまして本当にありがとうございました。しかし、私と外山先生の違うところは、私はおじさんであるということです。もう一つ他の班と違う点があります。2班は一切パワーポイントを使用しません。やはり、おじさんだからでしょうか。講義の対象は山口市内の湯田中学校。なぜ湯田中学校なのかといいますと、私が住んでいるからです。湯田中学校の3年生を対象としていま

す。先生方は中学校3年生になっていただきます。名簿を持って来ていますので、指名して行きたいと思います。中学3年生になり切ってお答え願いたいと思います。

最後の発表になりましたので、ほとんど私達の班が言おうとした内容をすべて言われてしまっているのですが、それをいかに新鮮にやるかというのが一番ポイントだと思っています。新鮮かではなく、昔の人しかわからない内容になるかもしれませんが。

今日は水曜日ですが、日曜日のお昼に何を食べたかを皆さん方思い出してください。思い出した方、手を挙げていただけますか。どうぞ。

**回答者1**

焼肉弁当。

**発表者:長崎(教育)**

焼肉弁当。他にはありませんか。どうぞ。

**回答者2**

生きアワビの躍り焼き。

**発表者:長崎(教育)**

皆さん帰りましょうか。昼間からそんなの食べますか。

**回答者2**

旅館にいたのです。

**発表者:長崎(教育)**

なるほど。ビールを飲みながらですか。3年生がそれはないでしょう。ほか思い出した方は。どうぞ。

**回答者3**

母親が出かけたので、自分で焼きそばをつくりました。

**発表者:長崎(教育)**

私が求めている答えと全然違うのですが。

**回答者4**

ハンバーガーです。

**発表者:長崎(教育)**

ハンバーガーと誰がおっしゃいましたか。どこですか。マクドと言ってほしい。

**回答者4**

ロッテリア。

**発表者:長崎(教育)**

ロッテリアもマクドもほとんど同じです。「マクドナルドがグローバル化された。」、こ

れを私が実感したのは、数年前中学に行ったときに何故か、コカ・コーラがあり、マクドがある。これには少しびっくりしました。グローバルとはこのようなものかと思いました。

私は外山先生と違ってジャイアンツファンです。「大阪出身で何故ジャイアンツファンなのか。」と言われますが、「ほっとけ。」という話しです。昨日、インターネットで見ましたところ、ジャイアンツは阪神に2対3で負けました。延長戦のさよなら負けでした。それを「くそう。」と思って見ていたのですが、よく見ると、ヤクルトが広島に4対9で負けていました。ですから優勝したのです。松井は3冠王をとるかもしれません。今年のちょうど今ごろだったのですが、朝日新聞を見ると、長島茂雄が主張の欄に「松井は日本に残れ。」と言っていました。そこで皆さん方に聞きたいと思います。これは手を挙げてほしいのですが、「松井も行け。」、「人生は1回しかない、大リーグで頑張れ。」という人。そして2つ目、「やはり松井が行ったら駄目だ。」で、「お前は日本で頑張らないといけない。そういう運命だ。」という人。3つ目は、「どっちでもいい。」という人。3つを聞きますので手を挙げてください。松井はやはり大リーグに行く方がいいと思われる方。23名です。嘘です。やはり松井は日本に残った方がいいという方どうぞ。この方ジャイアンツファンでしょうか。どっちでもいいという方。30名くらいですか。やはり日本に残れという人が少ないようです。しかし、松井が大リーグで頑張ると言えば、これも一つのグローバル化と言われます。まさに日本のプロ野球陣もグローバル化の時代に入ってきたのです。それはイチロー等が証明しています。私は今2回グローバル化という言葉を使用しました。そこで、工学部の齋藤君。君はよくできると聞いています。グローバルのスペルを黒板に書いてください。間違っていたら恥ずかしいですよ。

#### **齋藤(工学)**

黄色で書きますか、赤ですか。

#### **発表者:長崎(教育)**

黄色で良いです。スペルが合っていたら皆さん拍手をして下さい。では、意味を答えなさい。

#### **齋藤(工学)**

グローブが、「地球の」や「地球みたいな」という意味ではないですか。

#### **発表者:長崎(教育)**

今日の学習課題として設定したいのは、グローバルです。地球的、世界的な規模で日本のプロ野球人がアメリカに行って全世界に発信されています。サッカーでも中田や他の人も当たり前のように全世界に発信されています。

先ほどマクドナルドやロッテリアの話が出てきましたが、皆さん方にそこで考えてほしいと思います。「グローバル化」や「グローバル」という言葉を聞いたときに、「これは世界的な規模で動いているのだな。」ということが思い浮かんだ人。今から限られた時間の中で連想ゲームをします。ぴんときたことがあれば、手を挙げて一言お願いします。考える時間は約15秒与えます。私の腹時計ですが、15秒経ちましたのでおっしゃってください。何でも結構です。

#### **回答者5**

インターネット。

**発表者:長崎(教育)**

インターネット。湯田中学校の3年生も、山大生と同じように余り発言しない。やはり中学校はもっと発言していかないと、大学に行っても発言できなくなります。ほかの方どうでしょうか。どうぞ。

**回答者6**

地球環境とインターナショナル。

**発表者:長崎(教育)**

2つも言われても困るのですが。もっとシンプルに環境問題としましょう。他にはないですか。どうぞ。

**回答者7**

(テオトラアンナスカーナ) オペラです。

**発表者:長崎(教育)**

私の一番苦手な分野です。挙げられた中から何を選択するかは教師の力量です。この中から環境問題を取り上げたいと思います。環境問題から次に連想するもの、いかがですか。私の親友の武田賢治君。

**武田(教育)**

地球温暖化。

**発表者:長崎(教育)**

地球温暖化。他にはないですか。どうぞ。

**回答者8**

オゾン層破壊。

**発表者:長崎(教育)**

オゾン層破壊。他にはないですか。池上君、どうぞ。

**池上(教育)**

京都議定書。

**発表者:長崎(教育)**

数分前に聞いた気がします。それでは、地球温暖化から思い浮かぶものはありませんか。どうぞ。

**回答者9**

水面上昇。

**発表者:長崎(教育)**

すばらしい。お聞きしたいのですが、なぜ水面上昇が起きるのでしょうか。

**回答者9**

南極の氷が溶けるから。

**発表者:長崎(教育)**

とてもシンプルな答えをありがとうございました。南極の氷が溶けるから水面上昇する。水面上昇という言葉から思いつく言葉は何ですか。どうぞ。

**回答者10**

南洋の島。

**発表者:長崎(教育)**

南洋の島。沈没ということですか。次行きます。沈没から思い浮かぶ言葉。何でしょうか。

**回答者11**

工作船。

**発表者:長崎(教育)**

工作船。すばらしい。沈没からほかに思いつく言葉はないですか。仮に、どこかの共和国が沈没するとなったときに、最終的に人類の滅亡、存亡がかかわってくるのではないのでしょうか。このような事態に陥らないために、どうすればよいのでしょうか。まさに、地球的な規模での知恵が必要なのです。これこそグローバリズムの中で一番大事なことはないのでしょうか。どういうものを知恵とし、どのように知恵を使用するのか、人類を救うために私たちも考えてみる必要があります。これは今日の課題にします。考えておいてください。

この問題は、グローバリズムの光の部分であり、地球を救う部分です。しかし、光があれば影もあります。この影となる問題を幾つか挙げてください。まだ発言のない脇条君。

**脇条(人文)**

ハンバーガーばかり食べなくてはならない。

**発表者:長崎(教育)**

ハンバーガーばかり食べなくてはならない。これをもう少し短く言うとどうなりますか。

**脇条(人文)**

同じものばかり。

**発表者:長崎(教育)**

それを中学3年生らしく。



### 脇條(人文)

均一化でしょうか。

### 発表者:長崎(教育)

すばらしい中学校 3 年生です。そのほかはいかがでしょうか。芦田君。

### 芦田(理学)

何か同じものを押しつけられる。

### 発表者:長崎(教育)

押しつけ、このような影の問題が起こります。そこでまとめとして、光の部分と影の部分はグローバル化を考えたときに、本当大切にしたいと考えます。光の部分だけ考えるのではなく、負の部分も大切にしていきたい。グローバル化されることによって失われるものもあるが、このことを大切にこれから勉強に励んでいきたいと思えます。ありがとうございました。

### 司会(植村)

御質問、御意見ございましたらお願いします。どうも、ありがとうございました。

授業には、台本と俳優と大道具・小道具という 3 つの要素があります。中でも俳優という要素が大きく、とても左右されるのだと感じます。その点では、昨日から一生懸命台本をつくってきたのですが、意味があるのかと思います。しかし、良い台本を良い俳優が演技し、芝居が成り立つと考えることができます。それでは、評価表を書かれましては回収し、昼食の方に移りたいと思えます。

午後の部ですが、1 時 15 分から始めたいと思えます。それでは、よろしくをお願いします。

#### 2 班 ワークショップ報告

午前中の自己紹介によるアイスブレイキング、昼食の後、午後はまずミニ講義の学習者を、講義のポイントの一つであるレディネスの把握の面での容易さ、現実のニーズの可能性を考慮して、四番目の「山口市内の公立中学校 3 年生」に決定した。手順通り各自が自由にイメージマップを作成する前に、講義テーマである「グローバルizm」について一通りの共通理解を確保するための議論を行うことにした。多少議論が先走った面もあったが、「地球レベルで物ごとを考えること」としてのグローバルizmを共通理解とすることになった。その後、ほぼ手順通りに作業を進め、講義案を作成した。

講義は、講師が受講者に質問を繰り返す、相手の返答から徐々に講義目標に導いていくという受講者参加型とすることにした。メディアとしては、返答の予測不可能な面を考慮して、黒板を用いることとした。内容については、ファーストフード、大リーグなどの中 3 生にとって身近な話題から、「グローバル」という英語のスペルと意味につなげ、「地球規模でものごとを考える」としてのグローバル化を理解させ、そこから連想するものからグローバル化の光の部分と影の部分とを導くという筋立てを考えた。光の部分としては、環境問題にグローバルな視点で取り組む必要性、生活の安全・安定、視野の拡大といった側面を、逆に影の部分としては、多様性、個性の喪失、弱肉強食といった側面を想定した。この講義案では、受講者参加型の利点である生き生きとしたやりとりが期待できる一方で、受講生の幅のある返答をどのようにこの二つの側面に結びつけるかが講師の側のもっとも大きな課題となると考えられる。

学習者【対象】山口市内公立（湯田）中学3年生（総合的な学習時間の特別講師として）

身近に存在するグローバル化に関連した事項  
質問【昨日のお昼，何を食べたか】  
『ファーストフード』に関連した解答を待つ  
（マクドナルド，ロツテリア，モスバーガー等）

グローバルの英語の意味を問う，考える  
質問【グローバルの spell は】  
『global』の意味を地球 globe（地球）からの類推（想像）等  
地球的な，地球の

グローバル，グローバリズム  
地球規模（レベル）で物事を考えること

質問【グローバリズム，グローバル化と聞いてどんなものを思い浮かべるか】  
【どんなことが気になるか】

光と影の部分をいかに示すか？

京都議定書

環境問題

ファーストフード  
インターネット

オゾン層

地球温暖化

皮膚がん

水面上昇

生命

日本沈没

質問・連想

こちらが望んでいる答えを引き出す

人類の存亡に関わる

質問【マイナス面は無いか】

地球的知恵の共有が必要  
生活の豊かさ，視野の拡大，安定，安全 ...

グローバリズムとは何か

光

影

生活文化均一化  
少数意見の消滅  
少数民族の消滅  
少数の価値観の消滅  
多様性・個性の損失等

弱肉強食

# 学 長 講 話

# 学 長 講 話 ( 9 月 2 5 日 分 )

## 司会(植村)

少し時間が早いですが、学長の講話をいただきたいと思います。では加藤学長お願いいたします。

## 加藤(学長)

おはようございます。昨日から御苦労さまです。本日は、8時半には来ようと思っていたのですが、電話がかかってきたり、道に迷ったりして遅くなりました。申しわけありません。

私は医学部出身ですが、自分の経験から言うと学生を教えるという意識がないまま助手になり、講師になり、助教授になり、教授になってしまいました。だんだん「学生を教えることが教官の仕事なのか。」と感じてきたのです。

このようなことを感じる前は、研究等、自分の好きなことをするために大学に残るのだと思っていました。教授になって二、三年した時に、富士のすそ野に帝人の研修センターがあり、そこに文部科学省が主催で(ノハラチアキ)さんという方が中心になり、FD研修を5日間行われました。4泊5日の研修でした。忙しい時であるし、本当に暑い時期でもあり、皆さん不平をいろいろと言われていました。私も学部長から言われたので、仕方なく行くことになったのです。

研修に参加されている方は各大学の学部長、あるいは病院長ほか医学関係の方でしたが、まず研修で行ったことはアイスブレーキングでした。私は当時アイスブレーキングの意味も全然わかりませんでした。私がそこで行ったアイスブレーキングは、「今までの一生の中で一番印象に残っていることを絵にかきなさい。」という内容でした。模造紙を渡され、5分か10分で描きました。描いた後、みんなの前で報告させられます。私は昭和15年生であり、爆弾を受けましたので、佐賀にいたときにおやじと一緒に防空壕を掘ったり逃げたりしことを描きました。皆さん汚い絵で、説明も上手くできないという状況でした。これにより、自分の欠点をさらけださされたのです。絵も汚い。話していることも何を言いたいのかよく分からないといったふうであったため、「みんな似たようなもので、大したことないのだ。」と思ったのです。食パンがないので万引きした事を話した人もいました。

研修の初日は何のためにこのようなことを行うのだろうということが非常に不可解でしたが、5日間研修を行ってきてだんだん解ってきました。相手の気持ちがわからなくて、ものが進まないという状況がありますが、これは相手が気持ちを出さないためにおこります。お互いに気持ちを出すにはまず自分が全部アイスブレーキング、いわゆる垣根を取り払ってしまわなくてはなりません。「私はこんな人です、どうにでもして下さい。」という姿勢を見せる。相手にも同じようにしてもらおう。実際にはこれをしてもなかなかお互いに理解できません。理解できませんがお互いにアイスブレーキングすることにより、共通点が見つかり、同じ目的を持っているのであれば、それに対して再構築していくことが、アイスブレーキングの目的なのかと感じました。

ですから、個人の個性や人間性、文化等を理解はできるのですが、本当にそれが良いかどうかの判断は人それぞれです。一応理解をしてその上でどうするかの話です。「ときめき」と言われましたが、お互いの個性を上手に理解しながら、新しい方向をつくっていく。そのような話できたらと良いとは思いますが、しかし、個人を理解するのは難しく、心の底

からは同調できないと感じます。私は講演でイタリアのフィレンツェに呼ばれたことがありました。講演の初めには大体「ご招待いただきありがとうございます。」ということその土地の言葉で言うことにしています。「フィレンツェに呼んでいただきありがとうございます。すみません、イタリア語で話すことができないので英語で話します。ごめんなさい。」という文章をイタリア語で話したかったので、ミラノからの汽車の中でイタリア人の友達に書いてもらいました。友人はそれだけの文章をA4の紙2ページくらいに書くのです。私が言いたい文章は3秒ぐらいで済むことなのですが。友人は「長くなっていることはわかっているが、『フィレンツェに呼んでくれてありがとう』。と言うためには、『フィレンツェの空は青く、雲は白く、海は青く、建物は素晴らしく、ここにいる女性はこんなに素晴らしい、このようなところに呼んでくれてありがとうございます。』から始めなくてはならない。」というのです。他には「こんな素晴らしいところである、イタリアの言葉が話せないということが私には本当につらい。」等の言葉を踏まえて、「イタリア語が話せない私は何て不幸でなんでしょう。」ということを行わなくてはならないというのです。英語や日本語で言ってしまうと非常に簡単であり、それで意味は通じますが、それでは本当に相手の心に届くかどうか。友人が言ったところまで私は言うつもりはありません。しかし友人はそう思っているのです。日本人の感覚とは違います。もう一人、講演者にアメリカ人の人がおり、「あなたどのように挨拶しますか。」と聞いたところ、とてもシンプルなものでした。私はイタリア語で長く読みましたが、そこまで長く言わなくても思っていることは通じるのです。これが個人を理解しようと思いつながら、本当には理解できない、難しいところだと思います。

EU連合の話も出ましたが、ヨーロッパ人はピレネー山脈の西側はヨーロッパと思いません。私のスペイン人の友達は西側がEU連合であって自分たちは違うと言うのです。ノーベル賞を受賞したある人の小説にもありましたが、それぞれの文化は絶対に相入れない。それは歴史、言葉、文化が違うためである。絶対に相入れないのですが、彼らはどこかに共通のところを持つとする。例えば通貨です。通貨を共通にして統一する。そうしないと方向性が生まれてこないし、他の所に対抗できないというのものもあるのかもしれない。しかし、何か組織としては上手くいかないと感じます。

私が学長になって思いますのは、大学は本質的に個人プレーの組織です。今まで研究にしろ教育にしろ、全部教官、職員、いろいろな人の自分の個性、あるいは能力で成り立っているのです。このたび21世紀COEという研究プログラムがあり、いろいろな事が起こりました。個人の研究には、世界的に輝けるすばらしい研究が幾つもあるのだということが初めて、私、わかりました。学長、学部長が偉いからではなく、その人が研究するから偉いのです。その人が一生懸命研究して、何十年もの間、奥さんの犠牲のもとに家にも帰らずひたすらしている研究です。この度はそれを大学として拠点化すると言われました。拠点化、組織化するにはたいへんな、苦労がかかります。誰もが「これは私の研究だ。」という意見があります。「学長が言われたからと言って、何故私がほかの人と一緒にしないといけないのだ。」という感情がでてくるのです。それを拠点化してしまうと、個人の研究では通りません。現在、日本の方向が組織化、拠点化に向かっていますが、これに対応しなければ大学の組織としての方向ができませんので、強引にでも行ってもらう必要はありません。しかし、「個人の研究」がないと拠点化し、研究を幾ら行ってもだめです。幾ら寄せ集めても21世紀COEプログラムに通るような大きな声になりません。やはり光る何かが必要なのです。これは個人にあるものです。個人の光る何かがないと、核ができないのです。個人に、何とかして、日ごろから何かを活性化させて頑張ってもらいたくし

かないのです。「給料も安く、土日も休まずすみません。」という状況になってしまいますが、頑張ってくしかないのです。御本人が御自分で興味を持ち、相手を見てときめくというのではなく、自分からときめくように一生懸命しないといけないのです。

それと同時に、共通点で括って組織化していかなくてはなりません。大学という組織として一つになることと、個人の活性化、この二つが必要になるのだということがわかりました。教育でも同じことがいえます。私も自分で何十年も教育を行っていますが、私の経験談や、私が良いと思っていることを話すのはとても得意です。自分の経験を面白く言うと、学生が乗ってきますが、15回の授業を通して何ができたのかというと、一つも形になっていなかったのです。「そんなに難しく細かいことを言わなくても国家試験に通ります。」等と、私の美学や正義感で面白く言うと、学生の反応はありますが、目標は何もありません。

医学部の学生の話をしませんが、「卒業するときはここまでできないと国家試験に通らない。」「国家試験ではなくても大学に入学するからにはここまでできるようになりたい。」という目標を持った学生がいたとしますと、この目標を達成するにはこういう授業を行っていかなくてはならないという戦略が必要になります。目標を達成するための戦略がなければ、幾ら個人プレーで面白いことを言って、学生からおもしろいという評判になったとしても、だめなのです。ここでも個人の能力が問われるのです。面白くもない講義をすれば、いくら組織的に進めていっても学生はついていきません。教官の情熱がなく、自分に自信を持っているところがなく、読んできたものをそのまま受け入れて話しを進め、振り向きもしないような授業であれば、学生もついていきません。これでは、教育効果が上がりません。教官一人一人が自分の情熱や自信を持ち、それを本音で話し、通り一遍ではない授業でないと学生はついてきません。10分ついてこない、20分ついてこない、1時間ついてこないという状況になります。学生がついていくことが積み重なり、「15回の授業で、こういうことができるようになります。」という組織化された明確なものがなければ、思っているように効果的はあがりません。教育の場面でも個人的な能力の活性と組織的に運営するという2つが大切です。

大学はどちらかというと、個人の方に依存しています。個人的なもので持ってきたのです。しかし頭の上から「それではいけない。到達目標、教育目標をつくりなさい。」と言われたのです。私の母や姉が学校の先生でした。そのため、子供のころから母や姉が教案を一生懸命つくっているのを見ており、「先生というのはこういう風に授業を進めていくのだ。」ということを知っていました。自分では教案は使用していませんが、少なくとも私個人的には大学の先生として学生を教えるのですから、当然目標を定めて授業を行わなくてはならないと思います。「先生が教えなくても教師の背中を見て学びなさい。」という人もいるかもしれませんが、それも大事なことです。盗む所が何もないような教師だと困ります。

組織化すると厄介なことが起こります。全然気の合わない助教授や教授同士でチーム組んで一つのことをしなくてはなりません。これを講義する教官が出てきます。到達目標を達成させるために学生に一番効果的な授業方法とは、講義なのか、実際実習なのか、フィールドワークなのか、スライドなのか、パワーポイントなのかと考えます。いろいろな授業方法があるのにも係わらず、「私はパワーポイント使えません。」という人がでてくることもあります。他には同じ班の中で教育目標に対する考え方が違う人が集まり、中には「これが大事だ。」という強い主張をする人もいます。いくらその先生が強くと主張しても、学生から見ると「大学院を卒業した後の話なのでは。」と思う場合もあるのです。自分の思

っていることを言うことも悪くはありません。悪くはないのですが、それが目的ではありません。これがアイスブレイキング的なことだと思います。どういう風に、何故行うのが非常に難しいと思うのですが、教育の一番根本的なところは、この問題だと思います。

研究は少し個人プレー的なことが残るのでそんなに深刻に考える必要はないのかもしれませんが、それでも従来は同じ学会、自分と同じ専門領域の専門家集団が集まった制度でした。これで良いと思い、ずっと続けていましたが、発想の転換がないのです。産婦人科は産婦人科のことばかり考えるので、コンピューターの話が出てこないのです。いつも同じ領域で話しを進めているので、違う発想が生まれません。

例えば、エンジンの専門家はエンジンばかりを開発しています。とても効率の良いエンジンをつくったとします。一方で車の開発、ゴムの開発、タイヤの開発を一生懸命行う人がいます。他には例えば形状合金の素材の開発を一生懸命されている人もいます。それを別々に行うのも非常によいことなのですが、あるときこの人達が集まって話しをしている際に、子供が竹トンボを飛ばしたのを見たのがきっかけで、飛行機ができることもあるのです。それぞれ一人ずつでは、このような発想は出てきませんが、一緒になると別の発想が出てくる可能性があるのです。「バランス・ディシプリン」と最近言われていますが、これは異文化的なものほど良いのです。自分の専門と全然違う領域の人とつき合うほど、違う発想が出てくるのです。ただし、各領域が優れていないといけません。各領域において優れたものがないと発想がでてきません。優れた人が集まると、全然違う領域のものが出てくるのです。飛行機ができてエンジンがないわけではないので、エンジンはきちんと開発してもらわなくてはなりません。それぞれの自分の専門領域をどんどん発達させ、別の領域で新しくできれば良いのです。この領域がつぶれたら別な領域に行けばよいのです。そのときに、もととなる部分がないと、別の領域をつくることも再構築することもできません。ですから、もととなる部分が大事なのです。開発でなるべく異文化的なものと一緒にすると別の領域の新しいものが、非常にインパクトを持って出来上がるのです。

山口大学でいうと、それはとても、狙い目だと思っています。顔が見えますし、良いところ悪いところ全部が見えますので、おおかたこの人はどのようなことをしているのかということがわかります。人文学部の方ともつき合いやすい、工学部の人ともつき合いやすいというところがあります。もとはやはり信頼関係、アイスブレイキングです。あげると自分のものがなくなるのではないかとということ、そんなことはありません。医学部と工学部が一緒になり、医工学になると医学部のことを研究してはならないのかということはありません。医学部が優れているので、工学部と一緒にやることができるのであって、医学を研究してはいけないということではありません。

一緒になった両方が仮想行動を上手に意識として持つと、いろいろな分野で決して一つのものにとらわれない、新しいものが生まれるのです。新しいものをつくったから前のものを捨てるという必要はありません。自分の専門性を活かすことによって、教育の分野でも一つのユニットの一因となりうるのです。自分のユニットで上手いかなければ、別のユニットに移っても良いのです。御自分の専門性できちんとしたものを持っておけばよいのです。個人を活性化するというのと、それをまとめ一つの組織として強化していくということが、大学としては一番欲しいのです。今まで誰もそれはいけないと言っていないので、意識して進めていきたいと思います。それ以外の法人のことについては、今日は関係ないのですが、マスコミ的なことが出てきます。それは10%か15%にすぎず、私たちが何年も行ってきた学生の入学試験、福利厚生、卒業の就職活動等をしっかりと行わなくては足元すくわれます。このようなことをきちんと行った上で、組織改革、あるいは事

務的な開発というのを進めてもらいたいと思います。

ご質問はありませんでしょうか。何かありましたらどうぞ。

#### **司会(植村)**

どうもありがとうございました。それでは御質問がありますでしょうか。

#### **外山(農学)**

農学部の外山と申します。この FD 研修会のことに関してですが、全員参加となっており、5年に1回出るようにとされています。それは山口大学として教育を大事にするということを言っておられるのだと思います。そこで、今のようなFDのやり方で良いかどうかということ、私は研究と教育をバランス良く行うことが大事だと思っているのですが山口大学としては教育に重きを置いていくという流れになっているのかということをお聞きしたいと思います。

#### **加藤(学長)**

大事なことです。結論は言えるかどうかわかりませんので、私の私見で言わせていただきます。大学の特徴の一つは、教育機関だと思っています。今、日本経済がとても落ち込んでいますが、「日本経済の活性化は大学改革から」とも言われています。大学で一財産をつくり、外国にも持っていけるような研究を行い、そのたびに金がどんどん入る。大学が活性化される状態になったときに、日本が活性化されるのかどうかは、私は不安です。一つの生き方として研究を行っており、非常に大事なものだとは思いますが。

しかし、これは企業の研究室でも行っていることです。ですから、大学の名にかえられない特徴は、やはり教育だと思っています。この教育は、学部の学生の教育や、大学院生の教育もあります。大学に籍があり、大学に授業料を払っている人だけではなく、大学以外の人に対する啓蒙教育も必要です。大学の収入の話をしなると、今大学に籍のある学生からの収入は大した額ではありません。それに対して、今はボランティアで行っている部分がほとんどだとは思いますが、学外の人を対象に教育を始めたとします。例えば研究所の専門的な研究者に対する高度な教育、あるいは市民講座的な教育、あるいは小学校の教師に対する教育、あるいはタイや東アジア等の国に対する環境保全対策に対する教育等を行うと、膨大な収入になりえます。

収入という面は別に考えても、大学はこのような教育的機能をもっています。これがなくなってしまうと組織として負ける可能性があります。私はそういう点で教育は非常に大事だと思います。しかし、教育はとても難しいのです。現在研修でも行っていますが、相手を見てレディネスを合わせて強制連結法をしていかななくてはならない、相手が変われば、またその相手にレディネスを合わせなくてはなりません。教育の方法論をしっかりと確立しなくてはなりません。難しいところを言い始めたらきりがなくらい難しいものだと思います。授業の方法としてスライドを使用するのか、パワーポイントを使用するのか等を考えます。ディズニーランドの宣伝よく見るのですが、子供だましなイベントしかないディズニーランドに何故あんなに人が行くのでしょうか。どうして大学には来ないのでしょうか。「大学は面白くないから。」と言われますが、何故面白くないのでしょうか。大学でディズニーランド的な遊びを取り入れるというわけではありませんが、もう少し学生を引きつける力があり、雰囲気があれば、もっと人は来ると思います。情報の発信の仕方をもっと変えて、「エデュテメント」というエンターテインメント的な部分も加えるべき



だと思えます。特に学外に向けての教育についてはこの点がいえるのではないのでしょうか。私はこのように教育を捉えています。皆さん方の意識では、教育よりも研究の方が占めているのではないのでしょうか。附属病院の人、いらっしゃいますでしょうか。この中には、大学に籍を入れているのに、「患者の命を助けることは教育よりもずっとすごいことだ。」と誤解している人達もいます。社会活動や研究は非常に大事なものですが、大学に籍をおき、給料をもらっている人の使命は、教育がいつも頭の中にあり、その教育をいかに活性化して学生を生き生きさせるようなことを言うのかというのが中心にあり、研究や、学外活動の経験をもって頂くと、学生の教育がとても良くなるのだらうと考えます。ただし先ほども言いました日本の情勢が緊急であることや、医療費節約が言われている中、研究の面がクローズアップはされます。先生方の個人の研究が何%ぐらいを占めているのかというと、これは私の私見になります。この先生がいるから患者さんがたくさん来て、みんな治って幸せだなという医者をたくさん要している病院なら別ですが、付属病院の先生が診ても、何々中央病院の医者が診ても 同じように治るといふのであれば、メインに教育をして下さい。大学が払っている給料には教育分もあるのです。大学に籍を入れているほとんどの人がその他大勢のレベルなのだと私は思っています。

研究であっても、この研究者がいるから、大学院生が集まり、外国人が集まるという大学の研究を支えている人は何人もいらっしゃると思います。そういう方が私は研究者として頑張っていただけばよいと思います。当然、教育もある程度してもらわなくてはなりません。誰が見ても、あの人はずいという人がいると思います。この人以外の方は申しわけないですが、一番のメインは教育と考えて欲しいのです。教育といっても、いろいろあります。教養教育、一般教育、専門教育、自分しかできない教育もありますが、やはり教育のスタンスを取っていただきたいのです。何十%かというのは、それぞれのグループによって違うのであえて言いませんが、スタンスとしては今言ったようなことです。

今日は強制連結法などを使用し、進めましたが、FD は授業の作り方、評価の仕方等いろいろあります。さきほど情報の出し方を言いましたが、教えられる方にインパクトが残る教材の作り方はきりが無いほどあると思います。皆さん集まって1日中行うわけには行きませんが、何らかの方法で勉強していく必要があります。

#### **司会(植村)**

ほかに何か質問はありませんか。では、ありがとうございます。

#### **加藤(学長)**

どうもありがとうございました。

#### **司会(植村)**

FD の進め方について、先ほどの御質問に関連する部分を私からご説明させていただきます。

今は、いろいろな学部の人たちが集まってできる FD の一つとして研修を行っております。1泊という期間、場所が適当などか等についても問題があるということは私たちの主催者の側で自覚をしております。では、どういうふうに変えていくのかを試行錯誤していますが、まだ解らない状態です。このFDを始めて3回目です。だんだんこのFDが定着してきて、良いのか悪いのかという問題が出ています。5年に1回参加すると言われていますが、皆さんが5年経ってもう一度FDに来られた時には今と全く違ったものになって

いるのではないかと思います。私たち主催者側も試行錯誤の状態ですので、皆さんからの御意見がございましたら、いかなる御意見でも伺いたいと思っています。最後にアンケートを取りますので、そのときにお気付きの点について、できるだけ忌憚なき御意見をいただけるとありがたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



- 学長講話の様子 -

# 全 体 講 評

全 体 講 評（林教授）

閉会の挨拶（小嶋副学長）

# 全体講評と閉会の挨拶

## 司会(植村)

それでは、午後の部に移らせていただきます。

最初に、午前中に行いました授業評価による順位について発表します。3位まで発表します。3位までは特別に賞品が用意してあります。それ以外の方は参加賞になっております。

それでは、3位から発表させていただきます。呼ばれましたら班の代表者は前に出てきていただき、賞品用意しておりますので受け取ってください。

まず3位です。授業を知り尽くしているといえばよいのでしょうか、第2班です。第2位が、第7班です。7班は、話し方、メディアの使い方に関して良い評価をいただいております。1位は3班です。3班はすべての項目についてほとんど満足のいく良い授業だったという評価を得ています。

今回は非常にハイレベルだったと私は思っております。それぞれ代表者の方、参加賞がありますので、参加賞をお渡しします。第1班。第4班。第5班。第6班。以上です。各班について全体の成績とグラフを書いたものがあります。班ごとに配付します。1班の人手を挙げてください。係員が評価結果を配ります。では2班の人、手を挙げてください。では3班の人。4班の人。5班の人。6班の人。7班の人お願いします。皆さんのところに行き渡りましたでしょうか。では評価を終わりにします。

最後のメニューであります。教育学部の林徳治先生から講評をいただきたいと思っております。林先生、よろしく申し上げます。

## 林(教育)

皆さん大変御苦労さまです。よろしくお願いいたします。講評というより今回のFD研修で実施した強制連結法について少しお話をさせていただきます。

今日は私も皆さんのプレゼンテーションを拝聴いたしまして、7班や3班が何故良い評価を受けたのかを振り返っていただきたいと思っております。

まず、3班です。高橋先生は人文であり、どういう話が展開されるかというのを非常に楽しみにしていました。一部の班では、プレゼンテーションを参画型プレゼンテーションを実施しました。また長崎先生の班は、マイクロ・プレゼンテーションではなく、マイクロ・ティーチング(模擬授業)です。授業訓練としてのマイクロ・ティーチングの場合は、子供とのやりとり(お返し)をしていくと時間が延びてしまいます。時には、先生が意図した学習の方向になかなか進まない時もあります。

例えば、私は京都の宇治という地域に住んでいます。宇治のことをほかの学校の先生、子供たちに紹介する時にどうするでしょうか。先生が宇治という町を紹介しようとする、頭の中に「平等院」や「お茶」が浮かび、これを通して教えたいと思っております。ところが、子供は「宇治は任天堂の本社があるよ」と言ってきます。子どもは、「テレビゲーム」、「任天堂」、「宇治」と知識をつないでいるのです。また、宇治には大規模な日産自動車の工場があります。そのため、先生は、宇治について平等院やお茶を通して全国の子供たちに紹介したいと思ったときに意識(指導)のズレが生じ苦労をします。子供が、日産や任天堂のゲームボーイの方に走っていく中で、先生が、子どもたちの興味を損なわず一生懸命宇治のお茶の方に持っていく学習を展開することは大変です。これが教師の力量ですね。

FD研修の参加者名簿を見せていただきましたが、今日は医学部、工学部の先生が多いと

思います。医学部、工学部は、到達目標がはっきりしています。例えば医学部は、国家試験に通らなくてはならないという目標があります。工学部の場合も全く同じです。学習者の意見や考えを取り入れた場合シラバス通りに進まず授業が終わってしまうケースが多々見受けられます。では、3班が何故評価がよかったのかを少し考えてみましょう。

まず、わずかな時間ですが学生参画型になっているのです。そしてもう一点は、受講者であるシルバー大学の人達にとってわからない新しい知識を取り入れ、それをうまく補足説明している点です。例えば、「マクドナルド」と言っても高齢者の方には私たち以上に身近なものではありません。その中で、いろいろな例えを入れている部分が大変良いのです。そして私が非常に気になった、よかった点があります。それは皆さん御存知かと思いますが、映画でよく使う「CUE」(キュー)があります。授業の中には必ずCUEを入れます。CUEとは、刺激という意味です。CUEは、聴き手にとってずっと記憶に残る大切なものです。例えば、今日1日で7班から2班までのプレゼンテーションがありました。2班のプレゼンテーションは皆さん比較的覚えられていると思います。長崎先生の個性があったことと、CUEをうまく含んだ短めのプレゼンテーションのためです。ところが「7班は一体何をしたのだろう」と思いだしてください。同様に「5班は何をしたのだろう」。それぞれのプレゼンテーションで一番記憶に残っているものがCUEになります。長崎先生は、CUEに自分の言いたいものをうまく組み合わせてプレゼンテーションしていました。3班が「松井を大リーグに出すか出さないか」というのは、グローバリズムに繋がっているものですね。そこにグローバリズムの「肯定的な部分」(光)、「否定的な部分」(影)がうまくかみ合っているのです。また高橋先生のプレゼンテーションの非常にすばらしかった点は、最後のパワーポイントにまとめを出している点でした。思い出してください。グローバリズムの良い点と否定的な部分、反グローバリズムをきちんとパワーポイントでまとめているのです。この点について私も感動いたしました。プレゼンテーションでは、高橋先生のご専門である人文の「マクルーハン」が説明されています。御高齢の方でも職業柄マクルーハンを知ってらっしゃる方もいらっしゃいます。一般的にシルバー大学にお見えいただく参加者というのは、やはり経済的にも時間的にも余裕がある方です。中には教育長の方もいらっしゃいます。中には大学の名誉教授が授業を楽しんでいらっしゃる方もおられます。そのような時に、いかにその人たちに満足いく授業、学習の場を提供できるのが大切です。この点で3班は、非常に好印象でした。

皆さんに配布した資料をご覧ください。17ページを見てください。今日は要点だけ申し上げます。これは、私が用意したレジュメです。レジュメは読んでもらわなくては全然意味がありません。これをプリント教材と言います。私が「今日は皆さんにコミュニケーションについて教えるので聞いてほしい」という場合に、コミュニケーションの説明を印刷物だけで行くと、一部の学習者はなかなか関心を持ってくれません。今日長崎先生がプレゼンテーションの中で「これは、何ですか」(発問)と聞いていました。その他に「これはこうです」(教授)という事実を伝えることが先生(プレゼンタ)の役割です。それに対して子供たちは「それはこうです」(お返し)と答えます。そうすると先生は再びこれに対して「よくできたね」、「すばらしい回答です」(KR: Knowledge of Results)と返します。この繰り返しが理想的なコミュニケーション(授業)といえます。しかし授業を行っても、後ろで紙飛行機が飛び交い、携帯でEメールをしている学生が中にはいます。例えば200名ぐらいの学生が受ける授業を行っている時には、後ろまで先生は目が行き届きませんね。先生が「携帯の音を消せ」(指示)と言えば学生はバイブレーションにしています。その結果あちこちの机がブルブル動きます。先生と学生のコミュニケーシ

ョンでは、先生の指示ばかりではなく、学生たちからの積極的なお返しが来るような問いかけを仕掛けたいのではないのでしょうか。そして学生へのKRは大変重要です。これを教育ではKR情報といいます。KRは、学習者から返ってきたことが正しいのか正しくないのかというをきちんと教えなくてはなりません。これを知的な情報といいます。

長崎先生の授業を何回も取り上げますが、先生は常に学習者を励ましています。「いいことだ」、「頑張れ」、「すごい、最高だ」と言っているのです。実はこれが大切なのです。また、高橋先生の班では参画型にし、聴き手からの「お返し」を受けています。これを3方向のコミュニケーションといいます。

今回皆さんは3方向のコミュニケーションの真ん中にメディア（教材・教具）を使いました。今日は板書がありました。他にはコンピューターを使ったり、ジャーナルを使ったりと、いろいろなメディアをうまく活用しました。メディアは、ある班が言いましたように、私たちと学習者をうまくつないでくれるための仲介をしてくれるものです。私たち教師へも教授法を助けてくれるし、学習者へも理解を助けてくれます。これを私たちはメディアと言います。パワー

ポイントも黒板もこれに当たります。パワーポイントは電子紙芝居的で後戻りが苦手です。次から次へと進みます。ですから、時間がなくなった時に大変苦労します。ところが、板書は学習者の意見を即取り入れ書くことができます。メディアにはそれぞれ長短があります。もう一点、注意していただきたいのは、パワーポイント等一つのメディアを15分以上使うと、学習者の意欲が逡減してきます。何故かと言いますと、私が話をしている時には、私と教材は一体化します。ところが、パワーポイントを行っているときには、私は端の方にいます。教材と私が離れてしまいます。そうしますと、学習者もパワーポイントばかりを見ているのです。そのため、パワーポイントを15分見せると、まるでテレビを視ている場面と同じ状態になっているということです。例えば私がパワーポイントで、画面の最初の部分を説明しているとしましょう。もし画面に全部提示してしまうと、ある学生は真ん中の辺りを読み、他の学生は最後の辺りを読んでしまいます。教育ではこれをマスキングといいます。提示の場合一つ一つ必要な場面を提示していく方法です。ところが今日発表されている班を見ると、幾つかの班はパワーポイントを最初の段階で全部見せてしまっているのです。全部見せると、説明している部分とは違う部分がある受講者は必ず見ているのです。

今、コミュニケーションの形態として4つのパターンを説明しましょう。先生が意図的に出したものを学習者が意図的にくみとってくれるパターンです。これが理想的です。ところが、コミュニケーションはいつも理想通りには行きません。例えば今日の先生の服装を聴き手は見たり、女性だとしたら女性の服装、イヤリングを見たり、指輪を見たり、いろいろなことを観察しているのです。それ以外に、私が一生懸命伝えようとしても学習者がなかなか受け取ってくれない一方向の授業もあります。また、お互いが関係ないものばかりを見て授業が終了するパターンもあります。実は、課題意識を持った理想的な学生ばかりであれば、不十分な教材・教具や寺子屋のような環境でも十分やっていけます。要するに、学習者は意欲を持って、どんなに暗い中でもどんなに見にくい本でも勉強します。

授業の必須条件  
- 3方向コミュニケーション -

- ・学生は、授業で発信（表現）する機会が少ない（教員主導の一方向）
- ・教員・学生間のコミュニケーションの重視  
教員の働きかけ  
学生のお返し  
K R (Knowledge of Results)情報  
教材
- ・学生は、教員の授業に対する意欲を肌（態度など非言語）で感じ取っている。

先生の話し方がおかしい、スピードが速い等も関係なく一生懸命勉強先生から学び取ろうと努めます。ところが今日の学生は、このような意識を持ってない学生も多々見受けられます。私たち教師は、見にくい印刷物で済ませるのではなく、ビデオやパワーポイントを使ったり、学習者が興味関心の持てる教材を作成しわかりやすい授業を心がけることが大切です。

今日は、工学部の先生が多いというのを聞き、私は非常に楽しみにしていたのですが、工学部、医学部は、基礎基本から、レンガを積み上げていく行動目標の学習形態が主流です。ところが、学生個々の持っている既有知識や技能(レディネス)はそれぞれ違います。今日も人文の先生、農学の先生、医学の先生、工学の先生、いろいろな先生がいらっしゃいました。このような場合「スキーマ」は先生毎に全部違うのです。ですから、スキーマに応じて「自分は関心があるな」というところに飛びつきます。例えば、私が高橋先生の講義中の発言で一番気に入ったのは、「マクルーハン」を応用しているところです。私のスキーマからは非常に印象的でした。それぞれ違うのです。この点ではレンガ積み上げ方式では達成できないものがあります。しかしレンガ積み上げ方式のいい点は多くあります。

先日、私は山大で学会を行いました。そのときに医学部の川崎先生が「医学部、工学部では、到達目標がはっきりしているから、やはり基礎基本の学力をつけるためにはレンガを積み重ねろ」と言われていました。これは、先生が指示伝授していく教授法がメインだという考えです。この考えに対して社会的構成主義は、問題解決能力、コミュニケーション能力、例えば授業を終えた後でいろいろと話をすることでお互いの理解を深め、個々での意欲、態度というものを育てたらどうかという考えです。学習者の主体的な発見をもっと見つけてみてはどうかという考えです。これが実は構成主義と行動主義の違いになります。行動主義では学習を一步一步進めていくイメージです。ある学習者にとっては、目標がとても高くてもどうしても上位段階に進むことが出来ないケースがあります。時々下位段階において指導するという先生もいらっしゃるかもしれませんが、結果は同じです。学習者を引っ張ろうとしています。それに対して構成主義は、生徒がいて、生徒がそれぞれ持つ、関心のスキーマに関連したものを用意して、それを獲得しながら大きくなっていくという方法です。例えば、足し算ができないと引き算を勉強できない。足し算、引き算を勉強してから掛け算、割り算をするのではなく、最初に学習者が関心を抱いたものが割り算だったらそれから勉強する。例えば「1個のリンゴを6等分するにはどうしたらいいだろう」といった場面に遭遇した学習者がいたとします。1個のリンゴを6等分するための知識を持ってなくても、自分でいろいろなことを勉強していきながら割り算の学習理論を勉強するという方法を文部科学省では「総合的な学習の時間」という学習を通して進めています。

資料の26、27ページに書いてありますが、国際協力事業団の派遣前研修の例があります。長期派遣専門家は、このプレゼンテーションに関する研修を受講しています。専門家の方々は非常に専門の知識を持っていらっしゃるのですが、任地に行ってもうまく技術移転できないケースが報告されています。現在、これがとても問題になっています。ですから、任地からのカウンターパートや、「あの専門家を変えてくれ」といったクレームがあります。それを改善するために国際協力事業団もこういった研修の機会を取り入れるようになりました。

27ページには日本の教育年譜が載っていますが、この教育年譜は、教育の流れが、知識を教え込むより、子供たちの持っている意欲を引き出しながら、先生がコーディネートをして学習を進めていくという方向にしていることを示しています。

私の一番励みになっているのは、小・中・高校の先生の研修に行ったときに、「大学の

先生も授業改善のために今一生懸命行っている」ということを言えることです。その結果小・中・高の先生も頑張ろうという気になってくれることです。小・中・高の先生は、「大学の先生は非常にレベルが高く、自分たちとは違う高貴なところで研究をし、教授法は問題にされない」という考えがありました。しかし大学の先生たちも、今一生懸命がんばっているということを知ると、すごい励みになるそうです。

今日は、工学部の先生がいらっしゃいますが、徳島大学では、学生のコミュニケーション能力を育てるための授業として、FD科目というのを開いています。私が集中講義で担当したのですが、その授業の風景を少しお見せいたします。さきほど徳島県の青色発光ダイオードを発明された中村さんの話が出ました。中村さんがいた会社が儲けたことで、研究開発支援費として徳島大学は随分潤っているそうです。

ではビデオをご覧ください。これはこの夏に行った2日間の授業です。今回のように1泊2日の授業ではございませんが、2日間の集中講義で今回のFDと同じことを行いました。徳島大学の工学部生物工学科の4回生に集中講義を行いました。内容は、山口大学の1回生、2回生を対象に自分の専門となる卒業研究について、かみ砕いてプレゼンテーションするというものです。

徳島大学は素晴らしい設備が整っています。また全学的にFD(授業改善)に取り組んでおります。学生は、インターネットで山口大学を調べ、どういう学科があるか、入試の科目は何かを調べていました。山口大学の学生は、何をどのようにすれば学生が食いついてくるだろうかと考え、秋吉台、フグ等、いろいろ調べていました。この部分は、先生方が昨日行った対象となる受講者を調べる内容にあたります。卒業研究が「ジーンズの染め方」の学生は、私服、ジーンズ、インジゴ等を並べています。そして、秋吉台、石灰、カルシウムをあげ、自分の研究を説明しようとしている学生もいました。連結法です。連結法でつくったフローの後に、学生同士がディスカッションをします。「これが少し難しいのでは」、「わかりにくい」、「山大の学生といっても、人文学部の学生にも解るようにしたほうがよいのでは」というような意見もでています。発表する人が学習する人の立場にならなくてはなりません。自分がその受講者の立場になって、研究テーマを難しく言うのではなく受講者にもっと夢を持って楽しめるようにということにつないでいってほしいと思います。

では発表しているところをご覧ください。

### (ビデオの声)

.....全部で20種類存在するアミノ酸がさまざまな組み合わせで結合したアミノ酸の誘導体がこのたんぱく質です。合成されたたんぱく質は、立体構造をとり、酵素としての機能や、コロイド数として.....

### 林(教育)

ここで重要なこと言っています。教材はパワーポイントでも、板書でも、OHPでも何でも考えてほしいのです。文字の大きさも十分考えていただきたいと思います。またそれぞれのプレゼンテーションを他者による評価を施している点です。。次に虫歯の例を挙げているものを見てください。

### (ビデオの声)

麻酔無しでは、虫歯を削る、親知らずを抜くということはとても考えられません。私



も歯を抜いたことがあるのですが、麻酔薬をかけていても少し痛みはありましたし、麻酔が切れたときには本当に痛いと感じました。麻酔薬のありがたみを実感します。なぜ麻酔薬をかけると痛みを感じないのか、……

### 林(教育)

これは虫歯から自分の卒論のテーマに引っ張っています。次にジーンズを取り上げたのにおもしろい例がありますので、それを御紹介しましょう。

### (ビデオの声)

これらすべてはインジゴと言われる独特の色を出す染料を使って染められていきます。実はこのインジゴに当たる日本独特のインジゴの成分があります。この日本独特のインジゴとはアイと呼ばれるもので、古来より日本人の暮らしに大変根付いています。明治8年にイギリスの科学者アルキントンが日本に来たときに、日本全国の至るところ、古来の日本人の大切な色を彩るアクセントとしてアイが使われていました。アイを布や糸に染めつけることを藍染といいますが、この藍染に使われる原料はアイグサと呼ばれる植物の葉です。この植物が日本の中で一番とれるのは、徳島です。徳島でとれるアイグサは特に(アワアイ)と呼ばれ大変有名です。そしてこの(アワアイ)がよくとれる理由としては、徳島の温暖な気候です。吉野川を背景として今でもたくさんつくられています。徳島の伝統工芸の一つとなっています。

ところで、アイの染色はどのように行われているのでしょうか。ジーンズの染色に使われているインジゴ、これは水に溶けません。水に溶けないということは、染色液にできないということです。インジゴを酵素の働きによって、水に溶けるロイコインジゴにします。ロイコインジゴにするには酵素が必要なのですが、酵素というものは、生物の体の中にかつくりられません。そして、この染色液中にも酵素を作り出す微生物が存在しています。この染色液はほとんど微生物は存在できないと考えられている高いアルカリ性液です。しかし、酵素があるということは、この中には特定の環境で検出することができる微生物がいると考えられます。

私の卒業論文のテーマ、藍染の生物工学的(コウテイ)の解析を行います。今でも染色が行われていますが、これを生物工学的観点から見て、藍染を行う極限環境微生物を観察します。この微生物を取り出してから酵素を作り出す遺伝子を検出します。この遺伝子をほかの微生物にクローリングして、酵素を大量生産することを実験します。これによって品質を落とすことなく、効率よく確実に藍染を行うことが可能になると考えています。

以上です。

### 林(教育)

今の学生は一生懸命このロイコインジゴから自分の研究を導き出しています。また、徳島、ジーンズと自分の研究の関連をうまく説明しています。受講者より非常に高い評価を得ました。

最後になりますが、これからの皆さん方の一つの課題として、結論を申し上げます。今回行ったFD研修に関しても、大学教育センターのスタッフの皆さんは効果的な研修について研究をされています。強制連結法がいいのか悪いのか、マイクロプレゼンがいいのか悪いのか、ずっと研究して、今回につないでいっているのです。ですから、研究の大切さを私も痛感します。

研究の一つのデータがあります。授業の時間経過と頭脳の記憶容量が書いてあります。これを少し見てください。FDが始まったころと、終わるころの様子です。授業で言えばもう90分のころにあたります。受講者の多くの皆さんが「早く終われ」と思っているようなタイプのグラフになっています。ところが、授業の最後に課題をおっしゃる先生がいるのです。小学校でも中学校でもいらっしゃいます。チャイムが鳴る直前に「次の時間までに宿題をこなさい」、「何ページから何ページまで訳しなさい」と言うと、次の時間に「先生、このようなことは全然聞いていません」と学習者に言われるようなミス・コミュニケーションが起こるのです。授業の終了時は、学習者はほとんど頭に入ってない状態と考えるべきでしょう。大学でも授業の最後に試験の範囲を出す先生がいます。ここでCUEを思い出していただきたいのです。今日の発表の中でも情緒的なキューがありました。これは長崎先生を思い出してください。情緒的CUEは、聞き手の意欲を刺激する合図、人を指名することで次に誰が当たるのかとときどきします。もう一つは知的CUEがあります。これはいろいろな教材・教具を切り変えて学習者に関心を持続させることです。沖先生が昨日授業でされたと思うのですが、黒板を使ったり、パワーポイントを使ったり、いろいろな教材を使いながら授業を進めていく、これが知的CUEです。プレゼンテーションでは、やはり聞き手が集中するかどうかで成否が決まります。例えば「これはどういうことなのですか」と質問があるのは、プレゼンテーションをきちんと聞いているからです。聞き手の集中力を持続させるプレゼンテーションを考えていただきたいと思います。プレゼンテーションの中にCUEをうまく入れると、関心が落ちそうになっていたグラフが少し持ち上がり、その時点で大事な学習のポイントを入れるのです。例えば今回で言えば、長崎先生の「松井を出すか出さないか」です。これをきっかけに少し持ち直して次の学習へ進むことができます。CUEに今日私たちが伝授したい内容をポイントに入れると、それをきっかけに「松井」から「グローバリズム」になるのです。CUEをいかに先生方が持っていかを考えなくてはなりません。小学校で一番やりやすいCUEは情緒的CUEであり、手をたたいたり、机をたたいたりすることです。寝そうになったら、バンと机をたたきます。これは情緒的CUEで、一時立ち上がりますが、再び落ち込みます。いつも机をたたいていると全然効き目がなくなってくるのが情緒的CUEの欠点です。私たち大学は知的CUEを活用しながら授業を進めていけば良いのではと思います。

今日私は後ろの方で拝聴させていただいた中で、非常に和気あいあいとやっているということを感じました。しかし「環境がよくない」、「宿泊研修の目的は」と言ったようにまだまだ主催者と受講者間での理想的なコミュニケーションには多くの課題があるのも事実です。しかし学部を超えた同僚間で話が出来るといった環境は多くの実を結ぶことは間違いありません。工学部の先生、医学部の先生、人文の先生とも今日お話をすることができました。学際ではありませんが、学部を飛び越していろいろな先生と一つの課題を通して話をする必要があります。

FDは、何か決め与えられたものを固定的・画一的に実施するのではなく、主催者・受講者間でお互いにコミュニケーションしながら作り上げていくものと考えます。今回行った連結法も先生たちのためではなく、学生のためにつくったものです。ですから、その辺を御理解いただきたいと思います。また、山口の学生さんは発信能力が十分ではありません。「発表するとよくないのでは」と思っている学生たちの意識改革を図るためにもコミュニケーションをとるためにも、今回のマイクロプレゼンテーションや連結法をご活用いただければと思います。

わからない点がございましたら、教育の林に御連絡いただければ、御協力させていただ

きますので、今後ともよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

### 司会(植村)

林先生からお話を伺いました。最後ですが、閉会の挨拶で、小嶋副学長からお話しを伺いたいと思います。

### 小嶋(副学長)

皆さん御苦労さまでした。丸本大学教育センター長が私用で帰られましたので、かわりまして一言ごあいさつ申し上げます。

今回、FD 研修会を行い、非常に具体的なプログラムだったなというのが実感としてあります。直接体験するのは私も実は初めてでした。これを受けた感想、私の反省等を少しお話しさせていただいてごあいさつにかえさせていただきたいと思います。

私は工学部に所属しておりますので、これまでの授業はどちらかといいますと、知識積み上げ式、行動主義的なことを、行っていました。そのような意識がなく、必然的に行動主義的な授業を行っていたのですが、教育の具体的な方法につきまして、一切教育を受けたことがありませんので、やはり自分の講義を振り返ってみると、自己満足の講義だったと思うのです。シラバスから始めまして講義のノートをつくる時も、学習者に対して考えることは、一応はしているのです。ところが、非常に個々の細かい点において学習者を意識するのですが、大きな講義を構成していくという全体の観点から見ますと、やはりそういう観点が検討不十分だったというように思います。

今回 20 分間のプレゼンテーションでしたが、実際には 90 分の授業になります。そうしますと今回の連結法では 1 枚の図でかけるような構造でも、もっと複雑になってくるのです。構成主義的なところもあれば、行動主義の要素も組み合わせさせて講義は形成されますが、やはりレディネスの認識についてもっと注意すべきだということを実感いたしました。

それぞれの講義中に、学生に対して「こんなこともわからないのか。」と言いたくなることも度々あります。これがひどくなりますと、「こうすることが学生のためなのだ。」と思ってしまうのです。これは講義実習という観点もありますが、研究の分野でも起こっています。研究を介した教育の一環としての教育活動が言えるのですが、先生の方は講義と研究を切り離して考えてしまう都合があります。教育の観点を持って、いかに自分の身を置くかということを考えなくてはなりません。

身につまされたことのある経験が私もあります。例えば試験のときに学生が非常に基本的な問題ができないということは皆さんも経験されていると思います。学生に対して講義の中でのふれあい、もっとレディネスの認識をしなくてはなりません。やはりギャップがあり、学生がわかっているつもりで話していたけれど、全然違うことを考えていたということが結果として出てきます。試験は学生の到達度を示すものでもありますが、教官にとっては少し怖い存在であると私自身感じております。非常に基本的なことが理解できてない場合ははっきりと「教え方が悪かった。」と頭を下げざるを得ないと考えております。私が今回参加させていただきまして、その一点だけでも非常にありがたかったと考えております。

忙しい中プログラムを用意していただきました大学教育センターの先生方、それを支えていただいたスタッフの方々に本当に感謝したいと思っています。

皆さん感じることは全部違うと思うのですが、一つでも二つでもこういうことを実践の

場に生かしたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。ありがとうございました。

**司会(植村)**

皆さん御苦労さまでした。最後であります。アンケートの記入をお願いします。帰りの諸注意を少しこちら側からいたしまして、解散になります。お疲れさまでした。



- 林徳治教授の全体講評の様子 -

# 研 修 会 資 料

# 研修会資料

イメージ・マッピングには

スキーマやイメージ、知識や概念を図示したり、カードに書いて並び替えるなどのイメージ・マッピングには、様々な手法が知られている。

それらは共通して、知識や概念を外化する作業であり、大きく分けて、次の2つの効果がある。

自分のスキーマや関連知識のネットワークをメタ化（対象化）して見ること、すなわちメタ認知（metacognition = 認知過程に対する認知）を促進すること

- 1) 自分の認知について知識を持つこと
- 2) 自分の認知過程の状態を把握すること
- 3) 自分の認知行動を制御すること。リフレクション（reflection）を行うこと
- 4) 自分の認知を構造化すること

個人の頭の中にあるアイディアを他者にもアクセスできる形にすること

- 個人の認知構造を視覚的に整理・表現することによって、容易に他者との視点の交換ができる。また、共通に理解している部分を確認し、異なる視点や理解に関して、より深い議論や協働作業を推進する。

よく用いられるイメージ・マッピングには、次のようなものがある。

概念地図法（concept mapping）

… Novak Gowin ら（米コーネル大、1984）

- 授業前後のレディネスの調査、授業展開（Fig.1）
- 新たな概念は、学習者の持つ概念に関連した認知構造（体系的な知識構造）の中に包摂される（Ausubel,1963）

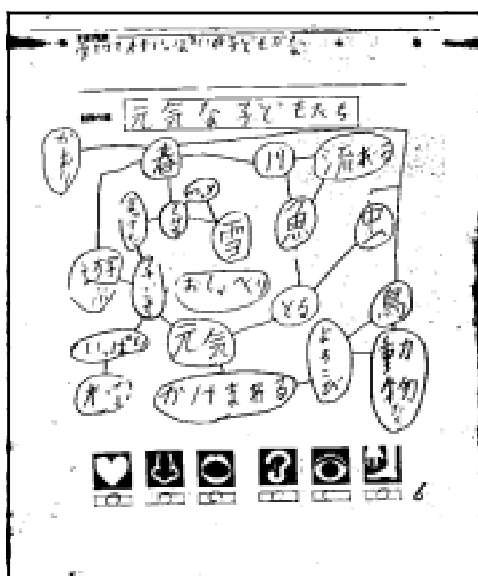


Fig.1 「静岡県磐田市大藤小学校の俳句の授業

（弓野憲一他、『概念地図法による国語学習の研究』、静岡大学教育学部附属教育実践研究指導センター 紀要、No.2、p.126、1993）

イメージ・マップ・テスト (image map test) ... 水越敏行 (大阪大、1978)

- 映像視聴能力測定、知識の修得過程の測定、問題解決学習
- 中央にキーワードを書き、そのキーワードから連想する言葉を内側の同心円上に書き、さらにその言葉から連想する言葉を外側の同心円上に書く。イメージ・マップ (IMT) 上に現れた言葉の総語数を流暢性、IMT 上の言葉のカテゴリ数を拡散性、言葉と言葉のつながりを構造的ななどとして分析する。( Fig.2 )

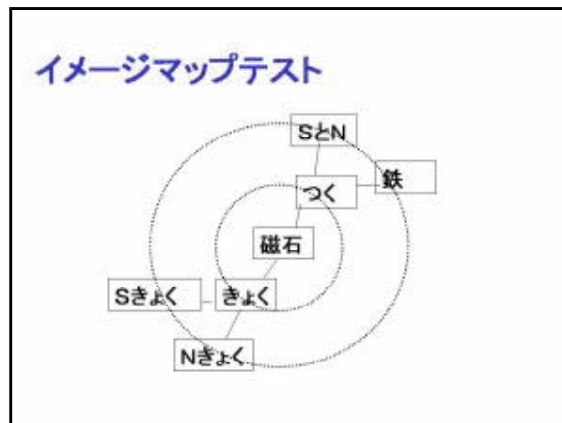


Fig.2 「イメージ・マップ・テストの例」

KJ法 ... 川喜田次郎 (東工大、1967)

- ブレーンストーミング、授業設計
- アイデアや意見、または各種の調査の現場から収集された雑多な情報を1枚ずつ小さなカード (紙キレ) に書き込み、それらのカードの中から近い感じのもの同士を2、3枚ずつ集めてグループ化していき、それらを小グループから中グループ、大グループへと組み立てて図解していきます。こうした作業の中から、テーマの解決に役立つヒントやひらめきを生み出していこうとするものである。

強制連結法 ... 林徳治 (山口大、2002)

- 学習者のレディネスの把握、授業設計
- 今までの授業はその科目の教えるべき内容から設計することが多かった。しかし、学習者のレディネスの変化に対応できず、結果として知識伝達の上でも十分な成果を上げられないことが多い。分かりやすい論理展開には学習者のレディネスへの配慮が不可欠であり、学習者のレディネスから出発する授業設計ができないか？
- 大学生の学力低下、新入生の履修歴の多様化、  
主題別科目・総合科目、高大連携、市民講座、総合的な学習の時間、etc.  
大学教員への要望・期待の増大

## 強制連結法による授業設計とは

学習者と学習目標を連結する。

学習目標に連なるスキーマ群（学習内容）に到達するよう、学習者のレディネスのスキーマ群から、論理構成に無理がないように中間スキーマ（授業展開）を配置する。

このとき、最終的には利用しないレディネスのスキーマがあってもよく、また、学習者のレディネスを考えて、今回は割愛する学習内容のスキーマがあっても良い。

中間のスキーマは、できるだけ展開がスムーズに行くよう学習者のレディネスや論理構成に注意して設定する。さまざまなリンクを辿り、学習内容に到達するよう考える必要がある。

また、リンクとそれにつながる次のスキーマは、単に連想からだけでなく、内容をより深く説明したり、例を挙げたり、反証をしたり、関係や類似を述べたりするものがふさわしい。

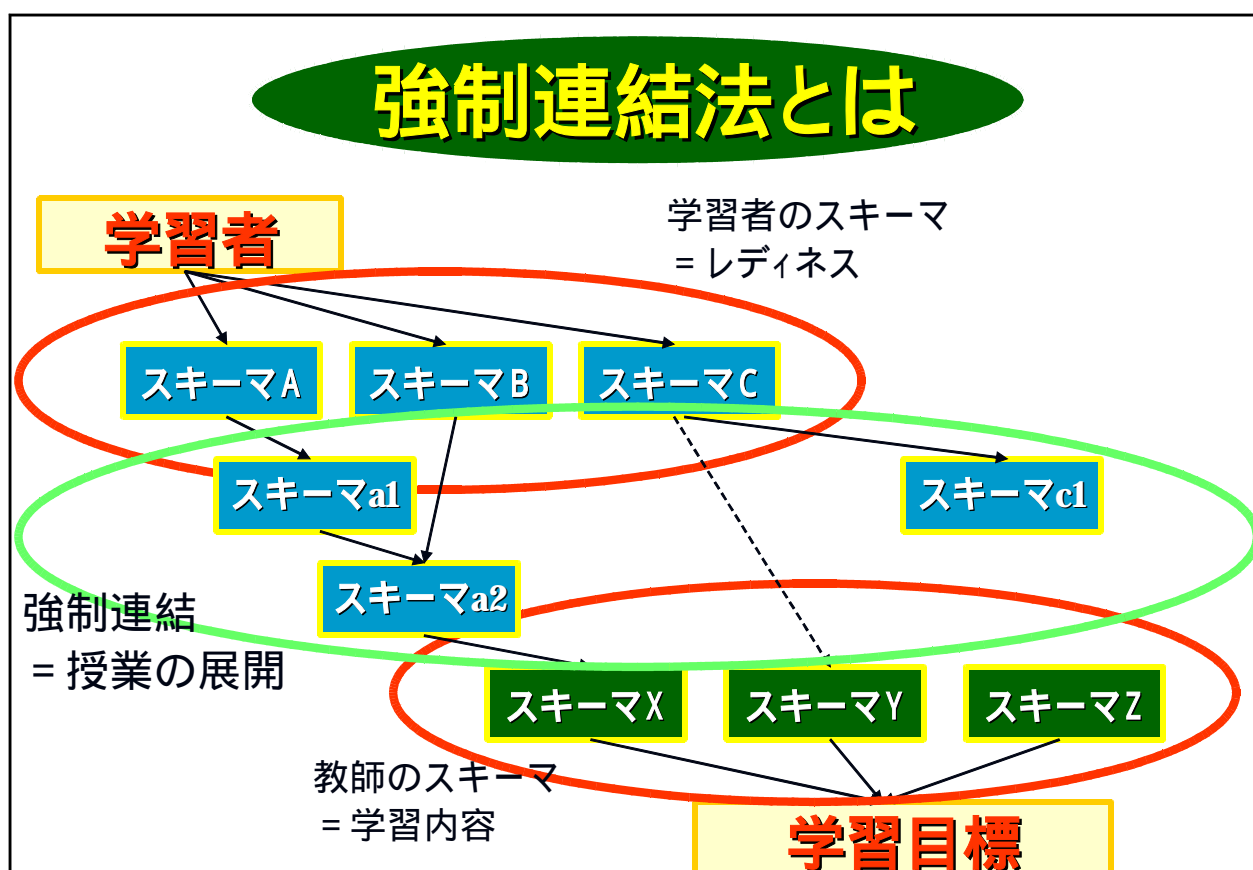


Fig.3 「強制連結法による授業設計のイメージ」



【講義例】

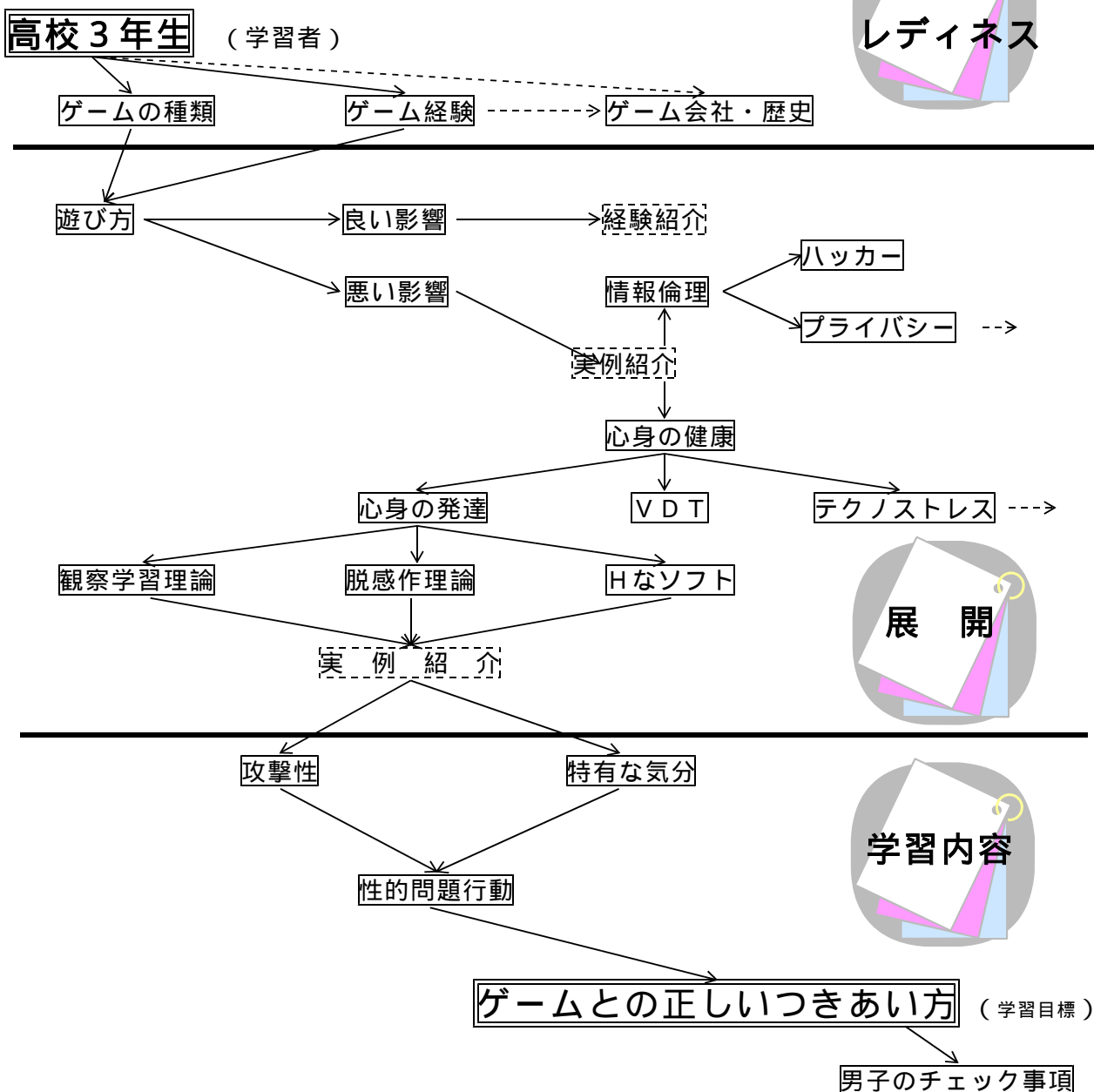
講義名：「仮想現実と性的問題行動」

学習目標：「コンピュータ・ゲームの悪影響、特に性行動に対する悪影響を理解させ、ゲームを正しく使う態度を育てる（50分授業、パワーポイント使用）」

講義対象：「高等学校3年生」

講義者：沖裕貴（山口大学）

強制連結法による授業設計（網掛けはパワーポイント使用、波線矢印は書く必要はないが、実際は脱線してしまった部分）



以上のイメージマップを元に、必要な授業資料（パワーポイント、配付資料、板書計画等）を準備し、大まかな話す順番を頭に入れ、授業を行う。

# 山口大学 FD 研修会 2002 資料

- わかる・楽しい授業をめざして -

山口大学 FD 委員 林 徳治

## 1. 授業の必須条件 - 3方向のコミュニケーション -

・ 授業で発信（表現）する機会が少ない（教員主導の一方向）

・ 教員・学生間のコミュニケーションの重視

教員の働きかけ

学生のお返し

KR（Knowledge of Results）情報

・ 学生は、教員の授業に対する意欲を肌（態度など非言語）で感じ取っている

+ 教材



## 2. 学力と情意・関心の組み合わせ - 行動主義 と 構成主義 -

・ 教員の既有スキーマ（schema）の伝授から学生の自発的知識・技能の獲得へ

・ 自己中（ジコチュウ）の講義になっていないか？（知識の出し惜しみ，学生を軽視）

## 3. 教員養成で必須の授業訓練学習

- マイクロティーチング（Microteaching, Stanford Univ., 1963） -

・ 学生の視点から考え行動する

・ 指導法の事前訓練

・ 相互評価（教員が評価される）

## 4. 伝達能力向上のための表現訓練

- マイクロプレゼンテーション（Micro-Presentation） -

・ 伝えたい内容を的確に伝え，学生に関心を持たせる技術

・ 「指示」，「投げかけ」の技術

・ 相互評価（教員が評価される）



5. 有用な授業技術改善の手法 - 強制連結法 -

- ・ 既存スキーマの把握（レディネス）
- ・ 新規スキーマの獲得に向けての問題解決能力育成（論理的思考能力：logical thinking）
- ・ 論理思考過程での批判的思考の育成（批判的思考能力：critical thinking）

学 生 側	教 員 側
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存スキーマの吐き出し</li> <li>・ 課題解決（論理的思考）能力</li> <li>・ 気づきや発見</li> <li>・ 既存スキーマの正当性の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存スキーマの把握（レディネス）</li> <li>・ 課題解決能力の確認</li> <li>・ 新しい考え方の発見</li> <li>・ 誤った知識・技能の把握</li> </ul>

6. 次段階の FD 研修 - 教材開発の技術研修と評価についての研修 -

- ・ テキスト，板書の講義からの脱皮
- ・ 各種メディアを利用した教材設計（例：パワーポイント，ホームページ作成研修）
- ・ 講義の開放（参観できる環境へ）
- ・ 相互評価の内容・方法の検討

評価の対象

	教 員 を	学 生 を
教 員 が	自己評価	学習評価
学 生 が	授業評価	自己学習診断
他者（公開）が	授業分析・評価	授業分析・評価

理想 ? 整合評価（ズレをなくす）

評価の方法（method）

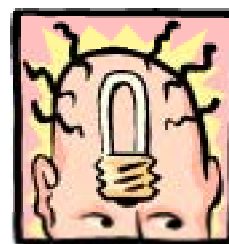
- ・ 総括的 …… 作品，レポート，テストなど
- ・ 形成的 …… ポートフォリオ\*（portfolio assessment），参加度（出席），小レポートなど

ポートフォリオ = 個々人の技能、考え、興味、業績に関する証拠を収める容器、Diane Hart

- ・ 絶対的評価と相対的評価

評価の内容（contents）

- ・ 学 力 ? 知識，技能
- ・ 関心度 ? 測定尺度
- ・ 充足度（有意義） ? 測定尺度



# マイクロティーチングとマイクロプレゼンテーション

## 1. マイクロティーチング

マイクロティーチングは、1963年、米国のスタンフォード大学で開発された教授技術訓練法で、教員養成と教師の再教育を目的とするものです。

実際の授業は、30人～40人の学習者を対象に、45分程度の時間を単位として行われますが、マイクロティーチングでは、実際の授業場面からある場面を抽出し、小さな規模で模擬的に実施します。そして、その過程を記録し、分析・評価することにより、授業の導入・展開・まとめ方、さらには教材の開発方法など、教授技術の習得と改善を目指します。

マイクロティーチングの特徴は、実際の授業のマイクロ化（縮小化）にあります。その特徴と方法を以下に示します。

### 授業のマイクロ化

時間の短縮（5分～10分）

授業内容の縮小（実際の授業内容から、授業の山場になる箇所など小単位の内容を抽出して行う）

生徒数の縮小（6人～8人）

があげられます。

### マイクロティーチングの方法

6～8人程度のグループを作り、教師役と生徒役を決める。

訓練として重点を置くべき課題を明確にする（教育メディアの利用方法や発問の仕方など）

指導案を作成する。

マイクロティーチングを行い、その過程を記録する（事後に分析・評価を行うため、VTRなどを利用して記録するとなお良い）

その場で評価を行うか、録画したVTRを視聴して、分析・評価を行う。

実際の授業に役立てるため、反省点を整理し、改善策を考える。

マイクロティーチングの計画・実施に当たって注意すべき点は、その訓練を通して習得・改善すべき内容を明確にすることです。たとえば、黒板、カード、OHPなど教育メディアの利用方法や効果的な発問の仕方など、課題を設定した上で計画し、それに即した分析・評価を行うことにより、改善点が明らかになります。また、教師役と生徒役を交代で行い、それぞれの役割になりきることで、学習者の反応や活動を推測し、どのように授業を展開すれば、期待する学習活動が実演できるかを検討することが重要です。

## 2. マイクロプレゼンテーション

プレゼンテーションの効果的な訓練法であるマイクロプレゼンテーションは、挙引用性訓練の一環として考案されたマイクロティーチングを参考に実用化されました。この訓練法は、実際のプレゼンテーションを行う前に、短いプレゼンテーションを計画・実施し、お互いに評価することによってプレゼンテーションの改善を図るものです。

マイクロプレゼンテーションの特徴として、以下の点を上げることができます。

プレゼンテーションの時間を実際のものより短くする（3分～5分）

プレゼンテーションの内容を絞り、明確化する。

聴き手は、5名～10名程度と小規模で行う。

プレゼンターと聴き手を交代して行う。

聴き手によるプレゼンターの評価を行う。

ビデオカメラなどで録画し、事後分析による自己評価を行う。

このように、規模を縮小して参加者全員がプレゼンテーションを計画・実施・評価する過程を体験することや、観点を具体化して、客観的な分析・評価を行うことにより、各自のプレゼンテーションを総合的に見直し、改善点を明確にすることができます。

（林徳治編著「情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術」、ぎょうせい、2000）

# 模擬講義評価アンケートより

# 各班の発表成績 ( 模擬講義事後アンケートより集約 )

研修会では、各班ごとにマイクロ・ティーチング( 模擬講義 )を行った後、学生授業評価アンケートを模した下記の評価アンケートを全員で行い、観点別に自らの班の模擬講義を振り返ると同時に、全体で慰労を兼ねて、優れた発表を行った班を表彰した。

## 授業評価アンケート

今回ご発表されたそれぞれの講義につきまして、本学で実施している学生授業評価アンケートの授業技術に関する設問にお答えください。

回答は、1～5の当てはまる数字を選んで、丸をつけてください。

1. 話し方は聞き取りやすかったですか？

1. 全くそうは思わない    2. 余りそうは思わない    3. どちらとも言えない  
4. ややそう思う            5. 強くそう思う

2. 教材やOHP、コンピュータなどのメディアなどが効果的に使われましたか？

1. 全くそうは思わない    2. 余りそうは思わない    3. どちらとも言えない  
4. ややそう思う            5. 強くそう思う

3. 理論や考え方、専門用語などがわかりやすく説明されましたか？

1. 全くそうは思わない    2. 余りそうは思わない    3. どちらとも言えない  
4. ややそう思う            5. 強くそう思う

4. 教員の身振りや手振り、目を見て話すなどの態度は適切でしたか？

1. 全くそうは思わない    2. 余りそうは思わない    3. どちらとも言えない  
4. ややそう思う            5. 強くそう思う

5. 講義の内容はあなたにとって有意義でしたか？

1. 全くそうは思わない    2. 余りそうは思わない    3. どちらとも言えない  
4. ややそう思う            5. 強くそう思う

ありがとうございました。

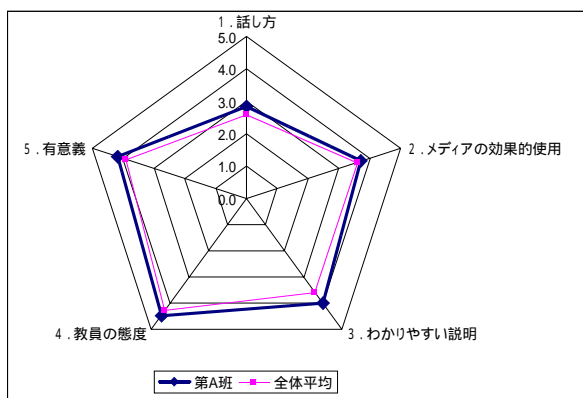
一つの講義が終わるごとに、係のものが回収いたしますので、お渡してください。

# 1. 8月1 / 2日実施分

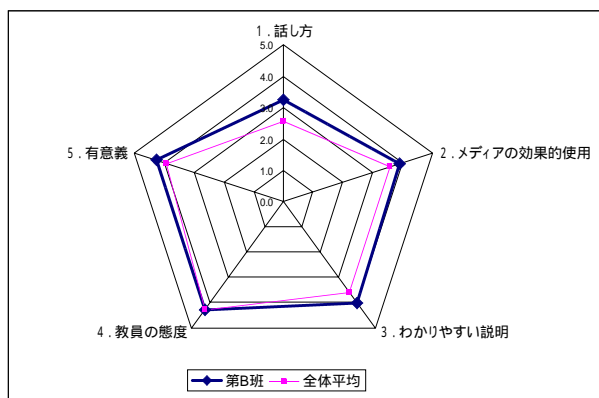
	1.話し方	2.メディアの効果的使用	3.わかりやすい説明	4.教員の態度	5.有意義	合計
第A班	2.9	3.7	4.0	4.4	4.1	19.1
第B班	3.3	3.9	4.0	4.3	4.3	19.6
第C班	3.0	3.7	4.0	4.4	4.1	19.3
第D班	3.4	4.0	4.3	4.4	4.3	20.4
第E班	2.7	3.3	3.7	4.2	3.7	17.5
第F班	2.5	3.0	1.0	4.0	3.3	13.8
第G班	1.0	3.7	4.0	4.2	3.8	16.7
第H班	1.9	3.3	3.7	4.2	3.7	16.7
全体平均	2.6	3.6	3.6	4.3	3.9	17.9

実際は第1班～第8班までありましたが、プライバシーの観点から第A班～第H班に変名してあります。

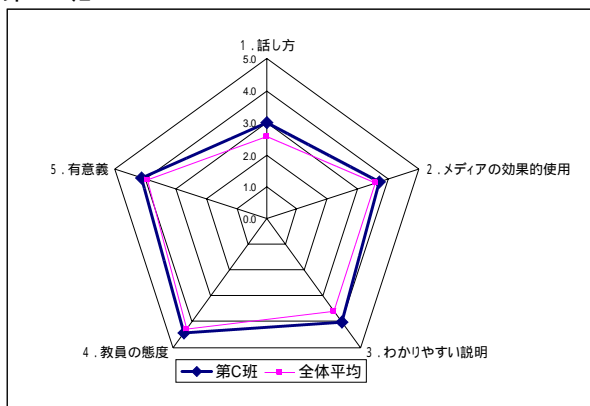
第A班



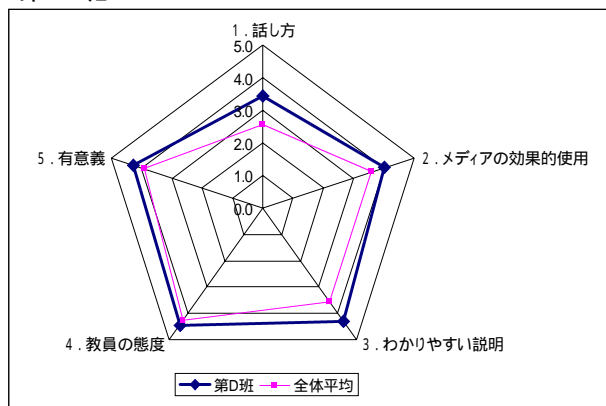
第B班



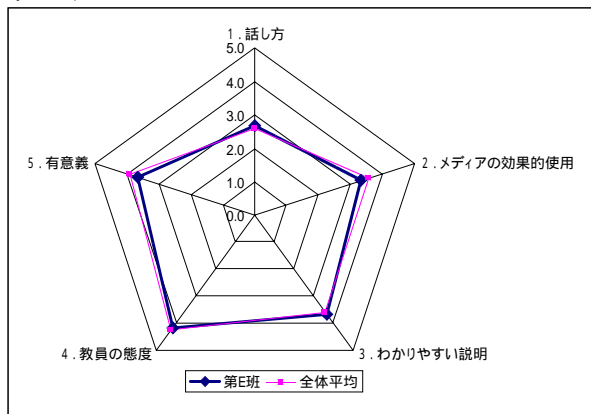
第C班



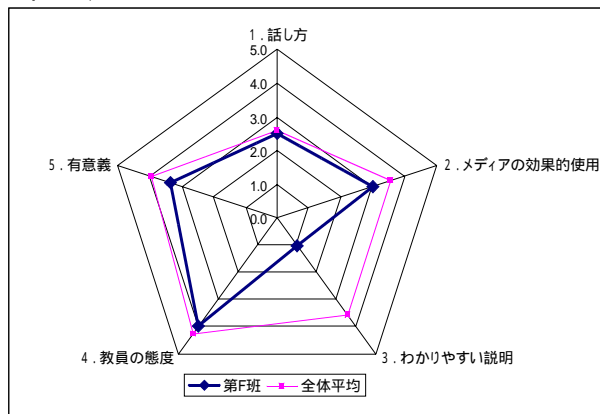
第D班



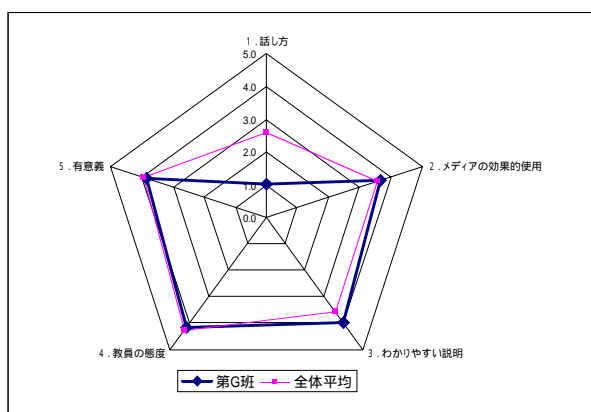
第E班



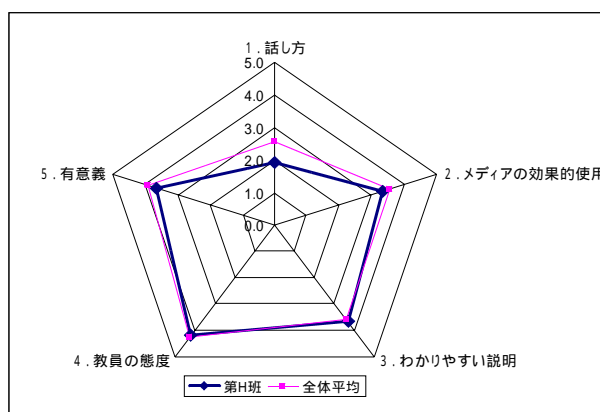
第F班



第G班



第H班



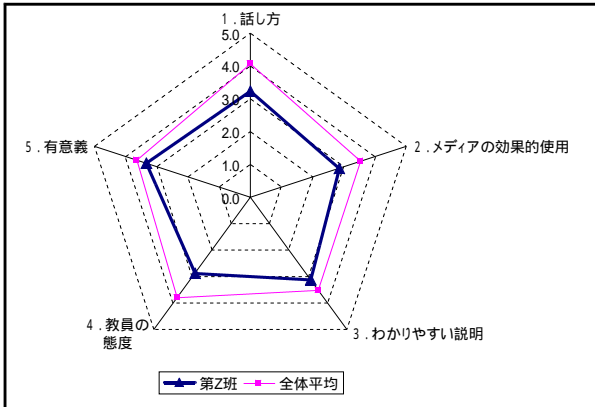
2. 9月24 / 25日実施分

	1.話し方	2.メディアの効果的使用	3.わかりやすい説明	4.教員の態度	5.有意義	合計
第Z班	3.2	2.8	3.1	2.9	3.3	15.4
第Y班	4.7	2.7	3.4	4.6	3.7	19.0
第X班	4.7	4.2	4.1	4.4	4.2	21.7
第W班	3.1	3.0	3.2	3.3	3.3	15.9
第V班	4.2	3.8	3.1	4.0	3.4	18.4
第U班	4.0	3.4	3.8	3.6	3.8	18.7
第T班	4.6	4.6	4.0	3.7	3.8	20.7
全体平均	4.1	3.5	3.5	3.8	3.6	18.5

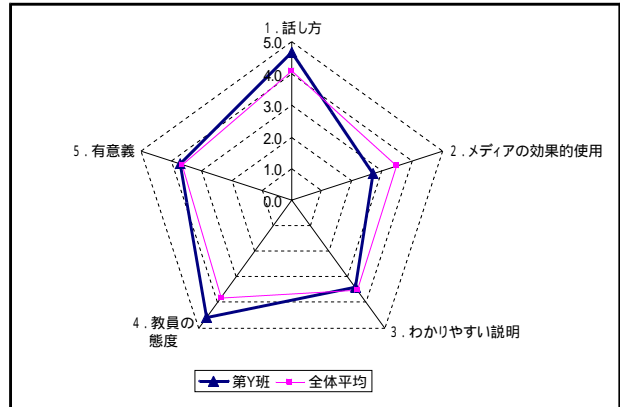
実際は第1班～第7班までありましたが、プライバシーの観点から第T班～第Z班に変名してあります。



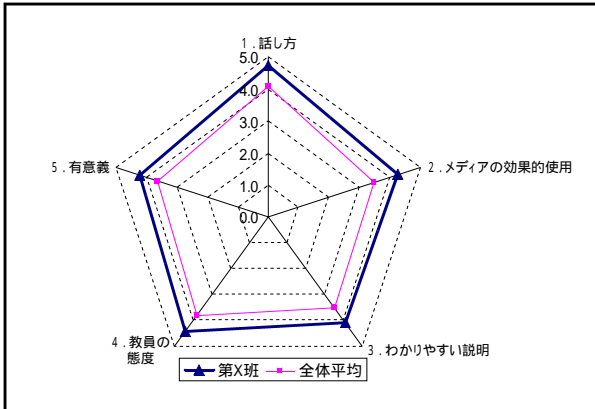
第Z班



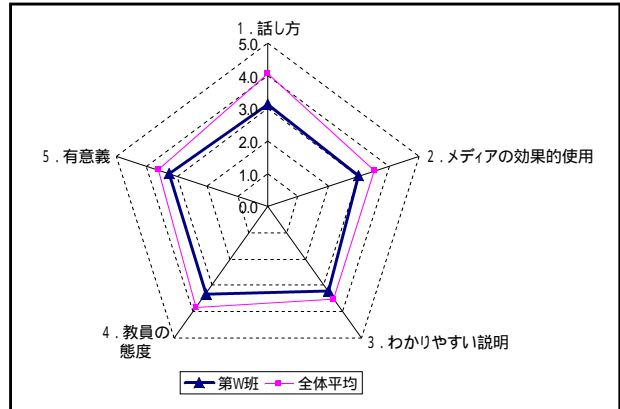
第Y班



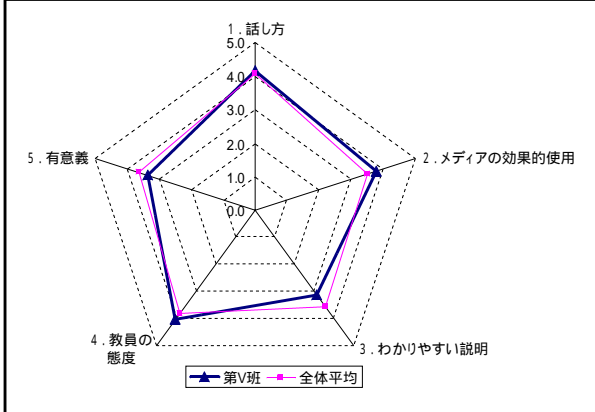
第X班



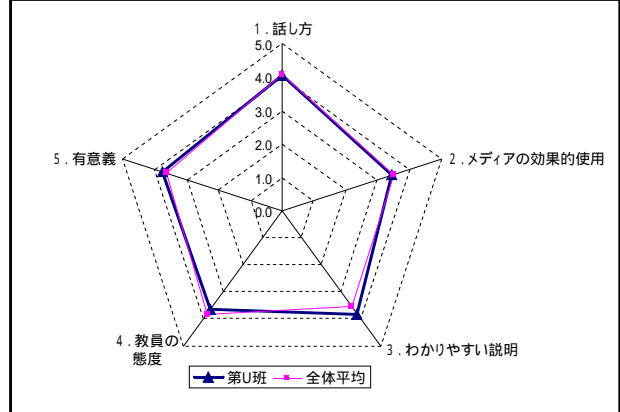
第W班



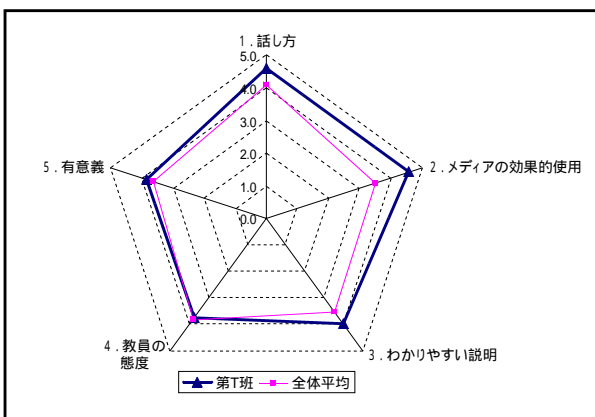
第V班



第U班



第T班



# F D 研修会アンケート結果

# 平成14年度 F D研修会アンケート結果

山口大学では、今後のF D研修会の参考にするため、毎回、研修会終了後に、受講者にアンケートをとっている。

以下は、そのアンケートと結果である。

## 平成14年度 山口大学F D研修会 アンケート

この2日間、本当にお疲れ様でした。

今後のF D研修会の参考にいたしたく存じますので、以下の設問にお答えくださいますようお願いいたします。

なお、回答は当てはまる数字を選んで、丸を付けてください。

1. 研修会に参加した感想はいかがでしたか？
  1. 非常に良かった
  2. 良かった
  3. どちらとも言えない
  4. 余り良くなかった
  5. 良くなかった
2. Faculty Development ( F D ) を知っていましたか？
  1. よく知っていた
  2. ある程度は知っていた
  3. 言葉は聞いたことがある
  4. 全く知らなかった
3. F Dに関する研修会は、今後も必要だと考えますか？
  1. 必要である
  2. 必要でない
  3. よく分からない
4. 実施時期および実施場所はいかがでしたか？

実施時期

  1. 良い
  2. 良くない

「2. 良くない」を付けられた方は、具体的にご希望があればお書きください。

{

実施場所

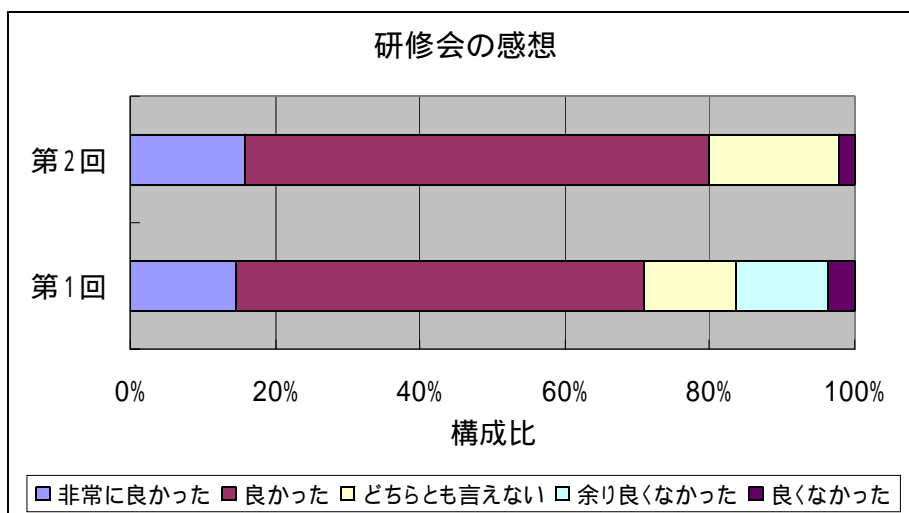
  1. 良い
  2. 良くない

「2. 良くない」を付けられた方は、具体的にご希望があればお書きください。

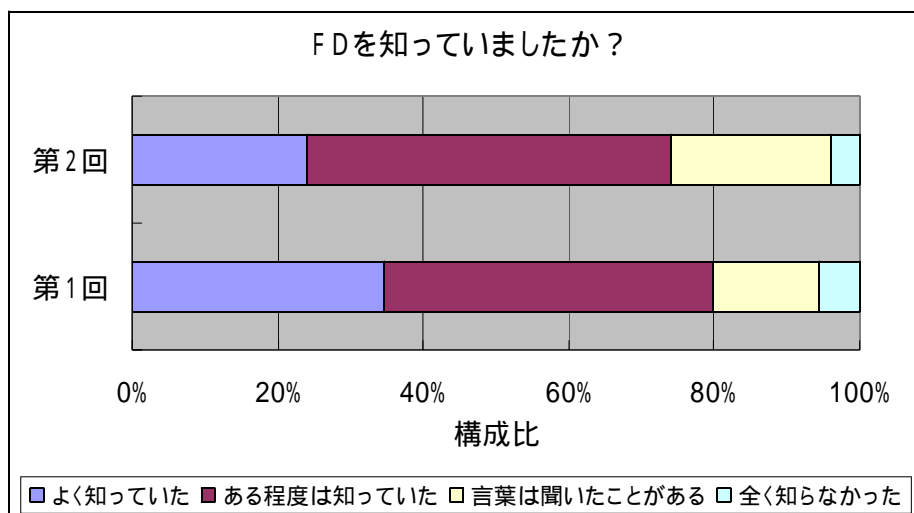
{
5. 今回のF Dについて、ご意見があればお聞かせください。

{

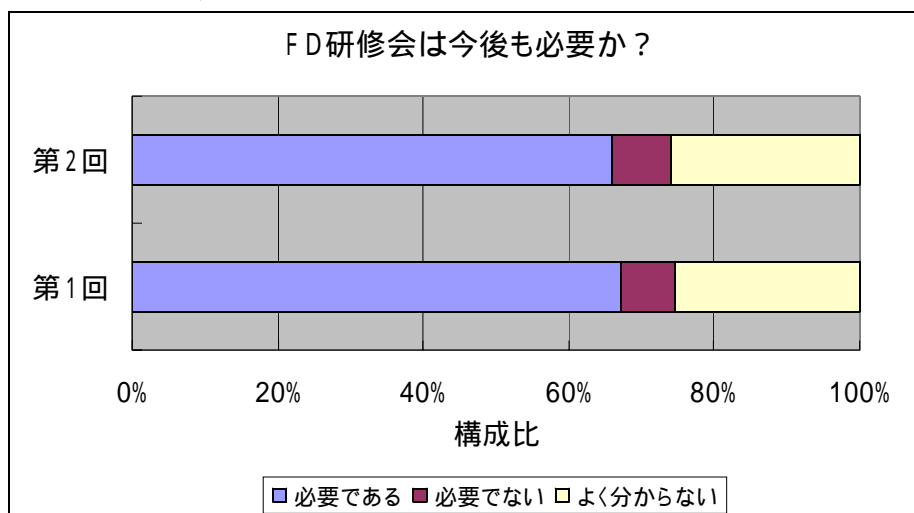
1. 研修会に参加した感想はいかがでしたか？



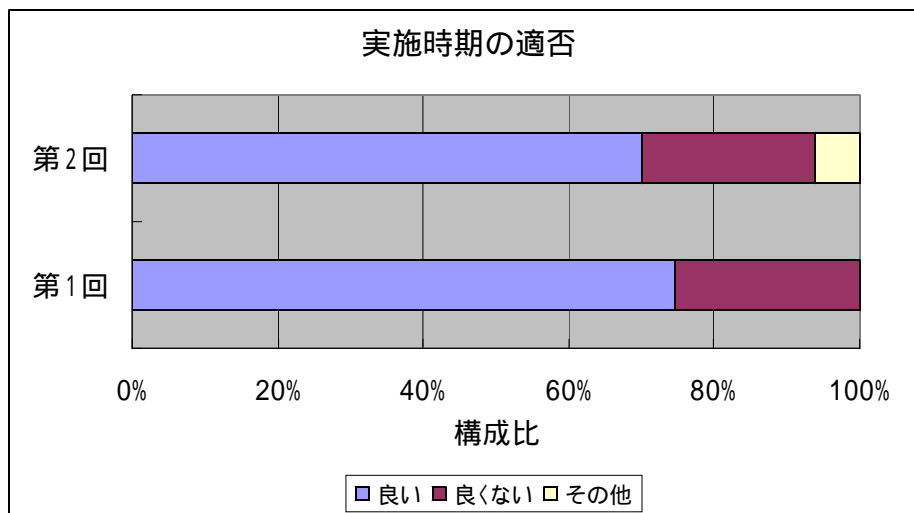
2. Faculty Development (FD) を知っていましたか？



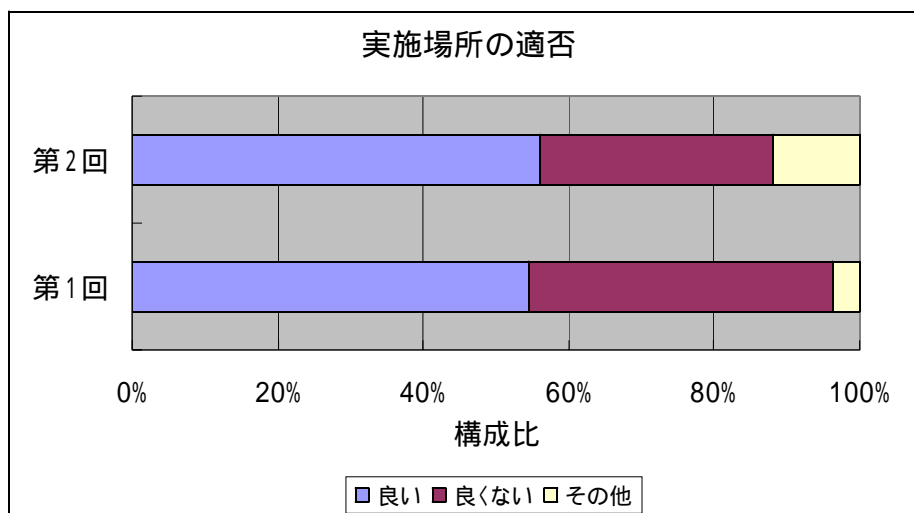
3. FDに関する研修会は、今後も必要だと思いますか？



4. 実施時期はいかがでしたか？



5. 実施場所はいかがでしたか？



## **F D研修会報告書**

平成14年3月発行

編集・発行 山口大学大学教育機構  
山口市大字吉田 1677 の1  
TEL (083)933-5150

印刷所